項目名	和訳結果(EU-RAR)	原文(EU-RAR)

# 1. 一般情報

1.01 物質情報

CAS番号	100-21-0	100-21-0
物質名(日本語名)		
		terephthalic acid
別名等	1,4-ベンゼンジカルボン酸	1,4-Benzenedicarboxylic acid
国内適用法令の番号		
国内適用法令物質名		
	テレフタル酸	Terephthalic acid
分子式	C8H6O4	C8H6O4
構造式 備考		
備考		

1.02 安全性情報収集計画書/報告書作成者に関する情報

	OECD HPV Programme, SIDS Dosier, approved at SIAM 12 (27-29 June 2001) http://www.oecd.org/dataoecd/31/1/33685007.pdf
代表者名	
所在地及び連絡先	
担当者氏名	
担当者連絡先(住所)	
担当者連絡先(電話番号)	
担当者連絡先(メールアドレス)	
報告書作成日	
備考	

## 1.03 カテゴリー評価

1.1 一般的な物質情報

物質のタイプ	有機化合物	有機化合物
物質の色・におい・形状等の情報		
物理的状態(20℃、1013hPa)	固体	固体
純度(重量/重量%)	> 99.9 - % w/w	> 99.9 - % w/w
出典 備考		
備考		

- 1.2 不純物
- 1.3 添加物

1.4 別名

111 231 [		
物質名-1	1,4-ベンゼンジカルボン酸	1,4-Benzenedicarboxylic acid
物質名-2	p-フタル酸	p-Phthalic acid
出典		
備者		

1.5 製造·輸入量

1.5 表起 刊八里		
	約17000 - 21000トン(1993年生産)	約17000 - 21000 tonnes produced in 1993
報告年 出典 備考		
出典		
	た。1993年には全世界の名目年間総生産能力は 17-21× 10 <sup>9</sup> kgと見積もられた。1993年の米国総生産は 3.8 - 4.8×10 <sup>9</sup> kg と見積もられた。	Total annual U.S. nameplate production capacity was estimated for 1997 at 1.3 million tonnes. Total annual worldwide nameplate production capacity was estimated to be 17–21 billion kg in 1993. Total U.S. production in 1993 was estimated to be 3.8 – 4.8 billion kg.

1.6 用途情報

_ 1.0 /11進旧和		
主な用途情報	非拡散的用途	非拡散的用途
工業的用途	化学工業:合成	化学工業:合成
用途分類		
出典		

備考	テレフタル酸は、主にポリエステル繊維、フィルム、ポリエチレ	Terephthalic acid is primarily used in the manufacture and
		production of polyester fibers, films, polyethylene
	チレンテレフタレートエンジニアリング樹脂の製造・生産に利用	terephthalate solid state resins, and polyethylene
	される。	terephthalate and polybutylene terephthalate engineering
		resins.
	主要なテレフタル酸の用途はポリエステル繊維である。ポリエ	Uses in Consumer Products:
	ステル繊維の最終製品には、消費者製品であるカーペット、衣	Polyester fibers accounts for a majority of terephthalic acid
	類、fill fibersの紡績糸、及び工業用の単繊維が含まれる可能	use. End products of polyester fiber may include yarns for
	性がある。	carpet, apparel, fill fibers for consumer products, and industrial
		filaments.
	ポリエチレンテレフタレート固体状樹脂は、2番目に主要な用途	Polyethylene terephthalate solid state resins are the next
	であり、主に食物・飲料のコンテイナーに使用される。	most common use and are used primarily for food and
		beverage containers.
	そのほかの用途として、写真用フィルム、磁気テープのベース	Remaining uses include polyester films, such as photographic
	などのポリエステルフィルム、また主に自動車部品に使用され	films and magnetic tape base, polyethylene terephthalate
	るまたポリエチレンテレフタレートエンジニアリング樹脂とポリブ	engineering resins, and polybutlyene terephthalate engineering
	チレンテレフタレートエンジニアリング樹脂がある。	resins used primarily in automobile parts. Also some
	テレフタル酸はジメチルテレフタレートへ変化する可能性もあ	terephthalic acid may be converted to dimethylterephthalate
	る。	
	•	

1.7 環境および人への暴露情報		
暴露に関する情報	テレフタル酸は 固体または融解物として製造される。連続法で製造するため、職業ばく露は限られている。 消費者ばく露は避けられない。食物や飲料のパッケージに使用されているポリエチレンテレフタレート中の極めて低濃度の残留テレフタル酸モノマーから消費者ばく露が生じる。	small number of large producers using continuous, enclosed processes, with limited occupational exposure. Consumer

1.8 追加情報 既存分類 職業暴露限界 廃棄方法 文献調査の範囲と日付 出典 備考 制限のタイプ: ACGIH 10 mg/m3 Type of limit: ACGIH 10 mg/m3

8-hour TLV

## 2. 物理化学的性状

8時間 TLV

_2.1 融点		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等 注釈 方法		
注釈		
方法		
GLP	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験条件		
結果		
融点: ℃	> 300°C	> 300°C
分解: ℃	不明	不明
昇華: ℃	不明	不明
結論		
注釈		
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer	Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer
	Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734	Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734
引用文献		
備者		

試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
<u>純度等</u> 注釈 方法		
注釈		
方法		
GLP	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験条件		
結果		
融点: ℃	402°C	402°C
分解: °C	不明	不明
昇華: ℃	不明	不明
結論		
注釈		
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		Anon (1988) Dangerous Properties of Industrial Materials
	Report 8, 68-71	Report 8, 68-71

引用文献		
引用文献 備考		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等		
注釈 方法		
方法		
GLP	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験条件		
結果		
融点: °C	425°C	425°C
分解: ℃	不明	不明
昇華: ℃	不明	不明
<u>結論</u> 注釈		
注釈	密封した管の中で測定した。	Measured in sealed tube.
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	ICI Chemicals & Polymers Limited Product Safety Data: Pure	ICI Chemicals & Polymers Limited Product Safety Data: Pure
	Terephthalic Acid Jan 1991	Terephthalic Acid Jan 1991
引用文献		
備考		

## 2.2 沸点

2.3 密度(比重)

<u>2.3 密度(比重)</u>		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等 注釈		
注釈		
方法	方法: DIN 5314	Method: DIN 5314
	タイプ: バルク密度	Type: bulk density
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
試験条件 結果	1.12 g/cm³	1.12 g/cm³
タイプ	バルク密度	バルク密度
温度(℃)		
注釈		
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	ICI Chemicals & Polymers Limited Product Safety Data: Pure	ICI Chemicals & Polymers Limited Product Safety Data: Pure
	Terephthalic Acid Jan 1991	Terephthalic Acid Jan 1991
引用文献		
備考		

試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等		
注釈		
注釈 方法	方法: その他	Method: other
	タイプ: 密度	Type: density
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果	1.5 g/cm³	1.5 g/cm³
タイプ	密度	密度
温度(℃)		
注釈		
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	ICI Chemicals & Polymers Limited Product Safety Data: Pure	ICI Chemicals & Polymers Limited Product Safety Data: Pure
	Terephthalic Acid Jan 1991	Terephthalic Acid Jan 1991
引用文献		
備者		

試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等		
注釈		
方法		Method: other
	タイプ: 密度	Type: density
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
試験条件結果	1.51 g/cm³	1.51 g/cm³
タイプ	密度	密度
温度(℃)		
温度(℃) 注釈		

/= # 사 ㅋ ㅋ ㅋ	で記れてアノナギナン	28年1 アルドル
信頼性スコア	選択してください 選択してください	選択してください  選択してください
信頼性の判断根拠	送(NO CV/CCV・	送がしてください。
出典	Anon (1988) Dangerous Properties of Industrial Materials	Anon (1988) Dangerous Properties of Industrial Materials
	Report 8, 68-71	Report 8, 68-71
引用文献		
備考		
2.4 蒸気圧		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等		
注釈		
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年 試験条件		
結果		
蒸気圧	0.000000003 hPa	0.000000003 hPa
温度: ℃	20°C	20°C
分解: ℃	不明	不明
結論		
注釈	250~427℃の間の温度で測定した水蒸気圧から外挿した値	Value extrapolated from vapor pressures measured at
/=+= \dagger	N22 LT11 ( 1 % \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	temperatures between 250 and 427 degrees C.
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
<u>信頼性の判断依拠</u> 出典	Daubert, Danner, (1983) Data Compilation Tables of Properties	Daubert, Danner. (1983) Data Compilation Tables of Properties
	of Pure Comp., AICHE/DIPPR	of Pure Comp., AICHE/DIPPR
引用文献		
備考		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等		
注釈		
方法 GLP	不明	  不明
試験を行った年	11-91	מייין
試験条件		
結果		
蒸気圧	0.00000000003 hPa	0.0000000003 hPa
温度: ℃	20 °C	20 °C
分解: ℃	不明	不明
A+=A		
<u>結論</u> 注釈		
注朳		extrapolated
		翌中レデノださい
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性スコア		選択してください 選択してください
	選択してください	選択してください 選択してください Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典	選択してください 選択してください	選択してください
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献	選択してください 選択してください Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic	選択してください Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典	選択してください 選択してください Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic	選択してください Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考	選択してください 選択してください Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名	選択してください 選択してください Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号	選択してください 選択してください Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等	選択してください 選択してください Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号	選択してください 選択してください Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注財	選択してください 選択してください Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年	選択してください 選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  テレフタル酸 100-21-0	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 方法 GLP 試験を行った年 試験条件	選択してください 選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  テレフタル酸 100-21-0	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 経度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験条件	選択してください 選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  テレフタル酸 100-21-0  不明	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0  不明
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 方法 GLP 試験を行った年 試験を作った年 試験を作	選択してください 選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  テレフタル酸 100-21-0  不明  0.00001586 hPa	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0  不明  0.00001586 hPa
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験を行った年 試験集集 蒸気圧 温度: °C	選択してください 選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  テレフタル酸 100-21-0  不明  0.00001586 hPa 25°C	選択してください Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0  不明  0.00001586 hPa 25°C
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 方法 GLP 試験を行った年 試験を作った年 試験を作	選択してください 選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  テレフタル酸 100-21-0  不明  0.00001586 hPa	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0  不明  0.00001586 hPa
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験条件 結果 蒸気圧 温度: ℃ 分解: ℃	選択してください 選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  テレフタル酸 100-21-0  不明  0.00001586 hPa 25°C	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0  不明  0.00001586 hPa 25°C
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験を行った年 試験集集 蒸気圧 温度: °C	選択してください 選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  テレフタル酸 100-21-0  不明  0.00001586 hPa 25°C	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0  不明  0.00001586 hPa 25°C
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験条件 結果 蒸気圧 温度: ℃ 分解: ℃	選択してください  Werschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  プレフタル酸 100-21-0  不明  O.00001586 hPa 25℃ 不明  MPBPWIN model, v 1.40による見積り値 選択してください	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0  不明  0.00001586 hPa 25°C 不明  Estimated value using MPBPWIN model, v 1.40 選択してください
信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験条件 結果 蒸気圧 温度: ℃ 分解: ℃	選択してください 選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  プレフタル酸 100-21-0  不明  0.00001586 hPa 25°C 不明  MPBPWIN model, v 1.40による見積り値	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0  不明  0.00001586 hPa 25°C 不明  Estimated value using MPBPWIN model, v 1.40
信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 G試験を行った年 試験条件 結果 蒸気圧 温度: ℃ 分解: ℃	選択してください 選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  プレフタル酸 100-21-0  不明  O.00001586 hPa 25°C 不明  MPBPWIN model, v 1.40による見積り値 選択してください 選択してください	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0  不明  の.00001586 hPa 25°C  不明  Estimated value using MPBPWIN model, v 1.40 選択してください 選択してください
信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験条件 結果 蒸気圧 温度: ℃ 分解: ℃	選択してください  Werschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  プレフタル酸 100-21-0  不明  の.00001586 hPa 25°C 不明  MPBPWIN model, v 1.40による見積り値 選択してください 選択してください  Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0  不明  の.00001586 hPa 25°C 不明  Estimated value using MPBPWIN model, v 1.40 選択してください 選択してください  Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report
信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験を作 結果 蒸気圧 温度: °C 分解: °C 結論 注釈 信頼性の判断根拠 出典	選択してください 選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  プレフタル酸 100-21-0  不明  O.00001586 hPa 25°C 不明  MPBPWIN model, v 1.40による見積り値 選択してください 選択してください	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0  不明  の.00001586 hPa 25°C  不明  Estimated value using MPBPWIN model, v 1.40 選択してください 選択してください
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 経度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験を保 結集 蒸気圧 温度: °C 分解: °C 結論 注釈 信頼性の判断根拠 引用文献	選択してください  Werschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  プレフタル酸 100-21-0  不明  の.00001586 hPa 25°C 不明  MPBPWIN model, v 1.40による見積り値 選択してください 選択してください  Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0  不明  の.00001586 hPa 25°C 不明  Estimated value using MPBPWIN model, v 1.40 選択してください 選択してください  Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report
信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験を作 結果 蒸気圧 温度: °C 分解: °C 結論 注釈 信頼性の判断根拠 出典	選択してください  Werschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  プレフタル酸 100-21-0  不明  の.00001586 hPa 25°C 不明  MPBPWIN model, v 1.40による見積り値 選択してください 選択してください  Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0  不明  の.00001586 hPa 25°C 不明  Estimated value using MPBPWIN model, v 1.40 選択してください 選択してください  Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report
信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験条件 結果 蒸気圧 温度: ℃ 分解: ℃ 結論 注釈 信頼性スコア 信頼性スコア 信頼性スコア	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  プレフタル酸 100-21-0  不明  O.00001586 hPa 25°C 不明  MPBPWIN model, v 1.40による見積り値 選択してください 選択してください Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report 1988	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0  不明  の.00001586 hPa 25°C  不明  Estimated value using MPBPWIN model, v 1.40 選択してください 選択してください Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report 1988
信頼性の判断根拠  引用文献 備考  試験物質名  CAS番号  純度等  注釈  方法  GL験を行った年  試験条件  結果  蒸度: °C  分解: °C  結論 注釈 信頼性スコア  信頼性の判断根拠  引用文献 備考  試験物質名	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  プレフタル酸 100-21-0  不明  MPBPWIN model, v 1.40による見積り値 選択してください 選択してください  Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report 1988	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0  不明  の.00001586 hPa 25°C 不明  Estimated value using MPBPWIN model, v 1.40 選択してください 選択してください  メアロン スタース スタース スタース スタース スタース スタース スタース スター
信頼性の判断根拠  引用文献 備考  試験物質名  CAS番号  純度等 注釈 方法 GLP 行った年 試験条件 結果 蒸気圧 温度: ℃ 分解: ℃ 分解: ℃ 結論 注釈 信頼性の判断根拠  引用文献 備考  試験物質名	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  プレフタル酸 100-21-0  不明  O.00001586 hPa 25°C 不明  MPBPWIN model, v 1.40による見積り値 選択してください 選択してください Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report 1988	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0  不明  の.00001586 hPa 25°C  不明  Estimated value using MPBPWIN model, v 1.40 選択してください 選択してください Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report 1988
信頼性の判断根拠  引用文献 備考  試験物質名  CAS番号  純度等  注釈  方法  GL験を行った年  試験条件  結果  蒸度: °C  分解: °C  結論 注釈 信頼性スコア  信頼性の判断根拠  引用文献 備考  試験物質名	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  プレフタル酸 100-21-0  不明  MPBPWIN model, v 1.40による見積り値 選択してください 選択してください  Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report 1988	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0  不明  の.00001586 hPa 25°C 不明  Estimated value using MPBPWIN model, v 1.40 選択してください 選択してください  メアロン スタース はいましています。 Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report 1988  terephthalic acid
信頼性の判断根拠  引用文献 備考  試験物番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験を作 結果 蒸気度: ℃ 分解: ℃ 結論 注釈 信頼性スコア	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  プレフタル酸 100-21-0  不明  MPBPWIN model, v 1.40による見積り値 選択してください 選択してください Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report 1988  プレフタル酸 100-21-0	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0  不明  0.00001586 hPa 25°C 不明  Estimated value using MPBPWIN model, v 1.40 選択してください 選択してください  Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report 1988  terephthalic acid 100-21-0
信頼性の判断根拠 引用文献 備考  試験物番号 純度等 注釈 方法 GL験を作 結果 蒸度 に ° C 分解: ° C 結論 注釈 信頼性スコア 信頼性の判断根拠 引用文献 備考 試験物番号 に頼性スコア 信頼性の判断根拠 引用文献 備考 試験物番号 に対験物番号 に対験物番号	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  プレフタル酸 100-21-0  不明  MPBPWIN model, v 1.40による見積り値 選択してください 選択してください  Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report 1988	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0  不明  の.00001586 hPa 25°C 不明  Estimated value using MPBPWIN model, v 1.40 選択してください 選択してください  メアロン スタース はいましています。 Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report 1988  terephthalic acid
信頼性の判断根拠 引用文献  諸験物質名 CAS番号  純度等 注決  注入  注入  注入  注入  注入  注入  注入  注入  注入	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  プレフタル酸 100-21-0  不明  MPBPWIN model, v 1.40による見積り値 選択してください 選択してください Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report 1988  プレフタル酸 100-21-0	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0  不明  0.00001586 hPa 25°C 不明  Estimated value using MPBPWIN model, v 1.40 選択してください 選択してください  Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report 1988  terephthalic acid 100-21-0
信頼性の判断根拠 引用文献 備考  試験物番号 純度等 注釈 方法 GL験を作 結果 蒸度 に ° C 分解: ° C 結論 注釈 信頼性スコア 信頼性の判断根拠 引用文献 備考 試験物番号 に頼性スコア 信頼性の判断根拠 引用文献 備考 試験物番号 に対験物番号 に対験物番号	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  プレフタル酸 100-21-0  不明  MPBPWIN model, v 1.40による見積り値 選択してください 選択してください Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report 1988  プレフタル酸 100-21-0	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  terephthalic acid 100-21-0  不明  0.00001586 hPa 25°C 不明  Estimated value using MPBPWIN model, v 1.40 選択してください 選択してください  Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report 1988  terephthalic acid 100-21-0

蒸気圧 		
温度: °C	1.33 hPa	1.33 hPa
	78°C	78°C
分解: °C	不明	不明
結論		
注釈		
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	West RC. (1969) CRC Handbook of Chemistry and Physics	West RC. (1969) CRC Handbook of Chemistry and Physics
	50th Edn CRC Press Inc. Cleveland Ohio	50th Edn CRC Press Inc. Cleveland Ohio
引用文献		
備考		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等		
注釈		
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		
蒸気圧	13 hPa	13 hPa
温度: ℃	304°C	304°C
分解: °C	不明	不明
結論		
注釈		
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	ICI Chemicals & Polymers Limited Product Safety Data: Pure	ICI Chemicals & Polymers Limited Product Safety Data: Pure
	Terephthalic Acid Jan 1991	Terephthalic Acid Jan 1991
引用文献		
備考		
	·	
2.5 分配係数(log Kow)		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等		
注釈		
方法	分配係数: オクタノール - 水	Partition Coeff.: octanol-water
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験を行った年 試験条件		
結果		
Log Kow	log Pow = 1.16	log Pow: = 1.16
温度: °C		
結論		
注釈		
<u>///\</u>		選択してください
信頼性スコア	選択してください	
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性スコア 信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
信頼性スコア	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典	選択してください	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory terephthalic acid
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸 100-21-0	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory terephthalic acid
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory terephthalic acid
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸 100-21-0	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  terephthalic acid 100-21-0
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  terephthalic acid 100-21-0 Partition Coeff.: octanol-water
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験条件	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  terephthalic acid 100-21-0 Partition Coeff.: octanol-water
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験条件	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  terephthalic acid 100-21-0 Partition Coeff.: octanol-water
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験条件 結果 Log Kow	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  terephthalic acid 100-21-0 Partition Coeff.: octanol-water
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験条件	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  プレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水 不明	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  terephthalic acid 100-21-0  Partition Coeff.: octanol-water 不明
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験を作った年 試験条件	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  プレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水 不明	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  terephthalic acid 100-21-0  Partition Coeff.: octanol-water 不明
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験を介った年 試験を件 結果 Log Kow 温度: ℃	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水 不明  log Pow = 1.19	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  terephthalic acid 100-21-0  Partition Coeff.: octanol-water 不明  log Pow: = 1.19
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験条件 結果 Log Kow 温度: °C	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水 不明  log Pow = 1.19	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  terephthalic acid 100-21-0  Partition Coeff.: octanol-water 不明  log Pow: = 1.19  選択してください
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注 決 方法 GLP 試験を行った年 試験条件 結果 Log Kow 温度: °C 結論 注 釈 信頼性スコア	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水 不明  log Pow = 1.19	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  terephthalic acid 100-21-0  Partition Coeff.: octanol-water 不明  log Pow: = 1.19
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験条件 結果 Log Kow 温度: °C 結論 注釈 信頼性スコア	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水 不明  log Pow = 1.19  選択してください 選択してください	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  terephthalic acid 100-21-0  Partition Coeff.: octanol-water 不明  log Pow: = 1.19  選択してください 選択してください
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注 決 方法 GLP 試験を行った年 試験条件 結果 Log Kow 温度: °C 結論 注 釈 信頼性スコア	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水 不明  log Pow = 1.19  選択してください 選択してください  Leo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  terephthalic acid 100-21-0  Partition Coeff.: octanol-water 不明  log Pow: = 1.19  選択してください 選択してください Leo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験条件 結果 Log Kow 温度: °C 結論 注釈 信頼性スコア	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水 不明  log Pow = 1.19  選択してください 選択してください	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  terephthalic acid 100-21-0  Partition Coeff.: octanol-water 不明  log Pow: = 1.19  選択してください 選択してください
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験条件 結果 Log Kow 温度: ℃ 結論 注釈 信頼性スコア 信頼性スコア 信頼性スコア	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水 不明  log Pow = 1.19  選択してください 選択してください  Leo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  terephthalic acid 100-21-0  Partition Coeff.: octanol-water 不明  log Pow: = 1.19  選択してください 選択してください Leo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験を行った年 試験条件 結果 Log Kow 温論 に度: ℃ 結注釈 信頼性の判断根拠 出典	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水 不明  log Pow = 1.19  選択してください 選択してください  Leo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  terephthalic acid 100-21-0  Partition Coeff.: octanol-water 不明  log Pow: = 1.19  選択してください 選択してください Leo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験を作った年 試験条件 結果 Log Kow 温度: ℃ 結論 注釈 信頼性スコア 信頼性スコア 信頼性スコア	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水 不明  log Pow = 1.19  選択してください 選択してください  Leo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log	選択してください Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  terephthalic acid 100-21-0  Partition Coeff.: octanol-water 不明  log Pow: = 1.19  選択してください 選択してください Leo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注対 法 方は の は は な の は は な な に な な な な に な な な な な な な な な な	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水 不明  log Pow = 1.19  選択してください 選択してください  Leo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log P valves for structures in EPA files.	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  terephthalic acid 100-21-0  Partition Coeff.: octanol-water 不明  log Pow: = 1.19  選択してください 選択してください  Leo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log P valves for structures in EPA files.
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験条件 結果 Log Kow 温度: °C 結論 注釈 信頼性スコア 信頼性スコア 信頼性の判断根拠 引用文献 備考	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  プレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水 不明  log Pow = 1.19  選択してください 選択してください  Leo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log P valves for structures in EPA files.	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  terephthalic acid 100-21-0  Partition Coeff.: octanol-water 不明  log Pow: = 1.19  選択してください 選択してください  Leo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log P valves for structures in EPA files.
信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験条件 結果 Log Kow 温度: °C 結論 注釈 信頼性スコア 信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水 不明  log Pow = 1.19  選択してください 選択してください  Leo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log P valves for structures in EPA files.	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  terephthalic acid 100-21-0  Partition Coeff.: octanol-water 不明  log Pow: = 1.19  選択してください 選択してください  Leo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log P valves for structures in EPA files.
信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試試験を行った年 試試験を付った年 試試験を件 結果 Log Kow 温度: ℃ 結論 上の度 Kow 温度: ℃ 結論 は現 つ判断根拠 出典 引用文献 備考	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  プレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水 不明  log Pow = 1.19  選択してください 選択してください  Leo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log P valves for structures in EPA files.	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  terephthalic acid 100-21-0  Partition Coeff.: octanol-water 不明  log Pow: = 1.19  選択してください 選択してください  Leo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log P valves for structures in EPA files.
信頼性の判断根拠  「信頼性の判断根拠  「明文献 備考  「開文献 情考  「訓験物質名  「CAS番号  「経験を行った年  「試験を行った年  「試験を作るは、  「はいます。  「はいます。 「はいまする。」 「はいます。 「はいます。 「はいまする。」 「はいます。 「はいまする。」 「はいます	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水 不明  log Pow = 1.19  選択してください 選択してください  Leo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log P valves for structures in EPA files.  テレフタル酸 100-21-0	選択してください  terephthalic acid 100-21-0  Partition Coeff.: octanol-water 不明  log Pow: = 1.19  選択してください 選択してください  とeo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log P valves for structures in EPA files.  terephthalic acid 100-21-0
信頼性の判断根拠  引用文献 備考  試験物質名  CAS番号  純度等  注決表  GLP  試験を行った年  試験条件  結果  Log Kow  温度: °C  結論 注釈 信頼性の判断根拠  引用文献  信頼性の判断根拠  引用文献  の 当前条  に放験を答  にないる。  はは歌のでは、  はないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水 不明  log Pow = 1.19  選択してください  選択してください  Leo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log P valves for structures in EPA files.  テレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水	選択してください  terephthalic acid 100-21-0  Partition Coeff.: octanol-water 不明  log Pow: = 1.19  選択してください 選択してください とeo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log P valves for structures in EPA files.  terephthalic acid 100-21-0  Partition Coeff.: octanol-water
信頼性の判断根拠  「信頼性の判断根拠  「明文献 備考  「開文献 情考  「訓験物質名  「CAS番号  「経験を行った年  「試験を行った年  「試験を作るは、  「はいます。  「はいます。 「はいまする。」 「はいます。 「はいます。 「はいまする。」 「はいます。 「はいまする。」 「はいます	選択してください  Church C. Unpublished analysis Zeneca Brixham Environmental Laboratory  テレフタル酸 100-21-0  分配係数: オクタノール - 水 不明  log Pow = 1.19  選択してください 選択してください  Leo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log P valves for structures in EPA files.  テレフタル酸 100-21-0	選択してください  terephthalic acid 100-21-0  Partition Coeff.: octanol-water 不明  log Pow: = 1.19  選択してください 選択してください  とeo AJ. (1978) Report on the calculation of octanol/water log P valves for structures in EPA files.  terephthalic acid 100-21-0

SH用文献			
接来	試験条件		
温度 で 25°C 25°C 25°C 25°C 25°C 25°C 25°C 25°C			
温度 で 25°C 25°C 25°C 25°C 25°C 25°C 25°C 25°C		log Pow = 1.25	log Pow: = 1.25
語論	温度: °C		
注釈			
議権でスター 選択してださい 選択してださい 選択してださい 選択してださい 選択してがらない は			
議院して付きたい 出典 Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed. 1		選択してください	選択してください
接触性の判断を認		選択してください	選択してください
世典 Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed. 1	信頼性の判断根拠		
日東文献 1 日本 1 日		Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic	Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic
議務物質名 「テレフタル酸   terephthalic acid 「CAS番号   100・21・0		Chemicals, 3rd Ed.	Chemicals, 3rd Ed.
議務物質名 「テレフタル酸   terephthalic acid 「CAS番号   100・21・0	引用文献	1	1
議験物質名 プレフタル酸 terephthalic acid CAS番号 100-21-0			·
(A 5番号 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 75法	, and		
(A 5番号 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 75法	討騇物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
議議等			
接触 分配係数: オクタノール・水 Partition Coeff: octanol-water		100-21-0	100-21-0
方法 分配係数: オクタノール - 水 Partition Coeff: octanol-water  GLP 不明 不明 不明 不明 不明	 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		
「正学を行うた年」 「記録を行うた年」 「記録を行うた年」 「記録を行うた年」 「記録を行うた年」 「記録を行うた年」 「記録を行うた年」 「温度: "C			D-+:: O#
試験を行った年 活象を作 結果 Log Kow log Pow = 1.96 log Pow = 2 l			
試験を件		1 ・ 明	小明
語及 log Pow = 1,96 l	試験を行った年		
Log Kow   log Pow: = 1.96	試験条件		
温度: "C			
語論 注釈 選択してください 選択してください 選択してください 選択してください に		log Pow = 1.96	log Pow: = 1.96
注釈 選択してください ここ	温度: ℃		
選択してください   図書   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日			
選択してください 選択してください 選択してください 出典  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed. 3	注釈		
選輯性の判断根拠  世典	信頼性スコア	選択してください	選択してください
出典 Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.		選択してください	選択してください
Chemicals, 3rd Ed. 引用文献 2 (備考	信頼性の判断根拠		
□ 日本	出典		
議考    試験物質名   テレフタル酸   terephthalic acid     CAS番号   100-21-0   100-21-0     施度等		Chemicals, 3rd Ed.	Chemicals, 3rd Ed.
は験物質名 CAS番号 100-21-0 100-21-0 100-21-0  純度等 注釈 方法: その他 (実測) 分配係数: オクタノール - 水	引用文献	2	2
CAS番号 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 21-0	備考		
CAS番号 100-21-0 100-21-0 100-21-0 100-21-0 21-0			
<ul> <li>純度等</li> <li>注釈</li> <li>方法・その他 (実測)</li> <li>分配係数: オクタノール - 水</li> <li>品験を行った年</li> <li>試験を行った年</li> <li>試験条件</li> <li>結果</li> <li>Log Kow</li> <li>温度: ℃</li> <li>器論</li> <li>注釈</li> <li>信頼性スコア</li> <li>選択してください</li> <li>選択してください</li> <li>選択してください</li> <li>選択してください</li> <li>選択してください</li> <li>選択してください</li> <li>選択してください</li> <li>選択してください</li> <li>とならい</li> <li>に続いてくたさい</li> <li>とならい</li> <li>に動性の判断根拠</li> <li>とならい</li> <li>とない</li> <li>とない<td>試験物質名</td><td>テレフタル酸</td><td>terephthalic acid</td></li></ul>	試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
<ul> <li>純度等</li> <li>注釈</li> <li>方法・その他 (実測)</li> <li>分配係数: オクタノール - 水</li> <li>品験を行った年</li> <li>試験を行った年</li> <li>試験条件</li> <li>結果</li> <li>Log Kow</li> <li>温度: ℃</li> <li>器論</li> <li>注釈</li> <li>信頼性スコア</li> <li>選択してください</li> <li>選択してください</li> <li>選択してください</li> <li>選択してください</li> <li>選択してください</li> <li>選択してください</li> <li>選択してください</li> <li>選択してください</li> <li>とならい</li> <li>に続いてくたさい</li> <li>とならい</li> <li>に動性の判断根拠</li> <li>とならい</li> <li>とない</li> <li>とない<td>CAS番号</td><td>100-21-0</td><td>100-21-0</td></li></ul>	CAS番号	100-21-0	100-21-0
接続 方法: その他 (実測)			
方法 方法: その他 (実測)	注釈		
分配係数: オクタノール - 水		方法: その他 (実測)	Method: other (measured)
GLP 不明 不明 不明 不明 不明   試験条件   結果   Log Kow			
試験を作った年 試験条件  結果 Log Kow log Pow = 2 log Pow: = 2 温度: °C 結論 注釈 信頼性スコア 選択してください 選択してください 選択してください 選択してください 選択してください 選択してください という という という という という はいけい はいけい はいけい はいけい はいけい はいけい はいけい はい	CI D		
試験条件 結果 Log Kow 温度: °C 結論 注釈 信頼性スコア 選択してください 選択してください 選択してください 選択してください 選択してください の というのでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、		11-93	رود
結果 Log Kow log Pow = 2 log Pow: = 2	計略タル		
Log Kow log Pow = 2 log Pow: = 2 log Pow: = 2	<u> </u>		
温度: °C 結論 注釈 信頼性スコア 選択してください 選択してください 選択してください 選択してください 選択してください 選択してください の では、		log Pow = 2	log Dows = 2
結論 注釈 信頼性スコア 選択してください の というには、		log I OW - Z	IOS I OW Z
注釈 信頼性スコア 選択してください  は中  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in: Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry Data base.  Hansch, Leo, Hoekman. (1995) Exploring QSAR, American Chemical Society  引用文献			
信頼性スコア 選択してください の			
選択してください  信頼性の判断根拠 出典  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in: Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry Data base.  Hansch, Leo, Hoekman. (1995) Exploring QSAR, American Chemical Society  引用文献  選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in: Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry base.  Hansch, Leo, Hoekman. (1995) Exploring QSAR, American Chemical Society	/エイバ		
信頼性の判断根拠 出典  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in: Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry Data base.  Hansch, Leo, Hoekman. (1995) Exploring QSAR, American Chemical Society  Pl用文献		選択してください	選択してください
出典Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in: Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry Data base.Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in: Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry Data base.Hansch, Leo, Hoekman. (1995) Exploring QSAR, American Chemical SocietyHansch, Leo, Hoekman. (1995) Exploring QSAR, American Chemical Society		選択してください	選択してください
Chemicals, 3rd Ed.  Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in: Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry Data base.  Hansch, Leo, Hoekman. (1995) Exploring QSAR, American Chemical Society  G]用文献	信頼性スコア	選択してください 選択してください	選択してください 選択してください
Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in: Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry Data base.  Hansch, Leo, Hoekman. (1995) Exploring QSAR, American Chemical Society  Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in: Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry base.  Hansch, Leo, Hoekman. (1995) Exploring QSAR, American Chemical Society	信頼性スコア	選択してください	選択してください
Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry Data base.  Hansch, Leo, Hoekman. (1995) Exploring QSAR, American Chemical Society  日用文献	信頼性スコア	選択してください Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic	選択してください Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic
Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry Data base.  Hansch, Leo, Hoekman. (1995) Exploring QSAR, American Chemical Society  日用文献	信頼性スコア	選択してください Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic	選択してください Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic
base.  Hansch, Leo, Hoekman. (1995) Exploring QSAR, American Chemical Society  日用文献  Base.  Hansch, Leo, Hoekman. (1995) Exploring QSAR, American Chemical Society	信頼性スコア	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.
Hansch, Leo, Hoekman. (1995) Exploring QSAR, American Chemical Society  Hansch, Leo, Hoekman. (1995) Exploring QSAR, American Chemical Society  日用文献	信頼性スコア	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in:	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in:
Chemical Society   Chemical Society     引用文献   Image: Chemical Society	信頼性スコア	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in: Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry Data	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in: Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry Data
Chemical Society   Chemical Society     引用文献   Image: Chemical Society	信頼性スコア	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in: Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry Data	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in: Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry Data
引用文献 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	信頼性スコア	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in: Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry Database.	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in: Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry Data base.
	信頼性スコア	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in: Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry Database.  Hansch, Leo, Hoekman. (1995) Exploring QSAR, American	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in: Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry Database.  Hansch, Leo, Hoekman. (1995) Exploring QSAR, American
	信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in: Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry Database.  Hansch, Leo, Hoekman. (1995) Exploring QSAR, American	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in: Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry Database.  Hansch, Leo, Hoekman. (1995) Exploring QSAR, American
備考	信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in: Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry Database.  Hansch, Leo, Hoekman. (1995) Exploring QSAR, American	選択してください  Verschueren Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd Ed.  Chan, Hansch: Pomona College (unpublished); 2 cited in: Hansch, Leo (1985): Pomona College Medicinal Chemistry Database.  Hansch, Leo, Hoekman. (1995) Exploring QSAR, American

2.6.1 水溶解性(解離定数を含む)

2.0.1 小浴胜性(胜離正数を含む)		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等		
注釈 方法		
方法	水に対する溶解度	Solubility in: Water
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		
水溶解度	15 mg/l	Value: = 15 mg/l
温度: ℃	10°C	10 degree C
pH		
pH測定時の物質濃度		
結論	不溶	not soluble
注釈		
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	ICI Chemicals & Polymers Limited Product Safety Data: Pure	ICI Chemicals & Polymers Limited Product Safety Data: Pure
	Terephthalic Acid Jan 1991	Terephthalic Acid Jan 1991
	Arizona Database	Arizona Database
引用文献		

備考	複数文献有り	複数有り
解離定数		
試験物質 同一性		
方法		
温度: ℃ GLP	選択してください	選択してください
試験条件 試験を行った年		
▋結果		
結論 注釈		
信頼性スコア	選択してください 選択してください	選択してください 選択してください
信頼性の判断根拠	ZEWYO C VICEV	E NO CHEC
出典 引用文献		
備考		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号 純度等	100-21-0	100-21-0
注釈 方法	水に対する溶解度	Solubility in: Water
GLP	不明	不明
試験を行った年 試験条件		
<b>■結果</b>	10 //	10 (1
水溶解度 温度: ℃	19 mg/l 25°C	19 mg/l 25°C
pH pH測定時の物質濃度		
結論	不溶	not soluble
注釈信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠 出典	Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer	Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer
<b>司</b> 田立共	Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734	Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734
引用文献 備考		
<b>解離定数</b>		
試験物質	テレフタル酸	terephthalic acid
試験物質 同一性	テレフタル酸 100-21-0	terephthalic acid 100-21-0
試験物質 同一性 方法 温度: °C	100-21-0 25°C	100-21-0 25°C
試験物質 同一性 方法 温度: °C GLP 試験条件	100-21-0	100-21-0
試験物質 同一性 方法 温度: °C GLP 試験条件 試験を行った年	100-21-0 25°C 不明	100-21-0 25°C 不明
試験物質 同一性 方法 温度: ℃ GLP 試験条件 試験を行った年 結果 結論	100-21-0 25°C	100-21-0 25°C
試験物質 同一性 方法 温度: °C GLP 試験条件 試験を行った年 結果	100-21-0 25°C 不明 pKa: 3.52	100-21-0 25°C 不明 pKa: 3.52
試験物質 同一性 方法 温度: °C GLP 試験条件 試験を行った年 結果 結論 注釈 信頼性スコア	100-21-0 25°C 不明	100-21-0 25°C 不明
試験物質 同一性 方法 温度: °C GLP 試験条件 試験を行った年 結果 結果	100-21-0 25°C 不明 pKa: 3.52  選択してください 選択してください Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer
試験物質 同一性 方法 温度: °C GLP 試験条件 試験を行った年 結果 結課 信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典	100-21-0 25°C 不明 pKa: 3.52 選択してください 選択してください	100-21-0 25°C 不明 pKa: 3.52 選択してください 選択してください
試験物質 同一性 方法 温度: °C GLE 受ける 試験を件 試験を行った年 結果 結論 注釈 信頼性スコア	100-21-0 25°C 不明 pKa: 3.52  選択してください 選択してください Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer
試験物質 同一性 方法 温度: °C GLP 試験条件 試験を行った年 結果 経論 注釈 信頼性スコア 信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734
試験物質 同一性 方法 温度: °C GLP 試験条件 試験を行った年 結果 結論 信頼性スコア 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考	100-21-0 25°C 不明 pKa: 3.52  選択してください 選択してください Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734
試験物質 同一性 方法 温度: °C GLP 試験条件 試験を行った年 結果 結論 注積 性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度駅	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734
試験物質 同一性 方法 温度 CGLP 試験条件 試験を行った年 結果 結論 に有類性の判断根拠 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734
試験物質 同一性 方法 温度 CGLP 試験条件 試験を行った年 結果 結論 に有類性の判断根拠 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法	100-21-0 25°C 不明 pKa: 3.52 選択してください 選択してください Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  テレフタル酸 100-21-0	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  terephthalic acid 100-21-0
試験物質 同一性 方法 温度: °C GLP 試験条件 試験を行った年 結論 注釈 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 講験物質名 CAS番号 純度等 方法 GLP 試験を行った年	100-21-0 25°C 不明 pKa: 3.52 選択してください 選択してください Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  テレフタル酸 100-21-0	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  terephthalic acid 100-21-0
試験物質 同一性 方法 温度: °C GLP 試験条件 試験を行った年 結課 信頼性の判断根拠 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 GLP 試験条件 試験条件	100-21-0 25°C 不明 pKa: 3.52 選択してください 選択してください Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  テレフタル酸 100-21-0	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  terephthalic acid 100-21-0
試験物質 同一性 方法 温度P 試験条件 試験を行った年 結課 結論 信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験を行った年 試験を行った年 試験を行った年 試験をで行った年 試験を作	100-21-0 25°C 不明 pKa: 3.52 選択してください 選択してください Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  テレフタル酸 100-21-0	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  terephthalic acid 100-21-0
試験物質 同一性 方法 温度: °C GLP 試験条件 試験を行った年 結論 注釈 信頼性の判断根拠 引用文献 構 試験物質名 CAS番号 純度等 注方法 GLP 試験を行った年 試験を行った年 試験を行った年 試験を行った年 試験を行った年 試験を行った年 は関連を行った年 は対験を行った年 は対象を行ったを行った。 は対象を行ったを行った。 は対象を行る は対象を行る は対象を行る は対象を行る は対象を は対象を は対象を は対象を は対象を は対象を は対象を は対象を	100-21-0 25°C 不明 pKa: 3.52 選択してください 選択してください Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  テレフタル酸 100-21-0	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  terephthalic acid 100-21-0
試験物質 同一性 方法 温度: °C GLP 試験条件 試験を行った年 結論 注信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験を行った年 試験を行った年 試験を作 結果 水溶解度 温度: °C pH pH測定時の物質濃度	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  テレフタル酸 100-21-0  選択してください	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  terephthalic acid 100-21-0  選択してください
試験物質 同一性 方法 温度: °C GLP 試験条件 試験を行った年 結論 注信頼性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CASE等 注釈 方法 GLP 試験を行った年 試験を行った年 試験を育った年 試験を作 結果 水溶解度 温度: °C pH pH測定時の物質濃度 結論 注釈 信頼性の判断根拠	25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  デレフタル酸 100-21-0  選択してください	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  terephthalic acid 100-21-0  選択してください
試験物質 同一性 方法 温度: °C GLP 試験条件 試験を行った年 結論 注釈 信頼性の判断根拠 引用文献 備考  式験物質名 CAS等 に発表等 注釈 方法 GLP 試験を作った年 試験条件 は素素 に変解度 温度: °C pH pH測定時の物質濃度 結論 に対験を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  テレフタル酸 100-21-0  選択してください	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  terephthalic acid 100-21-0  選択してください
試験物質 同一性 方法 温度: °C GLP 試験条件 試験を行った年 結論 注價類性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純度釈 方法 GLP 試験を行った年 試験を行った年 試験を育った年 試験を育った年 試験を育った年 試験を作った年 試験を作った年 試験をでした年 試験を作った年 試験を作った年 は結果 水溶解度 温度: °C PH 別定時の物質濃度 結果 水溶解度 温度 は現けるの物質濃度 に同り、こことには、こことに	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  テレフタル酸 100-21-0  選択してください	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  terephthalic acid 100-21-0  選択してください
試験物質 同一性 方法 温度: °C GLP 試験条件 試験を行った年 結論 注信類性の判断根拠 出典 引用文献 備考 試験物質名 CAS番号 純定釈 方法 GLP 試験を行った年 試験を行った年 試験を行った年 試験を行った年 試験を作 結果 が選等 で 口 PH測定時の物質濃度 温度: °C PH PH測定時の物質濃度 結論 注釈 「信頼性スコア 信頼性スコア	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  テレフタル酸 100-21-0  選択してください	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  terephthalic acid 100-21-0  選択してください
試験物質 同一性 方法 温度P 試験条件 試験を行った年 結論 注頼性スコア 信頼性の判断根拠 引用考 式験物質名 CAS等 注釈 方法 GLP 試験条件 結果 水溶解度 温度: の内 pH測定時の物質濃度 結論 水溶解度 温度: の内 pH測定時の物質濃度 に は に の対しの に のが に のが に のが に のが に のが に のが に のが に	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  プレフタル酸 100-21-0  選択してください  選択してください  選択してください	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  terephthalic acid 100-21-0  選択してください  選択してください  選択してください
試験物質 同一性 方法 温度: °C GLP 試験条件 試験を行った年 結論 結論報 信頼性の判断根拠 引用文献 備考 試験物質名 CAS等 注釈 方法 GLP 試験条件 地級 登子行った年 試験条件 本溶解度 温度: °C pH pH測定時の物質濃度 結論報 水溶解度 温度: °C pH pH測定時の物質濃度 活験を 質別の物質濃度 に利用文献 情考	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください 選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  デレフタル酸 100-21-0  選択してください  選択してください 選択してください 選択してください	100-21-0 25°C 不明  pKa: 3.52  選択してください  Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734  terephthalic acid 100-21-0  選択してください  選択してください  選択してください

GLP	不明	不明
試験条件		
試験を行った年		
結果	pKa: 4.46	pKa: 4.46
結論		
注釈		
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer	Bemis, Dindorf, Harwood, Samans. (1982) Kirk-Othmer
	Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734	Encyclopedia of Chemical Technology 3rd Ed Vol 17, 734
引用文献		
備考		

## 2.6.2 表面張力

27 引火占(液体)

2.7 引火点(液体)		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等 注釈 方法		
注釈		
方法	ミクロ クリーブランド法	Micro Cleveland
GLP	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験条件		
結果		
引火点: ℃	271°C	271°C
試験のタイプ	オープンカップ	オープンカップ
結論 注釈		
注釈	Eastman のMSDSから得られた。	Obtained from Eastman MSDS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献		
備考		

= brodil SE S		
	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等		
注釈 方法		
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		
引火点: ℃	260°C	260°C
試験のタイプ	オープンカップ	オープンカップ
結論		
注釈		
信頼性スコア		選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Supplement to the 6th Edition, Documentation of the	Supplement to the 6th Edition, Documentation of the
	Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices. (1996)	Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices. (1996)
引用文献		
備考		

# 2.8 自己燃焼性 (固体/気体)

2.9 引火性

2.10 爆発性

テレフタル酸	terephthalic acid
100-21-0	100-21-0
不明	不明
不明	不明
不明	不明
不明	不明
いいえ	いいえ
爆発限界: 0.05 g/l	Explosion Limit: 0.05 g/l
選択してください	選択してください
	不明 不明 不明 にいえ 爆発限界: 0.05 g/I

	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Supplement to the 6th Edition, Documentation of the Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices. (1996)	Supplement to the 6th Edition, Documentation of the Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices. (1996)
引用文献		
備考		

## 2.11 酸化性

## 2.12 酸化還元ポテンシャル

# 2.13 その他の物理化学的性状に関する情報

試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等		
注釈		
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		Lower flammable limit: 40 g/m3 Flammable powder class: A Minimum ignition temperature: 500 degree C Minimum ignition energy: 50 mJ Sublimation temperature: 300 degree C
結論		
注釈		
信頼性スコア		選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	ICI Chemicals & Polymers Limited Product Safety Data: Pure	ICI Chemicals & Polymers Limited Product Safety Data: Pure
	Terephthalic Acid Jan 1991	Terephthalic Acid Jan 1991
引用文献		
備考		

## 3. 環境運命と経路

#### 3.1 安定性

3.1.1. 光分解		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	> 99.9 - % w/w	> 99.9 - % w/w
注釈		
方法	方法: その他 (計算)	Method: other (calculated)
	タイプ: 大気	Type: air
タイプ	間接光分解	間接光分解
GLP	いいえ	いいえ
試験を行った年	2001	2001
光源と波長(nm)	光源: その他	Light source: other
太陽光強度に基づいた相対強度		
物質のスペクトル		
試験条件		
結果		
物質濃度		
温度(℃)	25°C	25°C
直接光分解		
半減期t1/2		
分解度(%)と時間		
量子収率(%)		
間接光分解		
増感剤(タイプ)	ОН	ОН
増感剤濃度	1500000 分子/cm³	1500000 molecule/cm³
速度定数	0.00000000001237 cm³/(分子 * 秒)	0.00000000001237 cm³/(molecule * sec)
半減期t1/2	8.6日	50 % after 8.6 day(s)
分解生成物	不明	不明
結論	Microsoft Windows用の「the Atmospheric Oxidation Program (AOPWIN) パージョン1.90」を用いて速度定数 (25°C)を見積もった。 このプログラムによって見積もられた速度定数は、水酸基の平均大気濃度にもとづき、テレフタル酸の大気中半減期を計算するために使われる。 (詳細は英文参照)	The rate constant at 25 degrees C was estimated using version 1.90 of the Atmospheric Oxidation Program (AOPWIN) for Microsoft Windows that estimates the rate constant for the atmospheric gas-phase reaction between photochemically produced hydroxyl radicals and ozone with organic chemicals. The rate constant estimated by the program was used to calculate the atmospheric half-life for terephthalic acid based upon the average atmospheric concentration of hydroxyl radicals.
注釈	オゾン反応の見積もりについては記載なし。 MPBPWIN v1.40により見積もった水蒸気圧は 1.19 x 10−5 mmHg (25 °C)であるので、揮発はしないだろう。	No ozone reaction estimation was noted. MPBPWIN v1.40 estimated the vapor pressure to be 1.19 x 10-5 mmHg (25 oC). Therefore, volatilization is unlikely to occur.
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり(非GLP等)	2 制限付きで信頼性あり(非GLP等)
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	値は、容認された手法による見積り値。	Value is an estimation by an accepted method.

出典	Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report 1988	Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report 1988
<u>引用文献</u> 備考		
備考		

#### 3.1.2. 水中安定性(加水分解性)

3.1.3. 土壌中安定性		
3.2. モニタリングデータ(環境	<del></del> (1)	To the second se
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等		
注釈		
方法		
測定タイプ(地点)	不明	不明
媒体	大気	大気
結果	日本における大気中のテレフタル酸濃度は 11.1 ng TPA/m3 (6日の平均) であった。最高濃度は 23 ng/m3。 おそらくテレフタル酸は炭化水素の光化学反応由来である。	In Japan, the atmospheric concentration of terephthalic acid was 11.1 ng TPA/m3 (average of 6 days). The maximum value was 23 ng/m3. Terephthalic acid was probably from photochemical reactions of hydrocarbons
結論		
注釈		
信頼性スコア	選択してください	選択してください
旧模はハコケ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	とまれて C N C C V ・	IND CALCO.
<u>信頼性の判断依拠</u> 出典		
	2	
引用文献	3	3
備考		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等		
注釈		
方法		
別定タイプ(地点)	バックグラウンド	バックグラウンド
測定ダイブ(地点)	ハッククラウント	ハックグラウンド
媒体	水	水
	河川	river
結果	日本の河川におけるテレフタル酸の最高濃度は3.4 ug/lであっ	The maximal concentration of terephthalic acid in river water
和本	た (1975年)。	in Japan (1975) was 3.4 ug/l.
<i>t</i> +=Δ	72 (1070-776	111 Capati (1070) was 0.4 ug/i.
結論		
注釈	127 (27)	177 Im
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	4	4
備考		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号		100-21-0
	100-21-0	100-21-0
純度等		
注釈		
方法		
測定タイプ(地点)	バックグラウンド	バックグラウンド
媒体	その他:下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	下水処理施設の汚水	Sewage plant drainage
<b>盆田</b>	1 /N AC-工川のDX V/ FJ/N	oonago plant aramago
結果		
結論	ロシントンののにもるエナが四世紀の江北市本のニュラケッキ	The Association of the Control of th
注釈	ワシントンD.C.にある下水処理施設の汚水由来のテレフタル酸	The terephthalic acid concentration was approximately 13 ng/l
	濃度は、約13 ng/l であった (1975)。	from drainage of a sewage plant in Washington D.C. (1975)
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Lin, Melton, Kopfler, Lucas. (1981): Advances in the Identification & Analysis of Organic Pollutants in Water; Volume 2 edited by L.H. Keith, 861–906	Lin, Melton, Kopfler, Lucas. (1981): Advances in the Identification & Analysis of Organic Pollutants in Water; Volume 2 edited by L.H. Keith, 861–906
31 B * +*		
引用文献		
備考		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等		
注釈		
方法		
川広 川中ケノポ(サキ)	· ジッカガニウン! *	パッカガニウンド
測定タイプ(地点)	バックグラウンド	バックグラウンド
I		

その他:下欄のセルに記載 Sewage plant drainage

その他:下欄のセルに記載下水処理施設の汚水

注釈	日本の下水処理施設における汚水中のテレフタル酸濃度は 5.3 ug/l であった(1975)。	The terephthalic acid was 5.3 ug/l in a sewage plant drain in Japan (1975).
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠 出典		
引用文献	4	4
備考		
	-   -   -   -   -   -   -   -   -   -	le totale et
試験物質名 CAS番号	テレフタル酸   100-21-0	terephthalic acid 100-21-0
純度等	100-21-0	100-21-0
注釈		
方法	* L+*-+, 1*	* L+>-+, 1>
測定タイプ(地点)	バックグラウンド	バックグラウンド
媒体	土壌	土壌
<b>沐</b>		上坡 sludge
結果	73110	oladgo
結論		
注釈	1984年 西ドイツにおいて、地元の下水処理施設の汚水から テレフタル酸が検出された。	In W. Germany (1984), terephthalic acid was detected in sludge from a local sewage plant.
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	5	5
備考		
=======================================		le la e la
試験物質名 CAS番号	テレフタル酸 100-21-0	terephthalic acid
純度等	100 21 0	100 21 0
注釈		
方法		A
測定タイプ(地点)	バックグラウンド	バックグラウンド
媒体	海岸  その他:下欄のセルに記載	sea coast  その他:下欄のセルに記載
<b>本</b> 件	海水	sea water
結果		
結論		
注釈	日本では、海水サンプル(×10)のうち6サンプルからテレフタル酸が検出された。その平均濃度は 0.7 ug/であった。サンプルは、1974年~1976年に工業臨海地域から採取された。	In Japan, terephthalic acid was found in 6 out of 10 sea water samples with an average concentration of 0.7 ug/l. The samples were taken between 1974 and 1976 from an industrial coastal area.
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	6	6
備考		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等		
注釈		
方法 割字なくづ(地点)	パックガニウンド	   バックグラウンド
測定タイプ(地点)	バックグラウンド	
媒体	生体:下欄のセルに生物名を記載  植物	生体: 下欄のセルに生物名を記載 plants
結果	II= IX	planto
結論		
注釈	テレフタル酸は、自然状態のKreuzdorngewaechsen	Terephthalic acid is naturally found in Kreuzdorngewaechsen
	(Rhamnaceae, Zizyphus sativa)に発見される。	(Rhamnaceae, Zizyphus sativa).
信頼性スコア	選択してください  選択してください	選択してください 選択してください
信頼性の判断根拠	IZINO CNECO	透り(して //こで)・
出典		
引用文献	7	7
備考		

#### 3.3. 移動と分配

3.3.1 環境区分間の移動

3.3.1 環境区分间の移動		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	> 99.9 - % w/w	> 99.9 - % w/w
注釈		
方法	Fugacity model Ⅲ	Fugacity model Ⅲ
		Type: theoritical distibution
	モデル: 計算	Method: calculation
結果		
媒体	大気-水-土壌-底質	大気-水-土壌-底質

環境分布予測と媒体中濃度 (levelII/III)	大気 (level III): 0.000012% 水 (level III): 32.7% 土壌 (level III): 67.2% 底質 (level III): 0.098%	Air (level III): 0.000012% Water (level III): 32.7% Soil (level III): 67.2% Sediment (level III): 0.098%
結論	同物質は主に土壌と水に分配されると予測される。	This material is expected to distribute primarily into soil and water.
注釈	試験条件•方法 (英文参照)	Year: 2001 Method: GLP: No Test condition: Level III Fugacity was estimated using the Mackay model (the currently accepted model for estimation of theoretical distribution) with standard defaults contained in Syracuse Research Center EPIWIN version 3.05 and a M.W of 166.13, Log Kow of 2.00 (experimental database match), vapor pressure (mmHg, 25oC) of 1.19 x 10–5, water solubility (20oC) of 15 mg/l (experimental database match), Henry's Law Constant of 2.071 x 10–9 atm-m3/mole (HENRYWIN v3.10), and a Soil log Koc of 1.855 (PCKOCWIN v1.66).
信頼性スコア	2 制限付きで信頼性あり(非GLP等)	2 制限付きで信頼性あり(非GLP等)
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	値は容認された手法での見積り値である。	Value is an estimation by an accepted method.
出典	Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report 1988	Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report 1988
引用文献		
備考		

# 3.3.2 分配

3.4 好気性生分解性		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	> 99.9 - % w/w	> 99.9 - % w/w
	供給源: the Amoco Corporation.	Terephthalic acid was supplied by the Amoco Corporation.
	純度: 記載なし。一般的に>99%.	Purity was not noted but typically exceeds 99%.
<b>大型</b>		
注釈	   OECDガイドライン 301 B "易分解性: 修正Sturm試験法 (CO2	OEOD O : 1 1: 004 D "D   1 D: 1   1 1:: 1 M   1:C
方法	OECD//1771/J 301 B 易力解性:  参正Sturm試験法 (CO2    発生)"	OECD Guide-line 301 B "Ready Biodegradability: Modified Sturm Test (CO2 evolution)"
	16日	
植種源	16日  活性汚泥	16 day(s)
但性源 GLP		activated sludge はい
	はい   1991	
試験を行った年試験条件	1	1991
<b>試験条件</b>	タイプ:非生物的 (英文参照)	Type: aerobic Inoculum was obtained from a domestic sewage plant not
	(英文参照)	treating industrial wastes. It was washed with tap water, and
		resolubilized and aerated prior to use. Degradation of test
		article was assessed at concentrations of 10 and 20 mg/l
		using a guideline mineral salt solution. The final total test
		volume was 3500 ml. Test solutions were stirred with magnetic
		stirrers. A test blank and a positive control (Na-Benzoate)
		were run simultaneously. The study was conducted in the dark
		at a temperature range of 22.0-23.5 oC. The system was
		aerated at a rate of 4 L/h.
試験物質濃度	10 mg/l	10 mg/l
	20 mg/l	20 mg/l
汚泥濃度		
培養温度 ℃	22.0-23.5 °C	22.0-23.5 °C
対照物質および濃度(mg/L)	陽性対照(安息香酸ナトリウム)	positive control (Na-Benzoate)
分解度測定方法	生成CO2の捕集により分解を決定した。	Degradation was determined by the capture of generated CO2.
分解度算出方法		
結果	IOS 00/ 00 00/ (40 D D)	
最終分解度(%) 日目	85.2% 82.6%(16日目)	85.2% 82.6%(16日目)
分解速度-1	2日 = 15.5% (10 mg/l) 34.3% (20 mg/l)	2 days = 15.5% (10 mg/l) 34.3% (20 mg/l)
分解速度−2	5日 = 68.2% 66.0%	5 days = 68.2% 66.0%
分解速度-3	7日 = 70.4% 68.7%	7 days = 70.4% 68.7%
分解速度-4	12日 = 77.4% 75.1%	12 days = 77.4% 75.1%
分解生成物 上記結果以外の分解度測定方法		
工能和未以外の方解及例定方法 及びその結果		
対象物質の7,14日目の分解度	試験は陽性対照(安息香酸ナトリウム)を用いることで検証され	The test was validated by use of a positive control (Na-
7.3.8.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1	た。陽性対照は約6日以内に77%程度分解した。	Benzoate) that was degraded by 77% within approximately 6
その他	分解生成物: あり	Deg. product: yes
結論	容易に生分解	readily biodegradable
注釈	試験方法は、同試験で使用されるレベルにおいて無視できる水	
(4.1/3	上気圧をもつ物質を使ってのみ適用可能。	negligible vapor pressure at the levels utilized in this study, is
	細菌に対して阻害的でない	not inhibitory to bacteria, and does not absorb to glass
	ガラス表面へ引き付けられない。	surfaces The test was scheduled for 28 days but was stopped
	試験は28日間と予定されたが、分解曲線が横ばいになったの	after the degradation curve reached an early plateau.
	で終了した。	>83% of the theoretical CO2 evolution occurred within 16 days
	>理論上のCO2発生の83%は、16日以内に生じた。	
信頼性スコア	1 制限なく信頼性あり	1 制限なく信頼性あり
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		

	Biodegradability (Modified Sturm Test) of Terephthalic Acid; Conducted by Battelle Europe; Study # BE-EA-128-91-01-	Amoco Corporation (1991). Study on the Ready Biodegradability (Modified Sturm Test) of Terephthalic Acid; Conducted by Battelle Europe; Study # BE-EA-128-91-01- STT-03;
<u>引用文献</u> 備考		
備考		

# 3.5. BOD-5、CODまたはBOD-5/COD比

3.6 生物濃縮性

3.6 生物濃縮性		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等		
注釈		
方法	方法: EPIWINから計算した	Method: calculated from EPIWIN
生物種		
暴露期間(日)		
曝露濃度		
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年	1988	1988
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式/実施		
結果		
死亡率/行動		
脂質含有量(%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数(BCF)	3.2	3.2
取込/排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論		
注釈	「224日」 アノナドナー	^22 4□↓ デノナ <sup>*</sup> ナ」、
信頼性スコア	選択してください 選択してください	選択してください 選択してください
- 信頼性の判断根拠	迭折し (く)にさい	<b>迭択してたらい</b>
出典	Syraguan Passarah Corporation adjoulated values SPC Passart	Syracuse Research Corporation calculated values SRC Report
ш <del>ж</del>	1988	1988
31 B + +1	1300	1300
引用文献		
備考		

項目名	和訳結果(EU-RAR)	原文(EU-RAR)
グロロ	TID(帕木(LU IVAII)	脉文(EU NAII)
4-1 魚への急性毒性	T	
試験物質	テレフタル酸	terephthalic acid
	100-21-0 > 99.9 - % w/w	100-21-0 > 99.9 - % w/w
同一性	供給者: Amoco Corporation.	Terephthalic acid was supplied by the Amoco Corporation.
_	純度: 99.9%.	Purity was 99.9%.
<b>+</b> '+		•
方法 GLP	OECDガイドライン 203 "魚類急性毒性試験" はい	OECD Guide-line 203 "Fish, Acute Toxicity Test"
試験を行った年	1991	1991
魚種、系統、供給者	ゴールデンオルフェ(淡水魚)	Leuciscus idus melanotus (Fish, fresh water)
エンドポイント	コールチングルンエ(灰水魚)	Ecoological Incialiotas (Fish, Incish Water)
試験物質の分析の有無	あり	あり
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重	試験時における試験魚の平均体長 4.86 ± 0.47 cm	At the time of the test, fish were an average of 4.86 $\pm$ 0.47
	平均体重1.028 ± 0.246 g	cm in length and weighed 1.028 ± 0.246 g.
試験用水量あたりの魚体重	1.028 g/l	1.028 g/l
参照物質での感受性試験結果	(英文参照)	Fish were held for 21 days in 376 liter glass vessels containing
	(天文参照)	327 liters of reconstituted water (19 oC, 85–95% oxygen). Fish
18.1.7.11.77.14		density was 0.51 g/liter. They were fed five times a week with
じゅん化条件		50% Tetra Special Mix and 50% IBL Novo food tablets prior to
		study.
× fo Lyc	- 日本なくさっと	12.1
希釈水源 本釈水源	調整純水	reconstituted purified water
希釈水の化学的性質	19℃, 85-95% 酸素 (英文参照)	19 oC, 85-95% oxygen The study was conducted in 16 liter stainless steel vessels
	(央义参照)	that contained 10 liters of test solution. Ten fish were placed
		in each vessel (for a loading rate of 1.028 g/l). Fish were not
試験溶液(及び保存溶液)とその調		fed during the test. The dissolved oxygen content was 8.33 ±
製法		0.22 mg/l and was maintained through aeration.
		Parameters were determined at time 0 and every 24 hours
		thereafter.
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度	   16L用ステンレス鋼の容器	16 liter stainless steel vessels
暴露容器 暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	上水	业水
換水率/換水頻度	試験溶液は交換されなかった。	Test solution was not renewed.
連数、1連当たりの魚数	a. was a fine of the control of the	
	pH: 7.57 ± 0.26	pH of 7.57 $\pm$ 0.26, conductivity of 1026.9 $\pm$ 367.74
民郷 杉知宛さん たいかくしょう 連 広	伝導度: 1026.9 ± 367.74 microS/cm	microS/cm, alkalinity of 41.68 ± 1.14 mg/l CaCO3, hardness
影響が観察された少なくとも1濃度 区及び対照区における水質	アルカリ度: 41.68 ± 1.14 mg/l CaCO3	of 193.86 ± 75.0 mg/l CaCO3
区及6对照区12831730水頁	硬度: 193.86 ± 75.0 mg/l CaCO3	
試験温度範囲	22.0 ± 0.07°C	22.0 ± 0.07°C
照明の状態	照明の明暗サイクル 16時間:8時間	light/dark photoperiod of 16/8 hours.
平均測定濃度の計算方法 結果		
設定濃度	130, 220, 350, 600, 1000 ppm	130, 220, 350, 600 and 1000 ppm
改之版 <u>及</u>	最大ばく露レベルの実測濃度:	The actual concentration of the highest exposure level was
中海曲曲	999.3 ppm(0時間目)	999.3 ppm at time 0, and 922.2 ppm at 96 hours.
実測濃度	922.2 ppm(96時間目)	
生物学的影響観察	同研究のいずれの濃度においても、死亡や行動の変化は示さ	No mortalities or behavioral changes were noted at any
	れなかった。	concentration during the study.
累積死亡率の表		
統計的結果	テレフタル酸の一部は、同試験条件下で、塩の形に変化すると	Under the test conditions it was believed that some of the
	考えられた。 魚の体重は推奨レベル1.0 g/lよりわずかに上	terephthalic acid was converted to a salt form. Fish loading
注釈	回っていたが、結果に影響したとは考えられなかった。	was slightly above the 1.0 g/l recommended level, but was not
/ <u>_</u>		believed to impact the results.
対照区における死亡率		
異常反応		
	グループ間において、溶存酸素、温度、伝導度、アルカリ度、硬	
	度は変化しなかった。水のpHは、時間および試験物質の濃度	hardness did not vary between groups. The pH of the water
		decreased slightly as a function of time and increasing
その他の観察結果	(96時間目)のpHは7であった。). 全試験条件値は許容限界内であった。	concentration of test material (i.e. the pH of the vessel containing 1000 mg/l at 96 hours was 7). All test condition
		values were within acceptable limits.
<b>丝</b> 論		
<u>結論</u>	NOEC >= 1000 mg/l 実測/設定	NOEC >= 1000 mg/l measured/nominal
<b>盆里(06</b> 5-1,050)	LC0 > 1000 mg/l 実測/設定	LC0 > 1000 mg/l measured/nominal
結果(96h-LC50)	LC50 > 1000 mg/l	LC50 > 1000 mg/l
	EC30 / 1000 Hig/1	
伝われてって		
信頼性スコア	1. 制限なく信頼性あり	1. 制限なく信頼性あり
信頼性スコア キースタディ 信頼性の判断根拠		

出典	Fish (Leuciscus idus melanotus) of Terephthalic Acid. Conducted by Battelle Europe; Study # BE-EA-128-91-01-	Amoco Corporation (1993) A Study of the Acute Toxicity to Fish (Leuciscus idus melanotus) of Terephthalic Acid. Conducted by Battelle Europe; Study # BE-EA-128-91-01-F3A-3; Reference no. 21
引用文献		
備考		

4-2 水生無脊椎動物への急性毒性		
試験物質	テレフタル酸	terephthalic acid
	100-21-0	100-21-0
	> 99.9 - % w/w	> 99.9 - % w/w
同一性	供給者: Amoco Corporation.	Terephthalic acid was supplied by the Amoco Corporation.
	純度: 99.9%.	Purity was 99.9%.
方法	OECD ガイドライン 202	OECD Guide-line 202
GLP	はい	はい
試験を行った年	1991	1991
生物種、系統、供給者	オオミジンコ(甲殻類)	Daphnia magna (Crustacea)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	あり	あり
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験生物の起源、前処理、繁殖方 法	(英文参照)	Adult Daphnia (approx. 20/vessel) were kept in 3.5 liter vessels containing 2 liters of Elendt M 7 medium (22 ° C) and were fed with algae. Daphnia were placed in reconstituted water 24 hours prior to test. New-born Daphids were collected and held for 6 hours.
試験開始時の時間齢		
<b>希釈水源</b>	調整純水	purified reconstituted water
希釈水の化学的性質	NaOH(1.57 g)にHCIを加えてpHを調整した。(塩分調整)	1.57 g NaOH that was pH adjusted by adding HCI (salinity
AND THE PROPERTY OF THE PROPER	試験条件等	Test condition: The study was conducted in quadruplicate
試験溶液(及び保存溶液)とその調 製法	(英文参照)	using 5 new-born Daphnia (6–20 hours )/concentration in each 300 ml test vessel. The test article was diluted with purified reconstituted water to yield nominal concentrations of 0, 80, 130, 220, 350, 600 and 1000 ppm in a total volume of 200 ml. The actual concentration of the highest exposure level was 951.5 ppm at time 0, and 982 ppm at 48 hours. A group of Daphnids was also exposed to water that contained 1.57 g NaOH that was pH adjusted by adding HCl (salinity control). The number of immobilized fleas was noted at 0, 24 and 48 hours.
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
	300 mlの試験容器	300 ml test vessel
暴露容器	エアレーションなし	Vessels were not aerated.
暴露期間	48時間	48 hours
	止水	止水
試験方式	-	-
	此水 約 20匹/容器 pH: 7.79 ± 0.06	approx. 20/vessel
試験方式 連数、1連当たりの試験生物数	約 20匹/容器	-
試験方式 連数、1連当たりの試験生物数 対照区と影響が観察された少なくと	約 20匹/容器 pH: 7.79 ± 0.06 溶存酸素量: 8.31 ± 0.15 mg/l 伝導度:929.38 ± 369.64 microS/cm アルカリ度:42.91 ± 1.55 mg/l CaCO3	approx. 20/vessel pH of 7.79 $\pm$ 0.06, dissolved oxygen content of 8.31 $\pm$ 0.15 mg/l, conductivity of 929.38 $\pm$ 369.64 microS/cm, alkalinity of 42.91 $\pm$ 1.55 mg/l CaCO3, hardness of 232.64 $\pm$ 12.61 mg/l
試験方式 連数、1連当たりの試験生物数 対照区と影響が観察された少なくと も1濃度区における水質 試験温度範囲	約 20匹/容器 pH: 7.79 ± 0.06 溶存酸素量: 8.31 ± 0.15 mg/l 伝導度:929.38 ± 369.64 microS/cm アルカリ度:42.91 ± 1.55 mg/l CaCO3 硬度:232.64 ± 12.61 mg/l CaCO3	approx. 20/vessel pH of 7.79 $\pm$ 0.06, dissolved oxygen content of 8.31 $\pm$ 0.15 mg/l, conductivity of 929.38 $\pm$ 369.64 microS/cm, alkalinity of 42.91 $\pm$ 1.55 mg/l CaCO3, hardness of 232.64 $\pm$ 12.61 mg/l CaCO3
試験方式 連数、1連当たりの試験生物数 対照区と影響が観察された少なくと も1濃度区における水質 試験温度範囲	約 20匹/容器 pH: 7.79 ± 0.06 溶存酸素量: 8.31 ± 0.15 mg/l 伝導度:929.38 ± 369.64 microS/cm アルカリ度:42.91 ± 1.55 mg/l CaCO3 硬度:232.64 ± 12.61 mg/l CaCO3	approx. 20/vessel pH of 7.79 $\pm$ 0.06, dissolved oxygen content of 8.31 $\pm$ 0.15 mg/l, conductivity of 929.38 $\pm$ 369.64 microS/cm, alkalinity of 42.91 $\pm$ 1.55 mg/l CaCO3, hardness of 232.64 $\pm$ 12.61 mg/l CaCO3
試験方式 連数、1連当たりの試験生物数 対照区と影響が観察された少なくと も1濃度区における水質 試験温度範囲 照明の状態	約 20匹/容器 pH: 7.79 ± 0.06 溶存酸素量: 8.31 ± 0.15 mg/l 伝導度:929.38 ± 369.64 microS/cm アルカリ度:42.91 ± 1.55 mg/l CaCO3 硬度:232.64 ± 12.61 mg/l CaCO3	approx. 20/vessel pH of 7.79 $\pm$ 0.06, dissolved oxygen content of 8.31 $\pm$ 0.15 mg/l, conductivity of 929.38 $\pm$ 369.64 microS/cm, alkalinity of 42.91 $\pm$ 1.55 mg/l CaCO3, hardness of 232.64 $\pm$ 12.61 mg/l CaCO3
試験方式 連数、1連当たりの試験生物数 対照区と影響が観察された少なくと も1濃度区における水質 試験温度範囲 照明の状態 平均測定濃度の計算方法	約 20匹/容器 pH: 7.79 ± 0.06 溶存酸素量: 8.31 ± 0.15 mg/l 伝導度:929.38 ± 369.64 microS/cm アルカリ度:42.91 ± 1.55 mg/l CaCO3 硬度:232.64 ± 12.61 mg/l CaCO3	approx. 20/vessel pH of 7.79 $\pm$ 0.06, dissolved oxygen content of 8.31 $\pm$ 0.15 mg/l, conductivity of 929.38 $\pm$ 369.64 microS/cm, alkalinity of 42.91 $\pm$ 1.55 mg/l CaCO3, hardness of 232.64 $\pm$ 12.61 mg/l CaCO3
試験方式 連数、1連当たりの試験生物数 対照区と影響が観察された少なくと も1濃度区における水質 試験温度範囲 照明の状態 平均測定濃度の計算方法 結果	約 20匹/容器 pH: 7.79 ± 0.06 溶存酸素量: 8.31 ± 0.15 mg/l 伝導度:929.38 ± 369.64 microS/cm アルカリ度:42.91 ± 1.55 mg/l CaCO3 硬度:232.64 ± 12.61 mg/l CaCO3	approx. 20/vessel pH of 7.79 $\pm$ 0.06, dissolved oxygen content of 8.31 $\pm$ 0.15 mg/l, conductivity of 929.38 $\pm$ 369.64 microS/cm, alkalinity of 42.91 $\pm$ 1.55 mg/l CaCO3, hardness of 232.64 $\pm$ 12.61 mg/l CaCO3 $22.07 \pm 0.11^{\circ}\text{C}$ a light/dark photoperiod of 16/8 hours $0, 80, 130, 220, 350, 600 \text{ and } 1000 \text{ ppm in a total volume of}$
試験方式 連数、1連当たりの試験生物数 対照区と影響が観察された少なくと も1濃度区における水質 試験温度範囲 照明の状態 平均測定濃度の計算方法 結果 設定濃度	約 20匹/容器 pH: 7.79 ± 0.06 溶存酸素量: 8.31 ± 0.15 mg/l 伝導度:929.38 ± 369.64 microS/cm アルカリ度:42.91 ± 1.55 mg/l CaCO3 硬度:232.64 ± 12.61 mg/l CaCO3  22.07 ± 0.11℃ 明/暗サイクル: 16/8時間  全容量200ml中の濃度は、0, 80, 130, 220, 350, 600, 1000 ppm 最大ばく露レベルの実測濃度は、951.5 ppm(0時間目)、982 ppm(48時間目)であった。 塩分調整群における致死量は1/20 (5%)、1000 ppmにばく露し	approx. 20/vessel pH of 7.79 $\pm$ 0.06, dissolved oxygen content of 8.31 $\pm$ 0.15 mg/l, conductivity of 929.38 $\pm$ 369.64 microS/cm, alkalinity of 42.91 $\pm$ 1.55 mg/l CaCO3, hardness of 232.64 $\pm$ 12.61 mg/l CaCO3   22.07 $\pm$ 0.11°C a light/dark photoperiod of 16/8 hours   0, 80, 130, 220, 350, 600 and 1000 ppm in a total volume of 200 ml.   The actual concentration of the highest exposure level was 951.5 ppm at time 0, and 982 ppm at 48 hours.   Lethality was 1/20 (5%) in the salinity control group and 1/20
試験方式 連数、1連当たりの試験生物数 対照区と影響が観察された少なくと も1濃度区における水質 試験温度範囲 照明の状態 平均測定濃度の計算方法 結果 設定濃度 実測濃度	約 20匹/容器 pH: 7.79 ± 0.06 溶存酸素量: 8.31 ± 0.15 mg/l 伝導度:929.38 ± 369.64 microS/cm アルカリ度:42.91 ± 1.55 mg/l CaCO3 硬度:232.64 ± 12.61 mg/l CaCO3  22.07 ± 0.11℃ 明/暗サイクル: 16/8時間  全容量200mi中の濃度は、0, 80, 130, 220, 350, 600, 1000 ppm 最大ば〈露レベルの実測濃度は、951.5 ppm(0時間目)、982 ppm(48時間目)であった。	approx. 20/vessel pH of 7.79 $\pm$ 0.06, dissolved oxygen content of 8.31 $\pm$ 0.15 mg/l, conductivity of 929.38 $\pm$ 369.64 microS/cm, alkalinity of 42.91 $\pm$ 1.55 mg/l CaCO3, hardness of 232.64 $\pm$ 12.61 mg/l CaCO3   22.07 $\pm$ 0.11°C a light/dark photoperiod of 16/8 hours   0, 80, 130, 220, 350, 600 and 1000 ppm in a total volume of 200 ml.   The actual concentration of the highest exposure level was 951.5 ppm at time 0, and 982 ppm at 48 hours.
試験方式 連数、1連当たりの試験生物数 対照区と影響が観察された少なくと も1濃度区における水質 試験温度範囲 照明の状態 平均測定濃度の計算方法 結果 設定濃度	約 20匹/容器 pH: 7.79 ± 0.06 溶存酸素量: 8.31 ± 0.15 mg/l 伝導度:929.38 ± 369.64 microS/cm アルカリ度:42.91 ± 1.55 mg/l CaCO3 硬度:232.64 ± 12.61 mg/l CaCO3  22.07 ± 0.11℃ 明/暗サイクル: 16/8時間  全容量200ml中の濃度は、0, 80, 130, 220, 350, 600, 1000 ppm 最大ばく露レベルの実測濃度は、951.5 ppm(0時間目)、982 ppm(48時間目)であった。 塩分調整群における致死量は1/20 (5%)、1000 ppmにばく露し	approx. 20/vessel pH of 7.79 ± 0.06, dissolved oxygen content of 8.31 ± 0.15 mg/l, conductivity of 929.38 ± 369.64 microS/cm, alkalinity of 42.91 ± 1.55 mg/l CaCO3, hardness of 232.64 ± 12.61 mg/l CaCO3  22.07 ± 0.11°C a light/dark photoperiod of 16/8 hours  0, 80, 130, 220, 350, 600 and 1000 ppm in a total volume of 200 ml.  The actual concentration of the highest exposure level was 951.5 ppm at time 0, and 982 ppm at 48 hours.  Lethality was 1/20 (5%) in the salinity control group and 1/20 in Dalpnia exposed to 1000 ppm.  Remark: Under the test conditions it was believed that some of the terephthalic acid was converted to a salt. Immobilization at the highest dose was only noted in 1 of the 20 fleas. Result: Water quality parameters of pH, oxygen concentration, temperature and alkalinity remained within acceptable limits throughout the study and did not differ significantly with time or increasing concentration of test material. Conductivity of the saline control group (1660 at time 0) was higher than most other groups. Conductivity increased with increasing concentration of test material (from 570 to 1230 microS/cm at
試験方式 連数、1連当たりの試験生物数 対照区と影響が観察された少なくと も1濃度区における水質 試験温度範囲 照明の状態 平均測定濃度の計算方法 結果 設定濃度 実測濃度 遊泳阻害数 累積遊泳阻害数の表	<ul> <li>約 20匹/容器         PH: 7.79 ± 0.06         溶存酸素量: 8.31 ± 0.15 mg/l         伝導度:929.38 ± 369.64 microS/cm         アルカリ度:42.91 ± 1.55 mg/l CaCO3         硬度:232.64 ± 12.61 mg/l CaCO3     </li> <li>22.07 ± 0.11℃</li> <li>明/暗サイクル: 16/8時間</li> <li>全容量200mi中の濃度は、0, 80, 130, 220, 350, 600, 1000 ppm</li> <li>最大ばく露レベルの実測濃度は、951.5 ppm(0時間目)、982 ppm(48時間目)であった。</li> <li>塩分調整群における致死量は1/20(5%)、1000 ppmにばく露したジンコにおいて 1/20であった。</li> <li>注釈: テレフタル酸の一部は、同試験条件下で、塩へ変化すると考えられた。最大用量における遊泳阻害は、ノミ20匹のうち1匹について示されたのみであった。</li> <li>結果: 試験中、水質のパラメーターであるpH、酸素濃度、温度、アルカリ度は許容限界内にあり、時間や試験物質濃度の増加にともない著しく変化することはなかった。場分調整群の伝導、にともない著しく変化することはなかった。伝導度は、試験物質の濃度が増加するにつれ上昇した</li> </ul>	approx. 20/vessel pH of 7.79 ± 0.06, dissolved oxygen content of 8.31 ± 0.15 mg/l, conductivity of 929.38 ± 369.64 microS/cm, alkalinity of 42.91 ± 1.55 mg/l CaCO3, hardness of 232.64 ± 12.61 mg/l CaCO3  22.07 ± 0.11°C a light/dark photoperiod of 16/8 hours  0, 80, 130, 220, 350, 600 and 1000 ppm in a total volume of 200 ml.  The actual concentration of the highest exposure level was 951.5 ppm at time 0, and 982 ppm at 48 hours.  Lethality was 1/20 (5%) in the salinity control group and 1/20 in Dahpnia exposed to 1000 ppm.  Remark: Under the test conditions it was believed that some of the terephthalic acid was converted to a salt. Immobilization at the highest dose was only noted in 1 of the 20 fleas. Result: Water quality parameters of pH, oxygen concentration, temperature and alkalinity remained within acceptable limits throughout the study and did not differ significantly with time or increasing concentration of test material. Conductivity of the saline control group (1660 at time 0) was higher than most other groups. Conductivity increased with increasing
試験方式 連数、1連当たりの試験生物数 対照区と影響が観察された少なくと も1濃度区における水質 試験温度範囲 照明の状態 平均測定濃度の計算方法 結果 設定濃度 実測濃度 遊泳阻害数 累積遊泳阻害数の表	<ul> <li>約 20匹/容器         PH: 7.79 ± 0.06         溶存酸素量: 8.31 ± 0.15 mg/l         伝導度:929.38 ± 369.64 microS/cm         アルカリ度:42.91 ± 1.55 mg/l CaCO3         硬度:232.64 ± 12.61 mg/l CaCO3     </li> <li>22.07 ± 0.11°C</li> <li>明/暗サイクル: 16/8時間</li> <li>全容量200ml中の濃度は、0, 80, 130, 220, 350, 600, 1000 ppm</li> <li>最大ばく露レベルの実測濃度は、951.5 ppm(0時間目)、982 ppm(48時間目)であった。</li> <li>塩分調整群における致死量は1/20(5%)、1000 ppmにばく露したミジンコにおいて 1/20であった。</li> <li>注釈: テレフタル酸の一部は、同試験条件下で、塩へ変化すると考えられた。最大用量における遊泳阻害は、ノミ20匹のうち1匹について示されたのみであった。</li> <li>結果: 試験中、水質のパラメーターであるpH、酸素濃度、温度、アルカリ度は許容限界内にあり、時間や試験物質濃度の増加にともない著しく変化することはなかった。塩分調整群の伝導度(0時間で1660)は、その他の群より高かった。伝導度は、試験物質の濃度が増加するにつれ上昇した(570から1230 microS/cmまで上昇。0時間目では1000 ppm)。</li> <li>不明</li> </ul>	approx. 20/vessel pH of 7.79 ± 0.06, dissolved oxygen content of 8.31 ± 0.15 mg/l, conductivity of 929.38 ± 369.64 microS/cm, alkalinity of 42.91 ± 1.55 mg/l CaCO3, hardness of 232.64 ± 12.61 mg/l CaCO3  22.07 ± 0.11°C a light/dark photoperiod of 16/8 hours  0, 80, 130, 220, 350, 600 and 1000 ppm in a total volume of 200 ml.  The actual concentration of the highest exposure level was 951.5 ppm at time 0, and 982 ppm at 48 hours.  Lethality was 1/20 (5%) in the salinity control group and 1/20 in Dahpnia exposed to 1000 ppm.  Remark: Under the test conditions it was believed that some of the terephthalic acid was converted to a salt. Immobilization at the highest dose was only noted in 1 of the 20 fleas. Result: Water quality parameters of pH, oxygen concentration, temperature and alkalinity remained within acceptable limits throughout the study and did not differ significantly with time or increasing concentration of test material. Conductivity of the saline control group (1660 at time 0) was higher than most other groups. Conductivity increased with increasing concentration of test material (from 570 to 1230 microS/cm at time 0 for 1000 ppm).
試験方式 連数、1連当たりの試験生物数 対照区と影響が観察された少なくと も1濃度区における水質 試験温度範囲 照明の状態 平均測定濃度の計算方法 結果 設定濃度 実測濃度 遊泳阻害数 累積遊泳阻害数の表	<ul> <li>約 20匹/容器         PH: 7.79 ± 0.06         溶存酸素量: 8.31 ± 0.15 mg/l         伝導度:929.38 ± 369.64 microS/cm         アルカリ度:42.91 ± 1.55 mg/l CaCO3         硬度:232.64 ± 12.61 mg/l CaCO3     </li> <li>22.07 ± 0.11°C</li> <li>明/暗サイクル: 16/8時間</li> <li>全容量200ml中の濃度は、0, 80, 130, 220, 350, 600, 1000 ppm</li> <li>最大ばく露レベルの実測濃度は、951.5 ppm(0時間目)、982 ppm(48時間目)であった。</li> <li>塩分調整群における致死量は1/20(5%)、1000 ppmにばく露したミジンコにおいて 1/20であった。</li> <li>注釈: テレフタル酸の一部は、同試験条件下で、塩へ変化すると考えられた。最大用量における遊泳阻害は、ノミ20匹のうち1匹について示されたのみであった。</li> <li>結果: 試験中、水質のパラメーターであるpH、酸素濃度、温度、アルカリ度は許容限界内にあり、時間や試験物質濃度の増加にともない著しく変化することはなかった。塩分調整群の伝導度(0時間で1660)は、その他の群より高かった。伝導度は、試験物質の濃度が増加するにつれ上昇した(570から1230 microS/cmまで上昇。0時間目では1000 ppm)。</li> <li>不明</li> </ul>	approx. 20/vessel pH of 7.79 ± 0.06, dissolved oxygen content of 8.31 ± 0.15 mg/l, conductivity of 929.38 ± 369.64 microS/cm, alkalinity of 42.91 ± 1.55 mg/l CaCO3, hardness of 232.64 ± 12.61 mg/l CaCO3  22.07 ± 0.11°C a light/dark photoperiod of 16/8 hours  0, 80, 130, 220, 350, 600 and 1000 ppm in a total volume of 200 ml.  The actual concentration of the highest exposure level was 951.5 ppm at time 0, and 982 ppm at 48 hours.  Lethality was 1/20 (5%) in the salinity control group and 1/20 in Dahpnia exposed to 1000 ppm.  Remark: Under the test conditions it was believed that some of the terephthalic acid was converted to a salt. Immobilization at the highest dose was only noted in 1 of the 20 fleax. Result: Water quality parameters of pH, oxygen concentration, temperature and alkalinity remained within acceptable limits throughout the study and did not differ significantly with time or increasing concentration of test material. Conductivity of the saline control group (1660 at time 0) was higher than most other groups. Conductivity increased with increasing concentration of test material (from 570 to 1230 microS/cm at time 0 for 1000 ppm).
試験方式 連数、1連当たりの試験生物数 対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質 試験温度範囲 照明の状態 平均測定濃度の計算方法 結果 設定濃度 実測濃度 遊泳阻害数 累積遊泳阻害数の表	<ul> <li>約 20匹/容器         PH: 7.79 ± 0.06         溶存酸素量: 8.31 ± 0.15 mg/l         伝導度:929.38 ± 369.64 microS/cm         アルカリ度:42.91 ± 1.55 mg/l CaCO3         硬度:232.64 ± 12.61 mg/l CaCO3     </li> <li>22.07 ± 0.11°C</li> <li>明/暗サイクル: 16/8時間</li> <li>全容量200ml中の濃度は、0, 80, 130, 220, 350, 600, 1000 ppm</li> <li>最大ばく露レベルの実測濃度は、951.5 ppm(0時間目)、982 ppm(48時間目)であった。</li> <li>塩分調整群における致死量は1/20(5%)、1000 ppmにばく露したミジンコにおいて 1/20であった。</li> <li>注釈: テレフタル酸の一部は、同試験条件下で、塩へ変化すると考えられた。最大用量における遊泳阻害は、ノミ20匹のうち1匹について示されたのみであった。</li> <li>結果: 試験中、水質のパラメーターであるpH、酸素濃度、温度、アルカリ度は許容限界内にあり、時間や試験物質濃度の増加にともない著しく変化することはなかった。塩分調整群の伝導度(0時間で1660)は、その他の群より高かった。伝導度は、試験物質の濃度が増加するにつれ上昇した(570から1230 microS/cmまで上昇。0時間目では1000 ppm)。</li> <li>不明</li> </ul>	approx. 20/vessel pH of 7.79 ± 0.06, dissolved oxygen content of 8.31 ± 0.15 mg/l, conductivity of 929.38 ± 369.64 microS/cm, alkalinity of 42.91 ± 1.55 mg/l CaCO3, hardness of 232.64 ± 12.61 mg/l CaCO3  22.07 ± 0.11°C a light/dark photoperiod of 16/8 hours  0, 80, 130, 220, 350, 600 and 1000 ppm in a total volume of 200 ml.  The actual concentration of the highest exposure level was 951.5 ppm at time 0, and 982 ppm at 48 hours.  Lethality was 1/20 (5%) in the salinity control group and 1/20 in Dahpnia exposed to 1000 ppm.  Remark: Under the test conditions it was believed that some of the terephthalic acid was converted to a salt. Immobilization at the highest dose was only noted in 1 of the 20 fleas. Result: Water quality parameters of pH, oxygen concentration, temperature and alkalinity remained within acceptable limits throughout the study and did not differ significantly with time or increasing concentration of test material. Conductivity of the saline control group (1660 at time 0) was higher than most other groups. Conductivity increased with increasing concentration of test material (from 570 to 1230 microS/cm at time 0 for 1000 ppm).

<b>盆甲(495-⊑050)</b>	EC0 = 600 mg/l 実測/設定	NOEC = 600 mg/l measured/nominal EC0 = 600 mg/l measured/nominal EC50 > 1000 mg/l measured/nominal
信頼性スコア	1. 制限なく信頼性あり	1. 制限なく信頼性あり
キースタディ		選択してください
信頼性の判断根拠		Reliability was decreased due to differences between nominal and measured values at time 0 and 96 hours.
	immobilisation to Daphnia of Terephthalic Acid. Conducted by	Amoco Chemicals Co. (1993) A Study of the Acute immobilisation to Daphnia of Terephthalic Acid. Conducted by Battelle Europe; Study # BE-EA-128-91-02-DAK-3;
引用文献		
備考		

備考		
_4-3 水生植物への毒性(例えば藻乳	5	
試験物質	<sup>良)</sup>  テレフタル酸	terephthalic acid
八元 7万 页	100-21-0	100-21-0
	> 99.9 - % w/w	> 99.9 - % w/w
同一性	供給者: Amoco Corporation.	Terephthalic acid was supplied by the Amoco Corporation.
1.3	純度: 99.9%.	Purity was 99.9%.
	OECD ガイドライン 201 "藻類生長阻害試験"	OECD Guide-line 201 "Algae, Growth Inhibition Test"
方法	Endpoint: growth rate	Endpoint: growth rate
GLP	はい	はい
試験を行った年	1991-1992	1991-1992
生物種、系統、供給者	Scenedesmus subspicatus (藻類)	Scenedesmus subspicatus (Algae)
エンドポイント	生長阻害	生長阻害
毒性値算出に用いたデータの種類		
試験物質の分析の有無	あり	あり
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験施設での藻類継代培養方法		
藻類の前培養の方法及び状況	ストックの藻類の年齢:生後13日	The age of the stock and pre-cultures were 13 and 4 days,
	前培養の藻類の年齢: 生後4日	respectively.
参照物質での感受性試験結果		
希釈水源 培地の化学的性質		
42世の心子の注具	(英文参照)	The study was conducted in quadruplicate using 10 4 cells/ml
	(天文学照)	per test concentration. A total of 100 ml of test solution was
試験溶液(及び保存溶液)とその調		used. Flasks were shaken at a rate of 80 oscillations/minute.
裁験冷液(及び休仔冷液)とての調		Growth inhibition was determined daily by counting the number
表丛		of cells per volume of test solution (cell concentration).
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
	試験容器: 300ml用 エルレンマイヤーフラスコに試験溶液100	Test vessels consisted of 300 ml Erlenmeyer flasks containing
暴露容器	mlが入っており、綿栓で封じられている。	100 ml of test solution and were capped with a cotton plug.
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	止水	止水
連数		
各濃度区の少なくとも1連における	pH幅: 8.1-10.2	pH ranged from 8.1- 10.2.
試験開始時と終了時の水質		
試験温度範囲	23 ± 1°C	23 ± 1°C
照明の状態	明/暗サイクル: 24/0時間	light/dark photoperiod of 24/0 hours
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度	62.5, 125, 250, 500, 1000 ppm	62.5, 125, 250, 500 and 1000 ppm
	最大ば〈露レベルの実測濃度は、927.05 ppm(0時間目)、	The actual concentration of the highest exposure level was
	408.85 ppm(96時間目)であった。.	927.05 ppm at time 0 and 408.85 ppm at 96 hours.
実測濃度	下限濃度は、0時間目で設定レベルの70-105%	Lower concentrations were within 70–105% nominal levels at
	96 時間後は10ppmを下回る	time 0, but less than 10 ppm after 96 hours.
細胞密度		
生長阻害率(%)	毒性は観察されなかった。	Toxic Limit Conc: no toxicity was observed
各濃度区における生長曲線	E DECA 1 = DECAULES 18 2	
	試験中、試験物質が入っているフラスコ内のpH、酸素濃度、温	The pH and temperature of flasks containing test material
	度、アルカリ度は許容限界内にあり、時間や試験物質濃度にと	remained within acceptable limits throughout the study and did
	もない変化することはなかった。対照培地のpHは 8.2 から	not vary with time or concentration of test material. The pH of
	10.2.まで上昇した。 試験物質は藻類の生長に対して影響しない。	the control medium increased from 8.2 to 10.2.
その他観察結果	試験物質は深類の生長に対して影響しない。 詳細英文参照	There was no effect of test material on algal growth. The test was considered valid, as the concentration of control algae
	<b>叶州关入</b> 罗照	increased by a factor of 93.3 within 3 days (at least a factor of
		16 is required).
		10 10 10 4411 0471
	テレフタル酸の一部は、同試験条件下で、塩へ変化すると考え	Under the test conditions it was believed that some of the
	られた。 連度の低下は、蒸粧が試験物質を吸差したためと考えられた。	terephthalic acid was converted to a salt. The decrease in concentration was believed to be due to adsorption of the
	濃度の低下は、藻類が試験物質を吸着したためと考えられた。 48-72時間目にかけて、125 - 1000 ppmで処理した全連の細胞	material by the algae. Cells in all replicates treated with 125 -
		1000 ppm were noted to have appeared paler than controls or
注釈	川よ、刈児または02.0 DDMで処理した細胞よりも巴が鼻(みょ)で	
注釈		
注制	は、対照または02.5 ppmで処理した細胞よりも巴が導くみんだと記録された。	those treated with 62.5 ppm between 48-72 hours.
	記録された。	those treated with 62.5 ppm between 48-72 hours.
対照区での生長は妥当か	記録された。	those treated with 62.5 ppm between 48-72 hours. 不明
	記録された。	those treated with 62.5 ppm between 48-72 hours.

結論		
結里(FrC50)	EC10 mg/l 実測/設定	NOEC > 1000 mg/l measured/nominal EC10 mg/l measured/nominal EC50 > 1000 mg/l
結果(NOEC)		
信頼性スコア	2. 制限付で信頼性あり(非GLP等)	2. 制限付で信頼性あり(非GLP等)
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	(Scenedesmus subspicatus) of Terephthalic Acid. Conducted by Battelle Europe; Study # BE-EA-128-91-02-ALG-3;	Amoco Corporation (1993) A Study of the Toxicity to Algae (Scenedesmus subspicatus) of Terephthalic Acid. Conducted by Battelle Europe; Study # BE-EA-128-91-02-ALG-3; Referenc
引用文献		
備考		

4-4 微生物への毒性(例えばバクテリア)

<u>4-4 微生物への毒性(例えばハクァ</u>	· <b>)</b> F)	
試験物質	テレフタル酸	terephthalic acid
同一性	100-21-0	100-21-0
[A] — 1±	> 99.9 - % w/w	> 99.9 - % w/w
	OECD ガイドライン 209 "活性汚泥,呼吸阻害試験"	OECD Guide-line 209 "Activated Sludge, Respiration Inhibition
方法		Test"
試験の種類	水生	水生
GLP	はい	はい
試験を行った年	1991	1991
生物種	主に生活排水の活性汚泥	activated sludge of a predominantly domestic sewage
試験物質の分析の有無	あり	あり
試験物質の分析方法		
暴露期間	16日	16 days
試験条件		
結果		
毒性値		
注釈	毒性予測試験(the range finding test)において、飽和濃度での	
	活性汚泥の呼吸速度は抑制されなかった。	saturated concentrations during the range finding test.
結論		
結果(EC50等)	EC50 = 1392.8 mg/l	EC50 = 1392.8 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
	Amoco Chemicals Co. (1992) Data cited in a letter with	Amoco Chemicals Co. (1992) Data cited in a letter with
出典	enclosures from Amoco Chemicals Co. to ICI Chemicals &	enclosures from Amoco Chemicals Co. to ICI Chemicals &
	Polymers Limited. Dated January 29, 1993	Polymers Limited. Dated January 29, 1993
引用文献		
備考		

試験物質	テレフタル酸	terephthalic acid
同一性	100-21-0	100-21-0
问一注	試験物質: データなし	Test substance: no data
方法	方法: その他	Method: other
試験の種類	選択して下さい	選択して下さい
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種	その他原生動物: 肝蛭(Fasciola hepatica)	other protozoa: Fasciola hepatica
試験物質の分析の有無	なし	no data
試験物質の分析方法		
暴露期間	2時間	2 hours
試験条件		
結果		
毒性値		
注釈 結論	試験パラメーターは可動性及び色の変化であった。	Parameters tested were mobility and change in color.
結論	500 000 "	500 000 //
結果(EC50等)	ECO = 830 mg/l	EC0 = 830 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典 引用文献	8	8
	O .	0
備考		

試験物質	テレフタル酸	terephthalic acid
同一性	100-21-0	100-21-0
问一注	試験物質: データなし	Test substance: no data
方法	運動抑制	Motility inhibition
試験の種類	選択して下さい	選択して下さい
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種	その他原生動物: 繊毛虫類(Tetrahymena pyriformis)	other protozoa: Tetrahymena pyriformis
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
	24時間	24 hours
<u>試験条件</u> 結果		
結果		
毒性値		
注釈		
結論		

結果(EC50等)	EC50 = 800 mg/l	EC50 = 800 mg/l
信頼性スコア		選択して下さい
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	9	9
備考		

試験物質	テレフタル酸	terephthalic acid
	100-21-0	100-21-0
同一性	試験物質: データなし	Test substance: no data
方法	その他	other
試験の種類	土壌	土壌
GLP	不明	不明
試験を行った年	1986	1986
生物種	その他線虫類 (エレガンス線虫: Caenorhabditis elegans)	other nematode (Caenorhabditis elegans)
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
暴露期間		
試験条件		
結果		
毒性値		
注釈	及ぼさないが、幼虫と成虫の生長と繁殖に重度の障害が生じる。 1 ug/mlでは L1-L2ステージで L1幼虫の生長を阻止する。	Terephthalic acid does not affect the early embryogenesis of the soil nematode Caenorhabditis elegans, but causes severe disturbance in the growth and reproduction of larval and adult C. elegans.  One ug/ml arrests the growth of L1 larvae at the L1-L2 stage. However, embryos can develop normally to hatching even in the presence of TPA.
結論		
結果(EC50等)		NOEC = 1 mg/l
信頼性スコア		選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	10	10
備考		

- 4-5 水生生物への慢性毒性
- A. 魚への慢性毒性
- B. 水生無脊椎動物への慢性毒性
- 4-6 陸生生物への毒性

# A. 陸生植物への毒性

八. 性工他物 W 母任		
試験物質	テレフタル酸	terephthalic acid
同一性	100-21-0	100-21-0
问一注	試験物質: データなし	Test substance: no data
方法	その他	other
試験の種類	選択して下さい	選択して下さい
GLP	不明	不明
試験を行った年		
種	エンバク(単子葉植物)	Avena sativa (Monocotyledon)
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
エンドポイント	発根遅延	seedling root elongation
暴露期間	1日	1 day(s)
試験条件 結果		
結果		
毒性値		EC0 = 100 mg/l
注釈	設定濃度	Nominal concentration
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	11	11
備考		

試験物質	テレフタル酸	terephthalic acid
同一性	100-21-0	100-21-0
п ш	試験物質: 不明	Test substance: no data
方法		other
試験の種類	選択して下さい	選択して下さい
GLP	不明	不明
試験を行った年		
種	アジアイネ・サティバ(単子葉植物)	Oryza sativa (Monocotyledon)
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
エンドポイント	発根遅延	seedling root elongation
暴露期間	5日	5 days
試験条件		
結果		
		EC0 > 10 mg/l
井江吧	EC20 = 100 mg/l	EC20 = 100 mg/l

注釈	設定濃度	Nominal concentration
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	11	11
備考		

#### B. 土壌生物への毒性

C. 他の非哺乳類陸生種(鳥類を含む)への毒性

U. 他の非哺乳類陸生性(局類を含	6) / 0 毎日	
試験物質	テレフタル酸	terephthalic acid
同一性	100-21-0	100-21-0
同一性	試験物質: 不明	Test substance: no data
試験の種類	選択して下さい	選択して下さい
GLP	不明	不明
試験を行った年		
種	キイロショウジョウバエ (節足動物(ハエ目))	Drosophila melanogaster (arthropod (Diptera))
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法	その他	other
エンドポイント	死亡率	mortality
暴露期間	3日	3 days
試験条件		
結果		
毒性値	LC0 = 166 mg/kg bw	LC0 = 166 mg/kg bw
注釈	幼虫と蛹	Larva and pupa
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Goncharova, Kuzhir, Levina (1984): Vestsi Akad. Navuk BSSR,	Goncharova, Kuzhir, Levina (1984): Vestsi Akad. Navuk BSSR,
	Ser. Biyal. Navuk, 47–50	Ser. Biyal. Navuk, 47–50
引用文献		
備考		

試験物質	テレフタル酸	terephthalic acid
同一性	100-21-0	100-21-0
同一性	試験物質: 不明	Test substance: no data
試験の種類	選択して下さい	選択して下さい
GLP	不明	不明
試験を行った年		
種	ホワイトレグホン、ニワトリ	White Leghorn-Chicken
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
エンドポイント		
暴露期間		
試験条件	方法: その他	Method: other
結果		
毒性値		
注釈	産卵に関する情報なし	No information on egg laying and Eirqualitaet.
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	12	12
備考		

- 4-6-1底生生物への毒性
- 4-7 生物学的影響モニタリング(食物連鎖による蓄積を含む)
- 4-8 生体内物質変換と動態
- 4-9 追加情報

項目名	和訳結果(EU-RAR)	原文(EU-RAR)

# 5-2 急性毒性

# A. 急性経口毒性

試験物質名 CAS番号 純度等  注釈 方法 方法 方法/ガイドライン  GLP適合 試験を行った年	テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w 供給源: Amoco Corporation. 純度の記載なし。一般的には>99%。 選択してください 方法: 限界 LD50	terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w Terephthalic acid was supplied by the Amoco Corporation. Purity was not noted but typically exceeds 99%.
純度等  注釈 方法  方法/ガイドライン  GLP適合  試験を行った年	> 99.9 - % w/w 供給源: Amoco Corporation. 純度の記載なし。一般的には>99%。 選択してください 方法: 限界 LD50	> 99.9 - % w/w Terephthalic acid was supplied by the Amoco Corporation. Purity was not noted but typically exceeds 99%. 選択してください
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年	供給源: Amoco Corporation. 純度の記載なし。一般的には>99%。 選択してください 方法: 限界 LD50	Terephthalic acid was supplied by the Amoco Corporation. Purity was not noted but typically exceeds 99%. 選択してください
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年	供給源: Amoco Corporation. 純度の記載なし。一般的には>99%。 選択してください 方法: 限界 LD50	Terephthalic acid was supplied by the Amoco Corporation. Purity was not noted but typically exceeds 99%. 選択してください
方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年	越度の記載なし。一般的には>99%。         選択してください         方法: 限界         LD50	Purity was not noted but typically exceeds 99%. 選択してください
方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年	<b>選択してください</b> 方法: 限界 LD50	選択してください
方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年	方法: 限界  LD50	
方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年	方法: 限界  LD50	
方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年	方法: 限界  LD50	
GLP適合 試験を行った年	方法: 限界  LD50	
GLP適合 試験を行った年	方法: 限界  LD50	
試験を行った年		Method: limit
試験を行った年		Type: LD50
試験を行った年	はい	はい
	1990	1990
試験系(種/系統)	Rat	Rat
武戦术(性/ 木机)	Sprague-Dawley	Sprague-Dawley
性別	MF	MF
	IMI	imi
投与量		
各用量群(性別)の動物数	10	10
溶媒(担体)	蒸留水	蒸留水
冷妹(担体)		
	強制経口投与	強制経口投与
投与経路	照明性自我子	
60 ct 140 88		
観察期間		
	詳細は英文参照	A single dose of 5000 mg/kg test material (diluted with water
		to form a 50% w/v suspension) was administered by oral
		gavage at a rate of 10 ml/kg. At initiation of dosing rats were
		approximately 9 weeks of age and weighed an average of 310 g
その他の試験条件		
ての他の成款本件		(M) and 183 g (F). Body weights were assessed at dosing, and
		on Days 7 and 14. Animals were observed daily for 14 days at
		which time they were killed and necropsied.
		· ·
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数	両性において死亡は記録されなかった。	No deaths were noted in either sex.
日刊至前での元と気	臨床所見は、下痢(雄5/5、雌5/5)、鼻周辺の赤み(雄3/5、雌	Clinical signs consisted of diarrhea (M 5/5; F 5/5), redness
	2/5)及び鼠蹊部の毛皮の退色(雄4/5、雌1/5)であった。所見	around nose (M 3/5; F 2/5), and discolored inguinal fur (M 4/5;
臨床所見	は、48時間処理のたいていの動物検体において減少し、全動	F 1/5). Signs diminished in most animals by 48 hours and all
	物検体は調査満期において正常だった。	were normal at study termination.
441A = C = 1		
剖検所見	全剖検所見を通して、変化は記録されなかった。	No alterations were noted during gross necropsy.
その他	平均体重は、調査の間中、増加した。	Mean body weights increased during the study.
結論		
LD50値又はLC50値	LD50> 5000 mg/kg bw	LD50> 5000 mg/kg bw
雌雄のLD50値又はLC50値の違い		
等		
注釈		
信頼性	1 制限なく信頼性あり	1 制限なく信頼性あり
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
HERETAN LIBERTANCE	Amoco Chemicals Co. (1990) Acute Dermal Toxicity Study of	Amoco Chemicals Co. (1990) Acute Dermal Toxicity Study of
ĺ		
出典	Terephthalic Acid in Rabbits. Test Study Reference: IITRI SN	Terephthalic Acid in Rabbits. Test Study Reference: IITRI SN
山光	1558, TA# 445F	1558, TA# 445F
ĺ		
 引用文献(元文献)		
カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カ		
備考		

## B. 急性吸入毒性

試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
		·
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	> 99.9 - % w/w	> 99.9 - % w/w
	供給源: Amoco Corporation	Terephthalic acid was supplied by the Amoco Corporation.
	純度の記載はないが、一般的には>99%	Purity was not noted but typically exceeds 99%.
		· · · · ·
注釈		
方法		
	選択してください	選択してください
方法/ガイドライン	方法: 限界	Method: limit
	タイプ: LC50	Type: LC50
GLP適合	はい	はい
	1987	1987
試験を行った年		
試験系(種/系統)	Rat	Rat
ロスペスパベーエン アベルル	Sprague-Dawley	Sprague-Dawley
性別	MF	MF
投与量		
IX 子至		
各用量群(性別)の動物数	10	10
海供(担任)	選択してください	選択してください
溶媒(担体)	不明	no data
10. H 47.05	粉体吸入	粉体吸入
投与経路	10011 1000 1	10011 0000 7
観察期間		

その他の試験条件	詳細は英文参照	Exposure time: 2 hour(s) Number of animals: 5/sex Animals were exposed to a single 2.02 mg/l concentration of test material as a particulate aerosol for two hours. A time—weighted average concentration was determined by gravimetric analysis. Exposure occurred in 68.2 L glasschambers at a temperature of 21 oC and relative humidity of 40%. At initiation of exposure rats weighed an average of 198 g (M) and 167 g (F). Body weights were assessed at time
統計学的処理		of exposure and on Days 7 and 14. Animals were rinsed in warm water after exposure to remove test material from skin. Animals were observed daily for 14 days at which time they were killed and necropsied.
杭町子的処理  結果		
	- 一本性において基本は記録されたかった。	No deaths were noted in either and
各用量群での死亡数 臨床所見	両性において死亡は記録されなかった。 臨床所見は、正常(雄1/5、雌3/5)、下痢(雄:3/5)、鼻周辺の赤み(雄4/5、雌1/5)、鼠蹊部の毛皮の湿り(雌1/5)、鼠蹊部の毛皮の退色(雄3/5、雌2/5)、腹部の毛皮の退色(雌1/5)、及び腹部の脱毛(雌1/5)であった。	No deaths were noted in either sex.  Clinical signs consisted of: normal (M 1/5; F 3/5); diarrhea (M :3/5); redness around nose (M 4/5; F 1/5); wet inguinal fur (F 1/5); discolored inguinal fur (M 3/5; F 2/5); discolored abdominal fur (F 1/5); and abdominal hair loss (F 1/5).
剖検所見	全剖検所見を通して、正常(M 3/5、F 4/5)、暗色の肺(M 1/5)、及び下顎リンパ節の拡大(M 1/5、F 1/5)が記録された。	Alterations noted during gross necropsy consisted of: normal (M 3/5; F 4/5); dark lungs (M 1/5); and enlarged mandibular lymph node (M 1/5; F 1/5).
その他	平均体重は、調査の間中、増加した。	Mean body weights increased during the study.
結論		
LD50値又はLC50値	LC50> 2.02 mg/l	LC50> 2.02 mg/l
雌雄のLD50値又はLC50値の違い 等		
注釈	技術的な問題は、試験物質のサイズによる分類及びプロトコルが要求する、4時間、濃度5mg/lの暴露を妨げた。 そのため、動物検体は、2.02mg/lをわずか2時間暴露された。	Technical difficulties prevented sizing of the particulate test material and the protocol-desired exposure concentration of 5 mg/l for 4 hours. Thus, animals underwent only a 2 hour exposure to 2.02 mg/l.
信頼性	2 制限付きで信頼性あり(非GLP等)	2 制限付きで信頼性あり(非GLP等)
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	試験に用いた粒径が不明なため信頼性を減点した	Reliability was decreased due to inability to measure test particle size.
出典	Amoco Chemicals Corporation (1987) Acute Inhalation Toxicity study of Purified Terephthalic Acid in Rats. Conducted by IIT Research Institute. IITRI Study #1158	Amoco Chemicals Corporation (1987) Acute Inhalation Toxicity study of Purified Terephthalic Acid in Rats. Conducted by IIT Research Institute. IITRI Study #1158
引用文献(元文献) 備考		

\_C. 急性経皮毒性

試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	> 99.9 - % w/w 供給源: Amoco Corporation 純度の記載はないが、一般的には>99%.	> 99.9 - % w/w Terephthalic acid was supplied by the Amoco Corporation. Purity was not noted but typically exceeds 99%.
注釈		
方法		
	選択してください	選択してください
方法/ガイドライン	方法: 限界用量 LD50	Method: limit dose Type: LD50
GLP適合	はい	はい
試験を行った年	1990	1990
試験系(種/系統)	Rabbit	Rabbit
武衆术(性/ お杌)	New Zealand	New Zealand
性別	MF	MF
投与量		
<b>汉</b> 子里	2000 mg/kg	2000 mg/kg
各用量群(性別)の動物数	10	10
溶媒(担体)	溶媒無し	溶媒無し
	経皮	経皮
観察期間	14	14
その他の試験条件	詳細は英文参照	Number of animals: 5/sex At initiation of exposure rabbits were about 3 months of age and weighed an average of 2.59 kg (M) and 2.45 kg (F). Prior to application, the backs were shaved and moistened with water. A single dose of 2000 mg/kg test material (a neat powder) was applied on the back and covered with an occlusive wrap. Body weights were assessed at dosing, and on Days 7 and 14. Animals were observed daily for 14 days at which time they were killed and necropsied.
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数	両性において死亡は記録されなかった。	No deaths were noted in either sex.

	·	
臨床所見		The only clinical signs noted consisted of an erythema at the application site immediately after unwrapping in 2/5 males and 4/5 females. All animals appeared normal by Day 4.
회수로무		No alternations are added to the second
剖検所見		No alterations were noted during gross necropsy.
その他	平均体重は、調査の間中、増加した。	Mean body weights increased during the study.
結論		
LD50値又はLC50値	LD50> 2000 mg/kg bw	LD50> 2000 mg/kg bw
雌雄のLD50値又はLC50値の違い		
注釈		
信頼性	1 制限なく信頼性あり	1 制限なく信頼性あり
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
	Amoco Chemicals Co. (1990) Acute Dermal Toxicity Study of	Amoco Chemicals Co. (1990) Acute Dermal Toxicity Study of
	Terephthalic Acid in Rabbits. Test Study Reference: IITRI SN	Terephthalic Acid in Rabbits. Test Study Reference: IITRI SN
出典	1558, TA# 445F	1558, TA# 445F
引用文献(元文献)		
備考		

D. 急性毒性(その他の投与経路)

<u>D. 急性毒性(その他の投与経路)</u>		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	不明	Test substance: no data
注釈 方法		
方法		
方法/ガイドライン	LD50	Type: LD50
GLP適合	不明	不明
試験を行った年	1966	1966
	Rat	Rat
試験系(種/系統)	不明	不明
性別	選択してください	選択してください
投与量		
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
冶殊(三件)		
投与経路	腹腔内	腹腔内
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理 結果		
<sup>紀未</sup> 各用量群での死亡数		
音用重任での死亡数 臨床所見		
剖検所見		
その他		
その他 結論		
毒性値	LD50=2250 mg/kg bw	LD50=2250 mg/kg bw
注釈		
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Massman. (1966) Inst Fuer Arbeitsmedizin der Uni Tuebingen,	Massman. (1966) Inst Fuer Arbeitsmedizin der Uni Tuebingen,
	1966	1966
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	不明	Test substance: no data
注釈 方法		
方法/ガイドライン	LD50	Type: LD50
GLP適合	不明	不明
試験を行った年	1966	1966
試験系(種/系統)	Rat	Rat
	不明	不明
性別	選択してください	選択してください
投与量		
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
7178 (2-117	ne no de	
投与経路	腹腔内	腹腔内
48 Str #0 88		
観察期間 その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
相条 各用量群での死亡数		
臨床所見		
剖検所見		
その他		
結論		
毒性値	LD50=1210 mg/kg bw	LD50=1210 mg/kg bw
注釈		
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		

出典 引用文献(元文献) 備考	13	10
	13	
備考		13
	•	<u> </u>
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
八十八年 日		
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	不明	Test substance: no data
注釈		
方法		
方法/ガイドライン	LD50	Type: LD50
GLP適合	不明	不明
試験を行った年	1966	1966
	Mouse	Mouse
試験系(種/系統)	不明	不明
A4. Da		
性別	選択してください	選択してください
投与量		
各用量群(性別)の動物数		
冷世(担任)	選択してください	選択してください
溶媒(担体)		
	腹腔内	腹腔内
投与経路		
to the Hann		
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
<del>旭本</del> 各用量群での死亡数		
<u>臨床所見</u>		
剖検所見		
その他		
結論		
毒性値	LD50=880 mg/kg bw	LD50=880 mg/kg bw
注釈		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	13	13
備考		
<b>川</b> 行		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	不明	Test substance: no data
	משיר	Test substance. No data
注釈		
方法		
方法/ガイドライン	LD50	Type: LD50
GLP適合	不明	不明
試験を行った年	1968	1968
武衆を11 フルキ		
試験系(種/系統)	Mouse	Mouse
	不明	不明
性別	選択してください	選択してください
投与量	~#\U	2,100
久田豊群(性別)の動物数		
各用量群(性別)の動物数	選切してノゼキい	2型101 ナノギナハ
	選択してください	選択してください
各用量群(性別)の動物数 溶媒(担体)		
溶媒(担体)	選択してください 選択してください	選択してください
溶媒(担体) 投与経路		
溶媒(担体) 投与経路 観察期間		
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件		
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件		
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理		
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果		
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 を用量群での死亡数		
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見		
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 剖検所見		
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 副検所見 その他		
溶媒(担体)       投与経路       観察期間       その他の試験条件       統計学的処理       結果       各用量群での死亡数       臨床所見       刮検所見       その他       結論		
溶媒(担体)       投与経路       観察期間       その他の試験条件       統計学的処理       結果       各用量群での死亡数       臨床所見       刮検所見       その他       結論		
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 剖検所見 その他	選択してください	選択してください
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 名用量群での死亡数 臨床所見 剖検所見 その他 結輪 素性値	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw	選択してください ED50=1430 mg/kg bw
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 結果 日本の形亡数 臨床所見 副検所見 その他 結論 毒性値 注釈 信頼性	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw 選択してください	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 剖検所見 その他 結論 毒性値 注釈 信頼性 キースタディ	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw	選択してください ED50=1430 mg/kg bw
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 割検所見 その他 結論 毒性値 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw 選択してください	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 副検所見 その他 結  古論  古漢  「管頼性 ・ニスタディ 信頼性 ・キースタディ 信頼性の判断根拠 出典	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 副検所見 その他 結  古論  古漢  「管頼性 ・ニスタディ 信頼性 ・キースタディ 信頼性の判断根拠 出典	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw 選択してください	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 剖検所見 その他 結請性値 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献)	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 副検所見 その他 結  古論  古漢  「管頼性 ・ニスタディ 信頼性 ・キースタディ 信頼性の判断根拠 出典	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 剖検所見 その他 結論 毒性値 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献)	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 剖検所 その他 結論 毒性値 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  3. 14  アレフタル酸	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  選択してください  はterephthalic acid
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 副検所見 その他 結論 毒性値 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性 生ースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14  テレフタル酸 100-21-0	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  はerephthalic acid 100-21-0
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 剖検所 その他 結論 毒性値 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  3.14  プレフタル酸	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  選択してください  はterephthalic acid
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 番用量群での死亡数 臨床所見 剖検所見 その他 結論 毒性値 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14  テレフタル酸 100-21-0	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  はerephthalic acid 100-21-0
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 副検所見 その他 結請性値 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14  テレフタル酸 100-21-0	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  はerephthalic acid 100-21-0
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 剖検所見 その他 結論 毒性値 注頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14  terephthalic acid 100-21-0  Test substance: no data
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 剖検所見 その他 結論 毒性値 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法 方法 ガイドライン	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14  テレフタル酸 100-21-0  不明  LD50	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14  terephthalic acid 100-21-0 Test substance: no data  Type: LD50
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 司後所見 その他 結論 毒性値 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注末の 方法/ガイドライン GLP適合	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14  terephthalic acid 100-21-0  Test substance: no data
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 司後所見 その他 結論 毒性値 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注末の 方法/ガイドライン GLP適合	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14  テレフタル酸 100-21-0  不明  LD50	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14  terephthalic acid 100-21-0 Test substance: no data  Type: LD50
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 剖検所 その他 結論 毒性値 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法 方法 方法 方法 方法 方法 方法 方法 方たた年	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  はerephthalic acid 100-21-0 Test substance: no data  Type: LD50 不明
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 司後所見 その他 結論 毒性値 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注末の 方法/ガイドライン GLP適合	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14  テレフタル酸 100-21-0  不明  LD50  不明  Mouse	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14  terephthalic acid 100-21-0 Test substance: no data  Type: LD50 不明  Mouse
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 剖検所見 その他 結論 毒性値 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備 著 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14  terephthalic acid 100-21-0 Test substance: no data  Type: LD50 不明  Mouse 不明
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 剖検所見 その他 結論 毒性値 注頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注方法 方法/方法 方法/方法 方法/方方方法 方法/方方た年 試験系(種/系統) 性別	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14  テレフタル酸 100-21-0  不明  LD50  不明  Mouse	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14  terephthalic acid 100-21-0 Test substance: no data  Type: LD50 不明  Mouse
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 剖検所見 その他 結論 毒性値 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備 著 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14  terephthalic acid 100-21-0 Test substance: no data  Type: LD50 不明  Mouse 不明
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 司後の他 結論 毒性値 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注形 方法 (種 / 系統) 性別 投与量	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14  terephthalic acid 100-21-0 Test substance: no data  Type: LD50 不明  Mouse 不明
溶媒(担体) 投与経路 観察期間 その他の試験条件 統計学的処理 結果 各用量群での死亡数 臨床所見 剖検所見 その他 結論 毒性値 注頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注方法 方法/方法 方法/方法 方法/方方方法 方法/方方た年 試験系(種/系統) 性別	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14	選択してください  LD50=1430 mg/kg bw  選択してください  選択してください  14  terephthalic acid 100-21-0 Test substance: no data  Type: LD50 不明  Mouse 不明

投与経路	腹腔内	腹腔内
<b>汉子柱</b> 匠		
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見		
剖検所見		
その他 結論		
結論		
毒性値	LD50=1900 mg/kg bw	LD50=1900 mg/kg bw
注釈		
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	15	15
備考		

試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	不明	Test substance: no data
注釈		
方法		
方法/ガイドライン	LD50	Type: LD50
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種/系統)	Mouse	Mouse
	不明	不明
性別	選択してください	選択してください
投与量		
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
/台妹 (這件)		
投与経路	血管内	血管内
<b>汉</b>	静脈内	i.v.
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見		
剖検所見		
その他		
結論		
毒性値	LD50=770 mg/kg bw	LD50=770 mg/kg bw
注釈		
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	13	13
備考		

試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	不明	Test substance: no data
注釈 方法		
方法		
方法/ガイドライン	LD100	Type: LD100
GLP適合	不明	不明
試験を行った年	1971	1971
	その他	その他
試験系(種/系統)	イヌ/ 不明	dog ∕ no data
性別	選択してください	選択してください
投与量		700 H 100 0 1100 0 1
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
冶殊(担件)		
投与経路	血管内	血管内
<b>技</b> 子程龄	静脈内	i.v.
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見		
剖検所見		
その他 結論		
結論		
毒性値	LD100=767 mg/kg bw	LD100=767 mg/kg bw
注釈		
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		4-
引用文献(元文献)	15	15
備考		

試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	不明	Test substance: no data
注釈		
方法		
	方法: 不明	Method: unknown
方法/ガイドライン	LD0	Type: LD0
GLP適合	不明	不明
試験を行った年	1971	1971
	選択してください	選択してください
試験系(種/系統)	マウス,ラット,ウサギ,ネコ,イヌ / 不明	Mice, rats, rabbits, cats, dogs / 不明
性別	選択してください	選択してください
投与量	, <u>,</u>	
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
冶殊(垣座)		
投与経路	血管内	血管内
	静脈内	i.v.
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見 剖検所見		
その他	イヌは静脈内にテレフタル酸を100mg/kgから700mg/kg投与された。 100mg/kg投与後、分時換気量は上がった。500mg/kg投与後、肺コンプライアンスは低下した。また、600mg/kg投与後は、大動脈の血圧において減少が生じた。イヌの死は、呼吸停止や大動脈の血圧における突然の減少により、先行した。	The pharmacological features of terephthalic acid were examined in mice, rats, rabbits, cats, and dogs. The injection of sublethal amounts of terephthalic acid progressively stimulated respiration, increased pulmonary resistance, and decreased pulmonary compliance. Dogs were given 100 to 700 mg/kg of terephthalic acid intravenously.  After 100 mg/kg, the respiratory minute volume was elevated; after 500 mg/kg, pulmonary compliance was decreased; and after 600 mg/kg, a decreased in aortic blood pressure occurred. Death of the dogs was preceded by respiratory arrest and an abrupt decrease in aortic blood pressure.
結論		
毒性値	Ld0=100 - 700 mg/kg bw	Ld0=100 - 700 mg/kg bw
注釈	122 I T   - / L   L   L   L   L   L   L   L   L   L	192 LD 1 / LS L 1 .
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	46	45
引用文献(元文献)	15	15
備考		

# 5-3 腐食性/刺激性

A. 皮膚刺激/腐食		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	> 99.9 - % w/w	> 99.9 - % w/w
注釈		
рН		
方法		
方法/ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	はい	はい
試験を行った年	1990	1990
試験系(種/系統)	Rabbit	Rabbit
武級术(性/术机)	不明	不明
性別	選択してください	選択してください
投与量		
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	経皮(毛刈りした健常皮膚に被験物質を塗布)	dermal (admin test substance to slipped normal skin)
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
一次刺激スコア		
皮膚反応等		
その他		
結論	4-1	2-1
皮膚刺激性	なし	なし
皮膚腐食性	なし	なし
注釈	刺激性も腐食性もみられなかった。	No irritancy or corrosivity was observed
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		(1000) 111 11 11 11 11 11
		Amoco Corporation (1990) Abbreviated Acute Dermal Irritancy
出典		ed / Corrosivity Study of Terephthalic Acid in Rabbits. Conducted
шж	by IIT Research Institute. IITRI Study #1556	by IIT Research Institute. IITRI Study #1556
引用文献(元文献)		

試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	不明	Test substance: no data
注釈		
pH 方法		
方法		
方法/ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年	1975	1975
=+ F-ヘ ズ / エチ - / ズ 4大 \	Rabbit	Rabbit
試験系(種/系統)	不明	no data
性別	選択してください	選択してください
投与量		
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
冷珠(担体)		
投与経路	経皮(毛刈りした健常皮膚に被験物質を塗布)	dermal (admin test substance to slipped normal skin)
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
一次刺激スコア		
皮膚反応等		
その他		
結論		
皮膚刺激性	あり	あり
皮膚腐食性	不明	不明
<b>→</b> #□	わずかに刺激性あり	slightly irritating
注釈	EC分類: 刺激性なし	EC classificat.: not irritating
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
	Amoco Corporation (1975) Primary Skin Irritation Test with	Amoco Corporation (1975) Primary Skin Irritation Test with
出典	Terephthalic Acid in Rabbits. IBT Study #601-06339	Terephthalic Acid in Rabbits. IBT Study #601-06339
引用文献(元文献)		
備考		
ND . 2		1

B. 眼刺激/腐食

B. 眼刺激/腐食		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	> 99.9 - % w/w	> 99.9 - % w/w
注釈		
方法		
方法/ガイドライン	その他	other
試験のタイプ	選択してください	選択してください
GLP適合	はい	はい
試験を行った年	1990	1990
	Rabbit	Rabbit
試験系(種/系統)	不明	不明
性別	選択してください	選択してください
投与量		
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	不明	不明
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
腐食	不明	不明
刺激点数: 角膜		
刺激点数: 虹彩		
刺激点数: 結膜		
<u>その他</u>		
結論	+\	<del>/</del> >1
眼刺激性	なし	なし
眼腐食性	不明	不明
注釈	EC分類: 刺激性なし	EC classificat.: not irritating
	事実上、刺激性はみられなかった。	Virtually no irritation was observed.
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		4000 411 4 15 15 15 15 15
	Amoco Corporation (1990) Abbreviated Primary Eye Irritation	Amoco Corporation (1990) Abbreviated Primary Eye Irritation
出典	Study of Terephthalic Acid in Rabbits. Conducted by IIT	Study of Terephthalic Acid in Rabbits. Conducted by IIT
	Research Institute. IITRI Study #1555	Research Institute. IITRI Study #1555
引用文献(元文献)		
備考		
<b>洲</b>		

試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	不明	Test substance: no data
注釈		
方法		
方法/ガイドライン		other
試験のタイプ	選択してください	選択してください
GLP適合	いいえ	いいえ

試験を行った年	1975	1975
試験系(種/系統)	Rabbit	Rabbit
武炭木(性/ 木利)	不明	no data
性別	選択してください	選択してください
投与量		
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
		<del>-</del>
投与経路	不明	不明
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果	T-00	7.00
腐食	不明	不明
刺激点数: 角膜		
刺激点数: 虹彩		
刺激点数: 結膜		
その他		
結論	+11	+11
眼刺激性	あり	<u>あり</u>
眼腐食性	不明	不明
注釈	結果:わずかに刺激性あり	Result: slightly irritating
	EC分類: 刺激性なし	EC classificat.: not irritating
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Amoco Corporation (1975) Eye Irritation Test with	Amoco Corporation (1975) Eye Irritation Test with
	Terephthalic Acid in Rabbits. IBT Study #601-06339	Terephthalic Acid in Rabbits. IBT Study #601-06339
引用文献(元文献)		
備考		
_		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid

試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	不明	Test substance: no data
注釈 方法		
方法		
方法/ガイドライン		
試験のタイプ	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種/系統)	Rabbit	Rabbit
武駅ボ(性/ ボボ)	不明	不明
性別	選択してください	選択してください
投与量		
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	不明	不明
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
腐食	不明	不明
刺激点数:角膜		
刺激点数:虹彩		
刺激点数:結膜		
<u>その他</u> 結論		
結論		
眼刺激性	あり	<u>あり</u>
眼腐食性	不明	不明
注釈	わずかに刺激性あり	slightly irritating
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	16	16
備考		

試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	不明	Test substance: no data
注釈 方法		
方法		
方法/ガイドライン		
試験のタイプ	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年	1986	1986
試験系(種/系統)	Rabbit	Rabbit
武鞅术(性/术机)	不明	no data
性別	選択してください	選択してください
投与量		
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	不明	不明
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		

結果		
腐食	不明	不明
刺激点数: 角膜		
刺激点数: 虹彩		
刺激点数: 結膜		
その他		
結論		
眼刺激性	あり	あり
眼腐食性	不明	不明
注釈	わずかに刺激性あり	slightly irritating
	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		Prehled Prumyslove Toxikol Org Latky 317 1986 Cited in RTECS
引用文献(元文献)		
備考		

5-4 皮膚感作

5-4 皮膚感作		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	不明	Test substance: no data
注釈 方法		
方法		
方法/ガイドライン	選択してください	選択してください
試験のタイプ	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種/系統)	Guinea Pig	Guinea Pig
	不明	不明
性別	選択してください	選択してください
投与量		
各用量群(性別)の動物数	122 Inc (10) v	122 Int (10)
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	経皮	dermal
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果 試験結果		
試験結果		
その他 結論		
<b>范</b> 語	陰性	陰性
感作性		****
注釈	わずかに刺激性あり	not sensitizing
信頼性	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	16	16
備考		

5-5 反復投与毒性

5-5 及復投予再性		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	> 99.9 - % w/w	> 99.9 - % w/w
	供給源: Amoco Corporation	Terephthalic acid was supplied by the Amoco Corporation.
	純度の記載はないが、一般的には>99%.	Purity was not noted but typically exceeds 99%.
注釈		
方法		
	選択してください	選択してください
方法/ガイドライン	方法: その他	Method: other
	方法: pre−GLP	Method: pre-GLP
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年	1970	1970
試験系(種/系統)	Rat	Rat
ロス州大がく「主ノーがにかし)	その他/ albino	other / albino
性別	MF	MF
投与量	0.05, 0.16, 0.50, 1.6, 5.0%	0.05, 0.16, 0.50, 1.6, and 5.0%
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
//////////////////////////////////////		
投与経路	混餌投与	混餌投与
コントロールグループに対する処理	コントロール群: あり, 未処理	Control Group: yes, concurrent no treatment
投与期間	105	105
投与頻度	毎日	daily in diet
回復期間	なし	none

試験条件	詳細は英文参照	Post exposure period: none Animals (66–79 gram range) were divided into 7 groups of 60 each (30/sex) that corresponded to 2 control groups and 5 test groups (0.05, 0.16, 0.50, 1.6 and 5.0% test material in diet). Food and water were supplied ad libitum. Parameters assessed included: survival, clinical observations, growth, food consumption, hematology, serum clinical chemistries, urinalysis, gross pathology, and weights and histology of a full range of organs. Sacrifices were completed on 6 rats (3/sex) on Days 30, 60, and 90. All remaining animals were terminated on Day 105.
統計学的処理	詳細は英文参照	Data were analyzed using analysis of variance and Duncan multiple range tests.
結果		
体重、体重増加量	5.5%で処理された両性の体重は少し低下した。	Body weights from both sexes treated with 5.0% were mildly depressed.
	影響はなかった。	No effects were noted.
臨床所見(重篤度、所見の発現時 期と持続時間)	5.0%で処理された雄において、調査の後半2/3において sporadic basisに血尿が記録された。 臨床化学: 影響はなかった。	Hematuria was noted on a sporadic basis in the latter two thirds of the study in males treated with 5.0%. Clinical Chemistry: No effects were noted.
眼科学的所見(発生率、重篤度)	D SHIP I I I I	
血液学的所見(発生率、重篤度) 血液生化学的所見(発生率、重篤	影響はなかった。	No effects were noted.
血液生化学的所兑(完生率、里馬 度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)	唯一の顕著な所見は、潜血の跡だった。陽性値は、雄については全用量群(最低レベルを除く)で、雌については全処理レベル(影響を受けた動物検体数は記録されていなかった。)で、時折みられた。潜血は、高用量の雌雄の動物検体を除き、月間試験3回にわたって主に記録された。通常、「小さい」として記録された。	The only noteworthy finding was evidence of occult blood. Positive values were sporadically observed in males of all dose groups (except the lowest level) and in females at all treatment levels (number of animals affected was not listed). Occult blood was noted primarily at the 3 month examination time point except in the high dose animals of both sexes which showed evidence at 30, 60, and 90 days. It was usually noted as "small".
死亡数(率)、死亡時間	動物検体4匹(0.5% (56日目)の雄1匹及び最高用量(54日目、87日目及び90日目)の雌3匹)が原因不明で死亡した。	4 animals (one male at 0.5% (Day 56) and three females in the highest dose (Days 54, 87, and 90) died of unknown etiology.
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量	試験物質の暴露に起因すると考えられる違いは記録されなかった。	No differences were noted that were deemed attributable to exposure to test material.
病理組織学的所見(発生率、重篤 度)	巨視的病理学: 重大な所見は、膀胱に限られる。5%で処理した 雄に結石が記録された(30日間で3/3,60日間で2/3,90日間で 2/3,及び105日間で9/17)。 微視的病理学: 増確変化(過形成)が、試験全群及び対照群の 腎臓及びときおり腎盂上皮において記録された。これらの変化 は、高用量(5%)群の雄について発生率と重篤度の両方におい て有意に増加した。この観察は、高用量群の雌においては決 定的でないと考えられた。	Gross Pathology: Findings of interest were limited to the urinary bladder. Calculi were noted in males treated with 5% (3/3 at 30 days, 2/3 at 60 days, 2/3 at 90 days, and 9/17 at 105 days).  Microscopic Pathology: Proliferative changes (hyperplasia) were noted in the urinary bladder and occasionally the kidney pelvis epithelium of all test groups and controls. These changes were significantly increased in both their incidence and severity in high dose (5%) males. This observation was deemed inconclusive in high dose females
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠	臨界影響として記載されたNOAEL (膀胱結石及びその後の過形成)	The NOAEL listed is for the critical effect (bladder calculi and subsequent hyperplasia).
注釈	膀胱において記録された過形成の変化は、結石の存在によって誘発された慢性刺激に比べれば二次的なものであると思われる。 膀胱結石及びその後の炎症及び過形成は、病理学のこのパターンが示される高用量群(5%)における動物検体にのみ、閾値効果があると思われる。 雄においては7.9, 122, 393, 1220及び3837 mg/kgに相当し、雌においては46, 147, 447, 1456及び4523 mg/kgに相当する。	The hyperplastic change noted in the bladder is believed to be secondary to the chronic irritation induced by the presence of calculi. The bladder calculi and subsequent inflammation and hyperplasia seem to be threshold effects in that only animals in the high dose group (5%) displayed this pattern of pathology. Doses of 0.05%, 0.16%, 0.5%, 1.6% and 5% corresponded to approximately 37.9, 122, 393, 1220 and 3837 mg/kg in males and 46, 147, 447, 1456 and 4523 mg/kg in females, respectively (based on average body weight and food intake).
結論	NOAEL: 1.6%(雄: 約1220 mg/kg、雌: 約1456 mg/kg)	NOAEL 16% (approximately 1220 mg/kg in males and 1450
NOAEL (NOEL)		NOAEL: 1.6% (approximately 1220 mg/kg in males and 1456 mg/kg in females)
LOAEL (LOEL)	LOAEL: 5.0% (雄: 約3837 mg/kg、雌: 約4523 mg/kg)	LOAEL: 5.0% (approximately 3837 mg/kg in males and 4523 mg/kg in females)
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等 注釈		
信頼性	2 制限付きで信頼性あり(非GLP等)	2 制限付きで信頼性あり(非GLP等)
キースタディ 信頼性の判断根拠	試験の年齢と試験物質の純度に関する情報がないため、信頼 性は減点された。	Reliability was decreased due to age of study and lack of test article purity.
出典	Amoco Corporation (1970) Fifteen Week Oral Toxicity Study of Terephthalic Acid – Albino Rats. Conducted by Toxicological Evaluations. LSL Study#1358	Amoco Corporation (1970) Fifteen Week Oral Toxicity Study of Terephthalic Acid - Albino Rats. Conducted by Toxicological Evaluations. LSL Study#1358
引用文献(元文献) 備考		

# 5-6 in vitro遺伝毒性

## A. 遺伝子突然変異

A. 遺伝子突然変異		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	> 99.9 - % w/w	> 99.9 - % w/w
	供給源: Eastman Chemical Company.	Test material was supplied by the Eastman Chemical
	純度: 98%	Company.
	1/E/X. 30%	Purity was 98%
<b>注</b> 如		PHILITY Was 48%
注釈		
方法		
	選択してください	選択してください
方法/ガイドライン	方法: その他	Method: other
71/4/ 73 11 7 12	タイプ: Ames試験	Type: Ames test
GLP適合	不明	不明
試験を行った年	1982	1982
武殿を打つた中		
細胞株又は検定菌	S. typhimurium 4種(TA 1535 & TA 1537 & TA 98 and TA 100)	S. typhimurium 4種(TA 1535 & TA 1537 & TA 98 and TA 100)
神紀休久は快た困		
ルシュナー (00) の十年	+	+
代謝活性化(S9)の有無	有	月
	詳細は英文参照	Concentration: 0, 100, 333, 1000, 3333, 10000 ug/plate
		Cytotoxic Concentration: > 10000 ug/plate
		Approximately 1E8 bacteria/strain were mixed with 0.5 ml of
		either sodium phosphate buffer (pH 7.4) or S9 mix, and test
		material. The metabolic activation system consisted of S9
		supernatant fractions obtained from rat and hamster liver
		previously induced with Aroclor 1254. Test material was
		dissolved in DMSO solvent, incubated at 37 oC for 20 minutes,
		and mixed with 3 ml of molten top agar containing a trace
試験条件		amount of biotin and a growth-limiting amount of histidine. The
		mixture was then poured onto minimal agar plates and
		incubated at 37 oC for 48 hours, after which time histidine-
		revertant colonies were counted. All tests were repeated at
		least once. Positive controls consisted of sodium azide (TA
		100, TA 1535), 4-nitro-o-phenylenediamine (TA 98), 9-
		aminoacridine TA 1537), and 2-aminoanthracene (all strains
		when using metabolic activation).
		when using metabolic activation).
結果		
細胞毒性		
	险处	r:
代謝活性ありの場合	陰性	negative
代謝活性なしの場合	陰性	negative
変異原性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
1400000000	SRIインターナショナルにおいて行われた調査について記録し	The study was noted to have been conducted at CDI
		The study was noted to have been conducted at SRI
	<b>た。</b>	International. It was noted in the published manuscript "All
	それは、出版された原稿"All chemicals were tested, under	chemicals were tested, under code, in a preincubation
注釈	code, in a preincubation modification of the Salmonella plate	modification of the Salmonella plate incorporation assay by
/エが	incorporation assay by Ames et al. 1975."において記録され	Ames et al. 1975."
	t=.	Result: All strains with/without activation
	た。 結果: 活性化有り/無しの全菌株	TOSSIS 7 SE SINO THEN THE HOUSE GOLFGEN
	和木:石は16月9/無6の主風休	
盆⊷		
結論	no lu	IRA Id
遺伝子突然変異	陰性	陰性
	試験した菌株数が現在のガイドラインに適さないため、信頼性	Reliability was decreased due to the number of strains tested
注釈		
/ <del>_</del> 47\	は低下した。	do not meet present guidelines.
·= += 1.1		
	2 制限付きで信頼性あり(非GLP等)	2 制限付きで信頼性あり(非GLP等)
信頼性		
		選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
キースタディ 信頼性の判断根拠		選択してください
キースタディ		選択してください
キースタディ 信頼性の判断根拠 出典	選択してください	
キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献)		選択してください 17
キースタディ <u>信頼性の判断根拠</u> 出典	選択してください	

# B. 染色体異常

5−7 <i>in vivo</i> 遺伝毒性 試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	> 99.9 - % w/w 供給源: Amoco Corporation 純度の記載はないが、一般的には>99%.	> 99.9 - % w/w Terephthalic acid was supplied by the Amoco Corporation. Purity was not noted but typically exceeds 99%.
主釈		
方法		
	OECD474	OECD474
カムノガイドブイン	単回腹腔内注入	single intraperitoneal (ip) injection
試験のタイプ	ほ乳類赤血球小核試験	Mammalian Erythrocyte Micronucleus assay
GLP適合	はい	はい
試験を行った年	2001	2001
	Mouse	Mouse
試験系(種/系統)	ICR	ICR
性別	MF	MF
<del>201</del> 没与量	200, 400, 800 mg/kg	200, 400, and 800 mg/kg
设与経路	選択してください	選択してください
	i.p.	i.p.
試験期間		

試験条件	詳細は英文参照	Exposure period: 24 and 48 hours Animals were about 6–8 weeks of age at study initiation. Animals (5/sex/group) were dosed ip with vehicle (negative control), 200, 400 or 800 mg/kg TPA, or 50 mg/kg cyclophosphamide (positive control) in corn oil in a volume of 20 ml/kg body weight and were sacrificed at 24 hours. Additional animals (5/sex/group) were treated with vehicle or 800 mg/kg TPA and sacrificed at 48 hours. An additional group of 5 males and 5 females were dosed with 800 mg/kg TPA as a replacement group in case of mortality. Bone marrow samples from animals sacrificed at 24 and 48 hours were scored under oil immersion (2000 polychromatic erythrocytes (PCE) per animal) for the presence of micronuclei. The number of micronucleated normocytes per 2000 PCE was also assessed. The proportion of PCE to total erythrocytes was also recorded on a per 1000 erythrocyte basis.
統計学的処理	詳細は英文参照	Statistical significance for the incidence of micronucleated polychromatic erythrocytes was determined using Kastenbaum-Bowman Tables.
結果		
性別及び投与量別の結果	死亡は、800 mg/kgのTPAで処理された雄マウス15匹中の1匹でみられた。 補充群から1匹のマウスが、死亡した動物検体の代わりに用いられた。臨床所見は、TPAのいずれの用量による処理についても無気力及び鳥肌を含んだ。陰性対照及び陽性対照の動物検体は、調査期間を通して正常であった。 24時間で媒体、200,400もしくは800 mg/kgで処理された動物検体において、20000PCEあたりで観察された全小核数は、それぞれで4,8,5及び4であった。48時間においても、800mg/kgで処理された動物検体における小核の発生率は、溶媒対照と異なった(それぞれ2/20000対8/20000)。 雌雄の間に差はなかった。TPAIは試験において陰性だった。	Mortality was observed in 1/15 male mice that had been treated with 800 mg/kg TPA. One mouse from the replacement group was used in place of the animal that died. Clinical signs following treatment with either dose of TPA included lethargy and piloerection. Negative and positive control animals appeared normal during the course of the study.  The total number of micronuclei observed per 20000 PCE in animals treated with vehicle, 200, 400 or 800 mg/kg for 24 hours was 4, 8, 5, and 4, respectively. The incidence of micronuclei in animals treated with 800 mg/kg also did not differ from the vehicle control at 48 hours (2/20000 vs. 8/20000, respectively). There was no difference between males and females. TPA was negative in the test.
遺伝毒性効果	陰性	陰性
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
統計的結果		
注釈	媒体対照の小核発生率は5/1000PCE以上でなく、陽性対照の小核を有する細胞数は溶媒対照と有意に異なり(p<0.05)、試験は妥当であった。幼若赤血球と全赤血球の比率における低下(9%まで)は、試験が赤血球生成を阻害しなかったことを示唆する媒体対照に比例して、処理群のいくつかでみられた。この比率におけるより大きな低下は、シクロホスファミド(25-29%)で処理された動物検体においてみられた。	The test was valid, as the incidence of micronuclei in the vehicle control was not greater than 5/1000 PCE and the number of micronucleated cells in the positive controls (382/20000) was significantly different (p < 0.05) from the vehicle control. Reductions (up to 9%) in the ratio of polychromatic erythrocytes to total erythrocytes were observed in some of the treated groups relative to the vehicle control, suggesting that the test article did not inhibit erythropoiesis. Greater reductions in this ratio were observed in animals treated with cyclophosphamide (25–29%).
結論 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	哈州	
<i>in vivo</i> 遺伝毒性 注釈	陰性 詳細は英文参照	陰性 Criteria for a valid test: The mean incidence of micronucleated polychromatic erythrocytes must not exceed 5/1000 polychromatic erythrocytes (0.5%) in the negative control vehicle. The incidence rate in the positive control group must be significantly increased relative to the negative control (p<0.05, Kastenbaum-Bowman Tables.
信頼性	1 制限なく信頼性あり	1 制限なく信頼性あり
キースタディ		
信頼性の判断根拠	Rioreliance 2001 Mammalian on through a migranual are test	Rioreliance 2001 Mammalian enthrough micronuclaus toot
出典 引用文献(元文献)	Bioreliance. 2001. Mammalian erythrocyte micronucleus test. Study No. AA41MJ.123.BTL for BP Amoco.	Bioreliance. 2001. Mammalian erythrocyte micronucleus test. Study No. AA41MJ.123.BTL for BP Amoco.
備考		

## 5-8 発がん性

試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	> 99.9 - % w/w	> 99.9 - % w/w
注釈 方法		
方法		
方法/ガイドライン	方法: その他	Method: other
試験のタイプ	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年	1983	1983
試験系(種/系統)	Rat	Rat
武教术(性/木利)	Fischer 344	Fischer 344
性別	MF	MF
投与量	0, 20, 142, 1000 mg/kg/day	0, 20, 142, 1000 mg/kg/day
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	混餌投与	混餌投与

Ī		
処理頻度	毎日	dialy
コントロールグループと処理	コントロール群: あり, concurrent no treatment	Control Group: yes, concurrent no treatment
試験条件	暴露期間: 生存期間(2年間)	Exposure period: Lifetime (2 years)
統計学的処理		Exposure period. Effectifie (2 years)
<u>机前子的选择</u> 結果		
<u>加尔</u> 体重、体重增加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時		
期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤		
度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
70-2017 70-110	膀胱結石を誘発するテレフタル酸は、高用量群における雌の	Terephthalic acid induced bladder stones were seen in 13/126
	13/126でみられた。試験に供して6ヶ月目及び12ヶ月目におい	females in the high dose group. At the scheduled 6 and 12
	て、膀胱結石は検出されなかった。18ヶ月目において、粒子の	month sacrifices, no bladder calculi were detected. At the 18
剖検所見(発生率、重篤度)	ような砂もしくは膀胱結石が、唯一高用量の2匹の雌において	month sacrifice sand like particle or bladder calculi were only
	みられた。	seen in two of the high dose females.
臓器重量		
<u> </u>	19/118の雌が、ある病理学実験室によって移行上皮の腺腫、	There were 19/118 females with what was described as
	別の病理学実験室によっては上皮過形成としてみなされた。	transitional cell adenomas by one pathology laboratory and
	18ヵ月後の高用量の雌において2匹が検出され(2/27)、調査	epithelial hyperplasia by another. Two of these were detected
病理組織学的所見(発生率、重篤	終了時に高用量の雌において15匹がみられ(15/79)、また調	in high dose females after 18 months (2/27), 15 were seen in
两连粒碱子的加克(光王华、里馬   度)	査終了時に対照の雌の1匹においてみられた。いずれの用量レ	seen in high dose females at the end of the study (15/79), and
(支)	ベルにおいても、雄にはみられなかった。	one was seen in a control female at the end of the study. None
		were found in the males, nor at any other dose level.
		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
実際に摂取された量		
美際に摂取された重   腫瘍発生までの時間		
<u> </u>		
統計的結果		
	食事において高濃度のテレフタル酸を摂取したラットは、膀胱	It was believed that rats fed high concentrations of
	上皮、膀胱過形成、その後は膀胱腫瘍といった慢性炎症を引	terephthalic acid in the diet develop bladder calculi which
	き起こす、膀胱結石を発達させると考えられた。	appear to cause chronic inflammation of the bladder
	生存期間中に低濃度暴露された動物検体は膀胱結石もしくは	epithelium, bladder hyperplasia and subsequently bladder
	腫瘍を形成しないため、明らかな閾値効果があった。	tumours. An apparent threshold effect exists because animals
注釈	本調査の高用量群(1000 mg/kg/day)は、大人のFisherラットに	
	おいて、おおよその食餌濃度2.0%から2.8%に相当する。	bladder calculi or tumors. The high dose group in this study
		(1000 mg/kg/day) corresponds to an approximate dietary
		concentration of 2.0% to 2.8% in adult Fisher rats.
<b>≰</b> ₽		
<u> </u>	4.1	±11
実験動物における発がん性の有無	<b>あり</b>	<i>გ</i> ს
実験動物における発がん性の有無 注釈		
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性	選択してください	選択してください
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ		
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ	選択してください CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic	選択してください CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典	選択してください	選択してください
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献)	選択してください CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic	選択してください CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典	選択してください CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic	選択してください CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法/ガイドライン	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法 ガイドライン 試験のタイプ	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法 ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 1100-21-0  > 99.9 - % w/w  選択してください 不明
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0  > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974  Rat
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年 試験系(種/系統)	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください  不明 1974 Rat Wistar
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年 試験系(種/系統) 性別	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年 試験系(種/系統) 性別 投与量	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください  不明 1974 Rat Wistar
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年 試験系(種/系統) 性別 投与量 各用量群(性別)の動物数	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年 試験系(種/系統) 性別 投与量	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年 試験系(種/系統) 性別 投与量 各用量群(性別)の動物数 溶媒(担体)	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年 試験系(種/系統) 性別 投与量 各用量群(性別)の動物数	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年 試験系(種/系統) 性別 投与量 各用量群(性別)の動物数 溶媒(担体) 投与経路	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください 混餌投与	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください 混餌投与
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年 試験系(種/系統) 性別 投与量 各用量群(性別)の動物数 溶媒(担体) 投与経路 処理頻度	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください  混餌投与	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください 混餌投与  daily
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年 試験系(種/系統) 性別 投与量 各用量群(性別)の動物数 溶媒(担体) 投与経路 処理頻度 コントロールグループと処理	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください  混餌投与 毎日 データなし	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください  混餌投与  daily no data specified
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年 試験系(種/系統) 性別 投与量 各用量群(性別)の動物数 溶媒(担体) 投与経路 処理頻度 コントロールグループと処理 試験条件	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください  混餌投与	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください 混餌投与  daily
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年 試験系(種/系統) 性別 投与量 各用量群(性別)の動物数 溶媒(担体) 投与経路 処理頻度 コントロールグループと処理 試験条件 統計学的処理	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください  混餌投与 毎日 データなし	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください  混餌投与  daily no data specified
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年 試験系(種/系統) 性別 投与量 各用量群(性別)の動物数 溶媒(担体) 投与経路 処理頻度 コントロールグループと処理 試験条件 統計学的処理 結果	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください 混餌投与 毎日 データなし 暴露期間: 2年間	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください  混餌投与  daily no data specified exposure period: 2 years
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年 試験系(種/系統) 性別 投与量 各用量群(性別)の動物数 溶媒(担体) 投与経路 処理頻度 コントロールグループと処理 試験条件 統計学的処理	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください 混餌投与  毎日 データなし 暴露期間: 2年間  体重増加の減少が5%用量レベル (雌雄) 及び2%用量レベル	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください 混餌投与  daily no data specified exposure period: 2 years  Reduced body weight gain occurred at in the 5% dose level
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年 試験系(種/系統) 性別 投与量 各用量群(性別)の動物数 溶媒(担体) 投与経路 処理頻度 コントロールグループと処理 試験条件 統計学的処理 結果 体重、体重増加量	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください 混餌投与 毎日 データなし 暴露期間: 2年間	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください  混餌投与  daily no data specified exposure period: 2 years
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年 試験系(種/系統) 性別 投与量 各用量群(性別)の動物数 溶媒(担体) 投与経路 処理頻度 ニントロールグループと処理 試験条件 統計学的処理 結果 体重、体重増加量 摂餌量、飲水量	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください 混餌投与  毎日 データなし 暴露期間: 2年間  体重増加の減少が5%用量レベル (雌雄) 及び2%用量レベル	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください 混餌投与  daily no data specified exposure period: 2 years  Reduced body weight gain occurred at in the 5% dose level
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年 試験系(種/系統) 性別 投与量 各用量群(性別)の動物数 溶媒(担体) 投与経路 処理頻度 コントロールグループと処理 試験条件 統計学的処理 結果 体重、体重増加量 摂顔量、飲水量 臨床所見(重篤度、所見の発現時	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください 混餌投与  毎日 データなし 暴露期間: 2年間  体重増加の減少が5%用量レベル (雌雄) 及び2%用量レベル	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください 混餌投与  daily no data specified exposure period: 2 years  Reduced body weight gain occurred at in the 5% dose level
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年 試験系(種/系統) 性別 投与量 各用量群(性別)の動物数 溶媒(担体) 投与経路 処理頻度 コントロールグループと処理 試験条件 統計学的処理 結果 体重、体重増加量 摂餌所見(重無し、所見の発現時 期と持続時間)	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください 混餌投与  毎日 データなし 暴露期間: 2年間  体重増加の減少が5%用量レベル (雌雄) 及び2%用量レベル	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください 混餌投与  daily no data specified exposure period: 2 years  Reduced body weight gain occurred at in the 5% dose level
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年 試験系(種/系統) 性別 投与量 各用量群(性別)の動物数 溶媒(担体) 投与経路 処理頻度 コントロールグループと処理 試験条件 統計学的処理 結果 体重増加量 摂餌床所見の発現時 期と持続時間) 眼科学的所見(発生率、重篤度)	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください 混餌投与  毎日 データなし 暴露期間: 2年間  体重増加の減少が5%用量レベル (雌雄) 及び2%用量レベル	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください 混餌投与  daily no data specified exposure period: 2 years  Reduced body weight gain occurred at in the 5% dose level
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年 試験系(種/系統) 性別 投与量 各用量群(性別)の動物数 溶媒(担体) 投与経路 処理頻度 コントロールグループと処理 試験条件 統計学的処理 結果 体重、体重増加量 摂餌量、飲水量 臨床所見(重関) 直接と持続時間) 臨科学的所見(発生率、重篤度) 血液学的所見(発生率、重篤度)	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください 混餌投与  毎日 データなし 暴露期間: 2年間  体重増加の減少が5%用量レベル (雌雄) 及び2%用量レベル	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください 混餌投与  daily no data specified exposure period: 2 years  Reduced body weight gain occurred at in the 5% dose level
実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法/ガイドライン 試験のタイプ GLP適合 試験を行った年 試験系(種/系統) 性別 投与量 各用量群(性別)の動物数 溶媒(担体) 投与経路 処理頻度 コントロールグループと処理 試験条件 統計学的処理 結果 体重増加量 摂餌床所見の発現時 期と持続時間) 眼科学的所見(発生率、重篤度)	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  テレフタル酸 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください 混餌投与  毎日 データなし 暴露期間: 2年間  体重増加の減少が5%用量レベル (雌雄) 及び2%用量レベル	選択してください  CIIT (1983) Chronic Dietary Administration Of Terephthalic Acid. CIIT Docket 20124  terephthalic acid 100-21-0 > 99.9 - % w/w  選択してください 不明 1974 Rat Wistar MF 1% (500 mg/kg/day) & 2% (1000 mg), 5% (2500 mg)  選択してください 混餌投与  daily no data specified exposure period: 2 years  Reduced body weight gain occurred at in the 5% dose level

	1	
尿検査所見(発生率、重篤度)	   5%において、死亡率は増加した。	At 5% there was as well as increased montality.
死亡数(率)、死亡時間	主に、膀胱結石の発生率が増加した。	At 5%, there was as well as increased mortality.  mainly as a result of increased incidence of bladder stones (at
剖検所見(発生率、重篤度)		5%: males, 42/47; females, 39/42; at 1%: females, 1/48).
臓器重量	1%において、雌で肝臓の相対重量が減少し、また雌雄で腎臓の相対サイズが減少した。2%において、肝臓、腎臓及び心臓の重量が減少した(雌のみ)。5%において、雄に腎臓重量が増加し、また雌雄に副腎重量が増加した。	At 1%, reduced relative liver weight in females and reduced relative kidney size in males and females. At 2%, reduced liver, kidney, and heart weights (females only). At 5%, there was increased kidney weight in males, and increased adrenal weights in males and females.
病理組織学的所見(発生率、重篤 度)		
実際に摂取された量 腫瘍発生までの時間		
用量反応性		
統計的結果 注釈	膀胱及び尿管における腫瘍の発生率が増加した(5%において: 雄, 21/37、雌, 21/34、2%において: 雄, 1/48、雌, 2/48、1%に おいて: 雄, 1/43)。	There was increased incidence of bladder and ureter tumors (at 5% males, 21/37; females, 21/34; at 2% males, 1/48; females, 2/48; at 1% males, 1/43.). There was increased incidence of bladder and ureter tumors.
結論 実験動物における発がん性の有無		あり
注釈		
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ 信頼性の判断根拠		
出典	Gross J. (1974) The effects of prolonged feeding of terephthalic acid (TPA) to rats. Project FG-IS-175. Submitted to US Dept. of Agriculture, Agriculture Research Service, Washington D.C.	Gross J. (1974) The effects of prolonged feeding of terephthalic acid (TPA) to rats. Project FG-IS-175. Submitted to US Dept. of Agriculture, Agriculture Research Service, Washington D.C.
引用文献(元文献) 備考		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	不明	Test substance: no data
注釈		
方法 方法/ガイドライン		
試験のタイプ	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年	1973	1973
	Mouse	Mouse
試験系(種/系統)	СЗН	C3H
性別	F	F
投与量	5%	5%
各用量群(性別)の動物数 溶媒(担体)	選択してください	選択してください
—————————————————————————————————————	混餌投与	混餌投与
	毎日	daily
コントロールグループと処理	コントロール群: 不明	Control Group: no data specified
試験条件	ばく露期間: 12ヶ月	Exposure period: 12 months
統計学的処理		
結果		
体重、体重增加量 摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度) 血液生化学的所見(発生率、重篤 度)		
尿検査所見(発生率、重篤度) 死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量 病理組織学的所見(発生率、重篤		
度) 実際に摂取された量		
度)		
度) 実際に摂取された量 腫瘍発生までの時間		
度) 実際に摂取された量 腫瘍発生までの時間 用量反応性 統計的結果 注釈	母体の腫瘍数は減少した。12ヶ月目で、母体の腫瘍は対照の 78%及び処理マウスの50%で発生した。	Reduced number of mammary tumours. At 12 months, mammary tumours occurred in 78% of controls and in 50% of treated mice.
度) 実際に摂取された量 腫瘍発生までの時間 用量反応性 統計的結果 注釈 結論	78%及び処理マウスの50%で発生した。	mammary tumours occurred in 78% of controls and in 50% of treated mice.
度) 実際に摂取された量 腫瘍発生までの時間 用量反応性 統計的結果 注釈 結論 実験動物における発がん性の有無	78%及び処理マウスの50%で発生した。	mammary tumours occurred in 78% of controls and in 50% of
度) 実際に摂取された量 腫瘍発生までの時間 用量反応性 統計的結果 注釈 結論 実験動物における発がん性の有無 注釈	78%及び処理マウスの50%で発生した。 	mammary tumours occurred in 78% of controls and in 50% of treated mice. 不明
度) 実際に摂取された量 腫瘍発生までの時間 用量反応性 統計的結果 注釈 結論 実験動物における発がん性の有無 注釈 信頼性	78%及び処理マウスの50%で発生した。	mammary tumours occurred in 78% of controls and in 50% of treated mice.
度) 実際に摂取された量 腫瘍発生までの時間 用量反応性 統計的結果 注釈 結論 実験動物における発がん性の有無 注釈	78%及び処理マウスの50%で発生した。 	mammary tumours occurred in 78% of controls and in 50% of treated mice. 不明

引用文献(元文献)	18	18
備考		

# 5-9 生殖・発生毒性(受胎能と発生毒性を含む)

A. 受胎能

A. 受胎能		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	供給源あるいは純度について明確な記載なし	No specific test material supplier or purity of test material was
>± ###	> 99.9 - % w/w	noted.
<u>注釈</u> 方法		
カム 方法/ガイドライン	方法: その他	Method: other
試験のタイプ	one generation	one generation
GLP適合	はい	はい
試験を行った年	1982	1982
	Rat	Rat
試験系(種/系統)	CD 及び Wistar	CD and Wistar
性別	MF	MF
投与量	0.03, 0.125, 0.5, 2.0, 5.0%	0.03, 0.125, 0.5, 2.0, and 5.0%
各用量群(性別)の動物数	1224D1 - (1824)	1924D1 74841.
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	<u> </u>	<u>i</u> 此與权 <del>与</del>
試験期間	約160日	approximately 160 days
11-1-12/19/19/19	詳細は英文参照	paternal: 90 days prior to and throughout mating
	ar dans of the same	maternal: 90 days prior to mating, throughout mating, gestation,
		and lactation
交配前暴露期間		offspring: 51 days; from birth through lactation and 30 days
		post weaning
	詳細は英文参照	Frequency of treatment: daily: in feed
		Control Group: yes, concurrent no treatment
		Method: The approximated mg/kg doses based on average
		feed consumption and body weight during the 90 day pre-
		mating period were:
		CD(M): 14, 59, 240, 930, 2499 CD(F): 17, 67, 282, 1107, 2783
		CD(F): 17, 67, 282, 1107, 2783 Wistar(M): 14, 61, 249, 960, 2480
		Wistar(N): 14, 61, 243, 300, 2460 Wistar(F): 19, 78, 307, 1219, 3018
		A manager of quality assurance signed off on the study report.
		However, the report did not contain a specific statement per
		se in regard to the study being conducted under GLP
		assurances.
		Test condition: This study contrasted the toxicity of TPA in
		two different strains of rats. Experimental conditions were
		identical for both. Rats 15–17 weeks of age (n=30) were
		grouped housed 3/cage for the first 90 days of exposure. Body
試験条件		weight and feed intake were determined weekly during this
11-1-20-21-1		time period. On Day 91, breeding pairs (n=10/sex) were housed
		together for 2 weeks prior to being separated. On Day 0
		(delivery) the number and viability of offspring were evaluated
		and
		grossly examined. Offspring were recounted, sexed, and weighed on Day 1. These measurements were repeated at
		wearing on Day 21. After wearing the litters were reduced to
		2/sex/dose from each of 5 litters (20 pups/dose/strain) and
		maintained on test diets for 30 more days (Day 51) prior to
		sacrifice. There were only 9 pairs of CD strain rats at the 5%
		diet level. Remaining animals were necropsied within a few
		days post weaning. At termination offspring were grossly
		examined and necropsied. Parental and F1 generation animals
		were observed 2x/day for clinical signs. Parameters evaluated
		consisted of: fertility index, number of offspring born per dam;
		number and proportion of each sex born; number (Day 0, 1, and
		21) and proportion (Day 1 and 21) of each sex alive; average weight at Day 1 and 21 of all offspring and of each sex.
		weight at Day 1 and 21 of all offspring and of each sex.
	詳細は英文参照	Rody weight gain and standard varied with a finding weight
	中心は失人が思	Body weight gain and standard reproductive indices were assessed and statistically compared using ANOVA and
統計学的処理		Dunnett's-t-test using SAS statistical programs.
結果		
TH 10	体重は、13週後に統計学的に減少した。詳細は英文参照	Body weights were statistically decreased after 13 weeks in
	The state of the s	both sexes of CD rats on 2% and 5% TPA diets, and in males
体重、体重増加量		exposed to 0.03%. This effect occurred in Wistars (both sexes)
<u></u>		only at the 5% level.
	ばく露後90日では、2%と5%を投与されたCD雌と、5%投与され	ルた Parental Effects: Following 90 days of exposure to TPA,
	Wistarsの雌雄において、摂食量が統計学的に有意に減少	
摂餌量、飲水量	た。	observed in CD females treated with 2% and 5%, and in both
		sexes of Wistars treated with 5%.

臨床所見(重篤度、所見の発現時		
期と持続時間)		
受胎指数(着床痕数/交配数)	受胎指数に影響はみられない。	There was no effect of treatment on fertility index.
交尾前期間(交配までの日数及び 交配までの性周期回数)		
妊娠期間(妊娠0日から起算)		
【妊娠指数(生存胎仔数/着床痕数) 【哺乳所見		
性周期変動		
精子所見		
血液学的所見(発生率、重篤度) 血液生化学的所見(発生率、重篤		
度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)	F (O OD WE A WELL ( ) O THE TOLK FOLLOW THE TALL AN THE O	TI
死亡数(率)、死亡時間	5 (3 CD 雌, 1 Wistar/sex) の死亡例が5%の投与で4-13週間のうちに報告された。詳細は英文参照	There were 5 deaths (3 CD females, 1 Wistar/sex) reported during weeks 4–13 in animals given 5% TPA in the diet. During the one-generation component of the study 3 CD (1 male at 2.0%, 1/sex at 5.0%) and 4 Wistar female (2 at 5.0% and 2 at 0.03%) rats died.
剖検所見(発生率、重篤度)	Day 51 後の解剖で、非常に高い腎臓の異常と膀胱結石及び 結石の存在による組織学的後遺症が見られた。	Day 51 necropsy findings also reported a very high incidence of renal and bladder calculi and the histological sequelae of the presence of the calculi.
着床数		
黄体数 未熟卵胞数		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤 度)		
実際に摂取された量		
用量反応性	アのサノブ。の竪郷はなられたい	The second of th
同腹仔数及び体重   性比	仔のサイズへの影響はみられない。	There was no effect of treatment on litter size.
生存率(生後4日目生存仔数/総分		
娩仔数) 	Wistarラットの2%と5%の投与群では、生後1日目の死亡が増加	In Wistar rats, increased postnatal deaths on Day 1 and
離乳までの分娩後生存率	し、21日の生存率が低下した。詳細は英文参照	decreased survivability to Day 21 were noted in the 2% and 5% groups. At these dose levels, several large litters of pups were lost to dams suffering obvious signs of toxicity.
 新生仔所見(肉眼的な異常)		
	仔への影響:仔のサイズ、性比及び仔の総数への影響はみら	Offspring Effects: There were no effects of treatment on litter
生後発育及び発育率 <b>産開口又は精巣下降(包皮分離)</b>	れなかった。詳細は英文参照	size, sex ratio, or total number of offspring. While no control offspring were found dead on Day 0, 17 Wistar pups (1 at 0.03%, 2 at 0.125%, 1 at 0.5%, 12 at 2.0% (2 from one dam and 10 from another)) and 23 CD pups (1 at 0.5%, 7 at 2.0% (3 dams) and 15 at 5.0% (3 dams; with 11 from one of them)) were found dead. No statistical differences were noted in viability on Days 0, 1, or 21 in either strain. In CD rats, survivability on Day 21 was reduced in both sexes of offspring whose parents had been exposed to 5% TPA in the diet.  In Wistar rats, body weights of both sexes of offspring from dams given 5.0% were reduced at Day 1. On Day 21, body weight was reduced in both strains of offspring from dams that ingested 5% TPA in the diet. Several of these dams did not allow the pups to nurse or attend to the litters. These pups were noted not to have milk in their stomachs and presented clinically as being very weak. These dams were consuming dietary levels of TPA known to cause reduced feed consumption, diarrhea and gastric trichobezoars (hairballs) and induce the formation of renal and bladder calculi. Unscheduled deaths during the postweaning period (Day 21–51) were confined to the 5% TPA group (18 Wistar and 16 CD) and were associated with a very high incidence of renal and bladder calculi. Renal and bladder calculi were noted in all animals exposed to 5% that were necropsied at Day 21.
生殖器-肛門間距離などその他の 観察事項		
臓器重量		
統計的結果	結果: 親のNOAEL: 0.5% (CD、Wistar: 2.0%)	Result: NOAEL Parental: 0.5% (CD; Wistar: 2.0%)
注釈	結論: 生殖毒性のNOAELは食餌(約2480-3018 mg/kg/day)において>5%であった。しかし、親及びF1世代の毒性のNOAELは食餌(約240-307 mg/kg/day)において0.5% TPAであった。	Conclusion: The NOAEL for reproductive toxicity was >5% in the diet (approximately 2480–3018 mg/kg/day). Whereas, the NOAEL for parental toxicity and the F1 generation was 0.5% TPA in the diet (approximately 240–307 mg/kg/day).
結論	THE CALL THE	
Pに対するNOAEL(NOEL)又は LOAEL(LOEL)	親のNOAEL = 0.5 %	NOAEL Parental: = 0.5 %
F1に対するNOAEL (NOEL)又は	F1世代のNOAEL =0.5 %	NOAEL F1 Offspring: =0.5 %
LOAEL (LOEL) F2に対するNOAEL (NOEL)又は		
LOAEL (LOEL)		

注釈		other: NOAEL Reproductive: > 5 % Remark: Other studies have demonstrated an increased incidence of renal and bladder calculi formation in weanling animals when compared to adults consuming the same dietary level of TPA. This apparent increased sensitivity can be explained by the large amount of feed consumed in relation to body weight for young animals experiencing their initial growth spurt. Weanling animals are not more sensitive to TPA when the results are expressed on a mg/kg basis.
信頼性	1 制限なく信頼性あり	1 制限なく信頼性あり
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	CIIT (1982) A Ninety-Day Study of Terephthalic Acid (CAS No. 100-21-0) Induced Urolithiasis and Reproduction Performance in Wistar and CD Rats. CITI Docket 11622	CIIT (1982) A Ninety-Day Study of Terephthalic Acid (CAS No. 100-21-0) Induced Urolithiasis and Reproduction Performance in Wistar and CD Rats. CITI Docket 11622
引用文献(元文献)		
備考		

備考		
B. 発生毒性		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	> 99.9 - % w/w	> 99.9 - % w/w
	供給源: Amoco Corporation	Test material was supplied by the Amoco Corporation. Purity
	純度は不明であるが、一般的には 99%以上。	was not noted but typically exceeds 99%.
	神也及は行うないのか、 一般的には 55元以上。	was not noted but typically exceeds 33%.
소파		
注釈		
方法	20H	- Albania
方法/ガイドライン	はい	other はい
GLP適合	15.1	17
試験を行った年	1989	1989
試験系(種/系統)	Rat	Rat
	Sprague-Dawley	Sprague-Dawley
性別	F	F
	1.0, 5.0, 10.0 mg/m3	1.0, 5.0, and 10.0 mg/m3
投与量	呼吸の時間加重平均濃度は、0.90, 4.73, 10.4 mg/m3.	Respirable time-weighted average concentrations were 0.90,
<b>权</b> 子里		4.73, and 10.4 mg/m3.
各用量群(性別)の動物数		
	粉体吸入	粉体吸入
投与経路	吸入	inhalation
試験期間	20日間	20 days
交配前暴露期間		
\$20503.88.88(A)16)	詳細は英文参照	Exposure period: days 6-15 of gestation
	H I I I I I I I I I I I I I I I I I I I	Frequency of treatment: 6 hours/day for 10 consecutive days
		Control Group: other: yes; filtered room air
		Solici of Group. Oction. you, incoroa room an
		Female rats weighing 117-150 g were quarantined and housed
		2/cage with 1 male. Confirmation of mating was via evidence
		of sperm in a vaginal smear (Day 0), after which females were
		housed singly. The study consisted of 26-27 timed-pregnant
		dams per dose level. Exposures were by whole body inhalation
		conducted in 2 m3 chambers with an airflow rate of 305–420
		I/min. Test article was ground to respirable-sized particles
試験条件		using a Retsch Ultra-Centrifugal Mill. Chambers were sampled
武		2x/exposure period and TPA levels were determined by
		spectrophotometric analysis.
		Particle size was determined using a cascade impactor.
		Temperature, humidity and airflow were measured hourly.
		Animals were observed twice daily and given detailed physical
		exams daily on days 0 and 6-20. Dams were weighed on Days
		0, 5 (randomization into groups), 6 (exposure initiation), 11, 16,
		and 20 (study termination).
		Standard "guideline" postmortem procedures were carried out
		on the females and their fetuses.
		Date were analyzed in an annualista statistical asset
	詳細は英文参照	Data were analyzed in an appropriate statistical manner using log transformations, multivariate ANOVA, single factor ANOVA
統計学的処理		and Dunnett's-"t"-test depending on the nature and type of
WORL J HJAC-T		end-point assessed. The dam was considered to be a random
		factor and the pup a nested factor within the dam.
結果		
死亡数(率)、死亡時間	死亡例なし	Maternal Effects: No mortalities occurred in any group.
用量あたり妊娠数		
流産数		
早期/後期吸収数		
着床数		
黄体数		
妊娠期間(妊娠0日から起算)		
体重、体重増加量	母体の重量および重量増加への影響なし。	Maternal Effects: No statistically significant differences were
		noted in mean dam body weight or weight gain.
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時	対照群と差なし	Maternal Effects: The incidences of clinical signs observed in
期と持続時間)		rats exposed to TPA were similar to controls.
血液学的所見(発生率、重篤度)		
<u> </u>		

血液生化学的所見(発生率、重篤 度)		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量(総子宮量への影響)	子宮重量や着床数に変化なし。	Maternal Effects: No statistically significant differences were noted in uterine weight, or implant number.
病理組織学的所見(発生率、重篤 度)		
同腹仔数及び体重		
生存数(生存胎仔数及び胎仔数) 性比		
生存率(生後4日目生存仔数/総分 娩仔数)		
生後発育	仔の重量、生存率及び胎児の奇形への変化なし。	Fetal Effects: No statistically significant differences were noted in mean litter weights, pup viability, or number of fetal
分娩後生存率		
肉眼的異常(外表観察、内臓標本、 骨格標本)	概観組織検査では、異常は認められなかった。	Fetal Effects: External soft tissue examinations did not indicate any differences from control. However, internal examinations showed a slight increase in the incidence of rib anomalies in the middle dose (5.0 mg/m3) group. This was only significant when all the various types of rib anomalies were added together.
実際に投与された量		
用量反応性		
統計的結果		
注釈		
結論		
Pに対するNOAEL (NOEL)又は LOAEL (LOEL)	NOAEL 母の毒性: > 10 mg/m³	NOAEL Maternal Toxity: > 10 mg/m³
F1に対するNOAEL (NOEL)又は LOAEL (LOEL)	NOAEL 胎児の毒性: > 10 mg/m³	NOAEL Fetotoxicity : > 10 mg/m³
F2に対するNOAEL (NOEL)又は LOAEL (LOEL)		
注釈	肋骨異常は、共通の変形であり、用量依存的に高まらず、またlaboratories own historical controlsの範囲内の割合で起きたため、催奇形性の徴候と考えられなかった。さらに、この変化に関連する他の胎児毒性の所見はなかった。	Rib anomalies were not deemed to be an indicator of teratogenesis because they were common variations, were not elevated in a dose-related manner, and occurred at a rate that was within the range of the laboratories own historical controls. Furthermore, no other signs of embryotoxicity were associated with this change.
信頼性	1 制限なく信頼性あり	1 制限なく信頼性あり
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Amoco Corporation (1989) A Segment II Inhalation Teratology Study of Terephthalic Acid in Rats. Conducted by IIT Research Institute. IITRI Study #1448	Amoco Corporation (1989) A Segment II Inhalation Teratology Study of Terephthalic Acid in Rats. Conducted by IIT Research Institute. IITRI Study #1448
引用文献(元文献)	19	19
備考		
D. FILL		

# 5-10その他関連情報

試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等		
注釈		
方法		
方法/ガイドライン	タイプ: 薬物動態学調査	Type: Pharmacokinetic study.
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		Sprague-Dawley rats were exposed by inhalation to a particulate aerosol of 10 mg/m3 terephthalic acid. Exposure was 6 hours per day for 25 consecutive days, followed by a 28-day post-exposure recovery period. Blood and urine samples were collected one day prior to exposure and after 1, 5, 10, 15, 25 days of exposure and every 7 days during the 28 day recovery period.
結果		
結果	テレフタル酸は、初めの5日間暴露後、血液において検出された。テレフタル酸の検出可能な血液濃度は、連続10日間暴露後に観察され、残りの暴露期間漸進的に増加した。最高平均血液濃度は25日後の2.7 ug/mlであった。暴露期間終了後7日目間は、テレフタル酸の血液濃度は1 ug/mlより低かった。しかしながら、トレースレベルのテレフタル酸の存在は、暴露後の回復期間を通して血液中で検出された。	Terephthalic acid was not detected in the blood after the first 5 days of exposure. Detectable blood concentrations of terephthalic acid were observed after 10 consecutive days of exposure and progressively increased over the remaining exposure period. The highest mean blood concentration was 2.7 ug/ml after 25 days. Seven days after completion of the exposure period, the blood concentration of terephthalic acid was less than 1 ug/ml. However, the presence of trace levels of terephthalic acid was detected in the blood throughout the post-exposure recovery period.
結論		
結論		
注釈		
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		

出典	Amoco Corporation (1989) Time Course Analysis of Terephthalic Acid Concentration in Blood and Urine of Rats Following Inhalation Exposures. Study IITRI Study #1448A	Amoco Corporation (1989) Time Course Analysis of Terephthalic Acid Concentration in Blood and Urine of Rats Following Inhalation Exposures. Study IITRI Study #1448A
引用文献(元文献)		
備考		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
<u>純度等</u> 注釈		
方法		
方法/ガイドライン	タイプ: 吸着	Type: adsorption
GLP適合 計験を行ったを	不明	不明
試験を行った年 試験条件	詳細は英文参照	Hoshi and Kuretani (1967) characterized the gastrointestinal absorption of [14C-carboxyl]-terephthalic acid in female Wistar rat given a single gavage dose of 85 mg/kg. The compound was administered to groups of five rats as a suspension in a 0.5% sodium carboxymethylcellulose. The esophagus, stomach, small intestine, cecum and large intestine of rats were assayed for radioactivity 2, 4, 6, 8, 24 and 48 hours after administration. Urine and feces were collected from treated rats after 8, 24 and 48 hours, and assayed for radioactivity.
結果	24時間回収された呼気及び糞便は、それぞれく0.04及び3.3%の全放射能を投与されたことを報告した。用量はただちに吸収され、24時間までにほとんどの量が尿に排出された。cleavage productとしてのCO2は、呼気においてみつからなかった。様々な胃腸の部分を試験した後、著者は、上部(すなわち胃及び小腸)及び下部(胃腸及び大腸)のそれぞれから投与濃度の70%及び26%が吸収されたと算定した。尿において代謝物は検出されなかった。	Expired air and feces collected for 24 hours accounted for <0.04 and 3.3% of the total radioactivity administrated, respectively. The dose was absorbed rapidly, as it was excreted in the urine almost quantitatively by 24 hours. CO2 as the cleavage product was not found in the expired air. After examining the various gastrointestinal segments, the authors calculated that 70 and 26% of the administered dose was absorbed from the upper (i.e. stomach and small intestine) and lower (i.e., cecum and large intestine) portions, respectively. No metabolites were detected in the urine.
 結論		
結論		
<u>注釈</u> 信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	送がしていこい	送がしていた。
restable to the property of the		
信頼性の判断根拠		
出典	20	20
出典 引用文献(元文献)	20	20
出典	20	20
出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号		
出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等	テレフタル酸	terephthalic acid
出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法	テレフタル酸 100-21-0	terephthalic acid
出典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法/ガイドライン	テレフタル酸 100-21-0 タイプ: 分配	terephthalic acid 100-21-0  Type: Distribution
出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法 方法/ガイドライン GLP適合	テレフタル酸 100-21-0	terephthalic acid 100-21-0
出典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法/ガイドライン	テレフタル酸 100-21-0 タイプ: 分配	terephthalic acid 100-21-0  Type: Distribution
出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年	テレフタル酸 100-21-0 タイプ: 分配 不明 詳細は英文参照	terephthalic acid 100-21-0  Type: Distribution 不明  Hoshi and Kuretani (1968) studied the distribution of [14C-carboxyl]-terephthalic acid in the female Wistar rat. Groups of five animals were given a single gavage dose of 85 mg terephthalic acid suspended in 0.5% sodium carboxymethylcellulose. Animals were killed and their blood and tissues assayed for radioactivity 2, 4, 6, 8, 24 and 48 hours
出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年  試験条件	テレフタル酸 100-21-0 タイプ: 分配 不明	terephthalic acid 100-21-0  Type: Distribution 不明  Hoshi and Kuretani (1968) studied the distribution of [14C-carboxyl]-terephthalic acid in the female Wistar rat. Groups of five animals were given a single gavage dose of 85 mg terephthalic acid suspended in 0.5% sodium carboxymethylcellulose. Animals were killed and their blood and tissues assayed for radioactivity 2, 4, 6, 8, 24 and 48 hours
世典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年  試験条件	テレフタル酸 100-21-0 タイプ: 分配 不明 詳細は英文参照 投与後6時間で種々の臓器に検出されたが、特に腎臓が最も	terephthalic acid  100-21-0  Type: Distribution  不明  Hoshi and Kuretani (1968) studied the distribution of [14C-carboxyl]-terephthalic acid in the female Wistar rat.  Groups of five animals were given a single gavage dose of 85 mg terephthalic acid suspended in 0.5% sodium carboxymethylcellulose. Animals were killed and their blood and tissues assayed for radioactivity 2, 4, 6, 8, 24 and 48 hours after administration.  Samples of plasma, kidney, liver, brain, skin, lung, pancreas, spleen, fat, heart, muscle, bone, erythrocytes, uterus, ovary and endocrine glands contained terephthalic acid up to 6 hours after administration, with the kidney having the highest concentrations, followed by the liver and plasma. No radioactivity was observed in any of the above tissues 48 hours after administration. The biological half-life of terephthalic acid in these tissues was 1.2-3.3 hours, and elimination followed first-order kinetics. Similar results were observed in rats and fed a diet containing 0.5% [14C-carboxyl]-terephthalic acid for 1 or 3 days, and killed
世典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年  試験条件  結果	テレフタル酸 100-21-0 タイプ: 分配 不明 詳細は英文参照 投与後6時間で種々の臓器に検出されたが、特に腎臓が最も	terephthalic acid  100-21-0  Type: Distribution  不明  Hoshi and Kuretani (1968) studied the distribution of [14C-carboxyl]-terephthalic acid in the female Wistar rat.  Groups of five animals were given a single gavage dose of 85 mg terephthalic acid suspended in 0.5% sodium carboxymethylcellulose. Animals were killed and their blood and tissues assayed for radioactivity 2, 4, 6, 8, 24 and 48 hours after administration.  Samples of plasma, kidney, liver, brain, skin, lung, pancreas, spleen, fat, heart, muscle, bone, erythrocytes, uterus, ovary and endocrine glands contained terephthalic acid up to 6 hours after administration, with the kidney having the highest concentrations, followed by the liver and plasma. No radioactivity was observed in any of the above tissues 48 hours after administration. The biological half-life of terephthalic acid in these tissues was 1.2-3.3 hours, and elimination followed first-order kinetics. Similar results were observed in rats and fed a diet containing 0.5% [14C-carboxyl]-terephthalic acid for 1 or 3 days, and killed
世典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CAS番号 純度等 注形 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年  試験条件  結果  結論  結論	テレフタル酸 100-21-0 タイプ: 分配 不明 詳細は英文参照  というでは、一般では、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな	terephthalic acid  100-21-0  Type: Distribution  不明  Hoshi and Kuretani (1968) studied the distribution of [14C-carboxyl]-terephthalic acid in the female Wistar rat.  Groups of five animals were given a single gavage dose of 85 mg terephthalic acid suspended in 0.5% sodium carboxymethylcellulose. Animals were killed and their blood and tissues assayed for radioactivity 2, 4, 6, 8, 24 and 48 hours after administration.  Samples of plasma, kidney, liver, brain, skin, lung, pancreas, spleen, fat, heart, muscle, bone, erythrocytes, uterus, ovary and endocrine glands contained terephthalic acid up to 6 hours after administration, with the kidney having the highest concentrations, followed by the liver and plasma. No radioactivity was observed in any of the above tissues 48 hours after administration. The biological half-life of terephthalic acid in these tissues was 1.2-3.3 hours, and elimination followed first-order kinetics. Similar results were observed in rats and fed a diet containing 0.5% [14C-carboxyl]-terephthalic acid for 1 or 3 days, and killed immediately or 1 day after exposure.  These results showed that terephthalic acid was widely distributed in various body tissues, but did not accumulate in any of them.
世典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CAS番号 純度等 注取 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年  試験条件  結果	テレフタル酸 100-21-0 タイプ: 分配 不明 詳細は英文参照  投与後6時間で種々の臓器に検出されたが、特に腎臓が最も高濃度であった。詳細は英文参照  これらの結果は、テレフタル酸が、様々な体の組織において広	terephthalic acid  100-21-0  Type: Distribution  不明  Hoshi and Kuretani (1968) studied the distribution of [14C-carboxyl]—terephthalic acid in the female Wistar rat.  Groups of five animals were given a single gavage dose of 85 mg terephthalic acid suspended in 0.5% sodium carboxymethylcellulose. Animals were killed and their blood and tissues assayed for radioactivity 2, 4, 6, 8, 24 and 48 hours after administration.  Samples of plasma, kidney, liver, brain, skin, lung, pancreas, spleen, fat, heart, muscle, bone, erythrocytes, uterus, ovary and endocrine glands contained terephthalic acid up to 6 hours after administration, with the kidney having the highest concentrations, followed by the liver and plasma. No radioactivity was observed in any of the above tissues 48 hours after administration. The biological half—life of terephthalic acid in these tissues was 1.2-3.3 hours, and elimination followed first—order kinetics. Similar results were observed in rats and fed a diet containing 0.5% [14C-carboxyl]—terephthalic acid for 1 or 3 days, and killed immediately or 1 day after exposure.  These results showed that terephthalic acid was widely distributed in various body tissues, but did not accumulate in
出典       引用文献(元文献)       備考       試験物質名       CAS番号       純度等       注取       方法       大学       イ信頼性       中域       大学       イ信頼性       大学       大学	テレフタル酸 100-21-0 タイプ: 分配 不明 詳細は英文参照  というでは、 ないであった。 はいであった。 はいはいいでは、 はいであった。 はいはいいでは、 はいでは、 はいではいいでは、 はいではいいでは、 はいではいいでは、 はいではいいではいいでは、 はいではいいではいいではいいではいいいではい	terephthalic acid 100-21-0  Type: Distribution 不明  Hoshi and Kuretani (1968) studied the distribution of [14C-carboxyl]-terephthalic acid in the female Wistar rat. Groups of five animals were given a single gavage dose of 85 mg terephthalic acid suspended in 0.5% sodium carboxymethylcellulose. Animals were killed and their blood and tissues assayed for radioactivity 2, 4, 6, 8, 24 and 48 hours after administration.  Samples of plasma, kidney, liver, brain, skin, lung, pancreas, spleen, fat, heart, muscle, bone, erythrocytes, uterus, ovary and endocrine glands contained terephthalic acid up to 6 hours after administration, with the kidney having the highest concentrations, followed by the liver and plasma. No radioactivity was observed in any of the above tissues 48 hours after administration. The biological half-life of terephthalic acid in these tissues was 1.2-3.3 hours, and elimination followed first-order kinetics. Similar results were observed in rats and fed a diet containing 0.5% [14C-carboxyl]-terephthalic acid for 1 or 3 days, and killed immediately or 1 day after exposure.  These results showed that terephthalic acid was widely distributed in various body tissues, but did not accumulate in any of them.
世典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名  CAS番号  純度等  注釈  方法  方法  方法  方法  がイドライン  GLP適合  試験を行った年	テレフタル酸 100-21-0 タイプ: 分配 不明 詳細は英文参照  というでは、 ないであった。 はいであった。 はいはいいでは、 はいであった。 はいはいいでは、 はいでは、 はいではいいでは、 はいではいいでは、 はいではいいでは、 はいではいいではいいでは、 はいではいいではいいではいいではいいいではい	terephthalic acid 100-21-0  Type: Distribution 不明  Hoshi and Kuretani (1968) studied the distribution of [14C-carboxyl]-terephthalic acid in the female Wistar rat. Groups of five animals were given a single gavage dose of 85 mg terephthalic acid suspended in 0.5% sodium carboxymethylcellulose. Animals were killed and their blood and tissues assayed for radioactivity 2, 4, 6, 8, 24 and 48 hours after administration.  Samples of plasma, kidney, liver, brain, skin, lung, pancreas, spleen, fat, heart, muscle, bone, erythrocytes, uterus, ovary and endocrine glands contained terephthalic acid up to 6 hours after administration, with the kidney having the highest concentrations, followed by the liver and plasma. No radioactivity was observed in any of the above tissues 48 hours after administration. The biological half-life of terephthalic acid in these tissues was 1.2-3.3 hours, and elimination followed first-order kinetics. Similar results were observed in rats and fed a diet containing 0.5% [14C-carboxyl]-terephthalic acid for 1 or 3 days, and killed immediately or 1 day after exposure.  These results showed that terephthalic acid was widely distributed in various body tissues, but did not accumulate in any of them.

備考		
No .3		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等		
注釈		
方法		
方法/ガイドライン	タイプ: 分配	Type: Distribution
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Adult male rats were administered single (0-80 mg/kg 14C-terephthalic acid) or multiple (5 doses totalling 0-80 mg/kg 14C-terephthalic acid over 10 days) oral doses.
結果		
結果	14C-テレフタル酸の単回投与量の80%以上が、投与の48時間以内に、尿及び糞便中に排出されたことが見出された。反復投与後、前投与量の89%異常が、最終投与の24時間以内に尿及び糞便中に戻された。 職器へのごくわずかな組織吸収及び蓄積が記録された。単回気管投与(0-10 mg/kg)後の48時間、ラットは全投与量の49-73%を排出した。45-66.6%は尿中に、3.4-6.4%は糞便中に戻された。反復気管暴露(5回投与の合計0-10 mg/kg)後、最後の処理後24時間で、全用量の1%未満が肺及び気管のリンパ節において見出された。テレフタル酸の有意でない量が、試験された他の臓器において検出された。テレフタル酸の皮膚及び目への投与は、単回暴露、反復暴露又は長期暴露によって、ごくわずかな排出及び吸収が明らかになった。10日間に5回、ラットの肺に、放射能標識されたテレフタル酸を10mgまで直接滴下(乳化蒸留水中に1%の溶液として)した結果、蓄積の証拠は示されなかった。最終滴下後24時間で、欠与量の1%未満が肺及び気管のリンパ腺において現れた。ごくわずかな放射能(用量の0.1%未満)が、試験された他の臓器において検出された。	It was found that more than 80% of a single dose of 14C-terephthalic acid was excreted in the urine and feces within 48 hours of administration. After repeated dosing, more than 89% of the total administered was recovered in the urine and feces within 24 hours of the last dose.  Negligible tissue absorption and accumulation in organs were recorded. Forty-eight hours after a single intratracheal dose (0-10 mg/kg), rats excreted 49–73% of the total administered; 45–66.6% was recovered in the urine and 3.4–6.4% in the feces. After repeated intratracheal exposures (5 doses totalling 0–10 mg/kg), less than one percent of the total dose was found in the lungs and tracheal lymph nodes, 24 hours after the last treatment. Insignificant amounts of terephthalic acid were detected in the other organs assayed.  Dermal and ocular application of terephthalic acid revealed negligible excretion and absorption following single, multiple, or long term exposure. The direct instillation of up to 10 mg radio labelled terephthalic acid (as a 1% solution in emulsified distilled water) into the lungs of rats, five times in 10 days produced no evidence of accumulation. Less than 1% of the administered dose was present in the lungs and windpipe lymph nodes 24 hr after the final instillation. Negligible radioactivity (< 0.1% of dose) was detected in the other organs assayed.
結論		
注釈		
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
キースタディ 信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
キースタディ 信頼性の判断根拠 出典		
キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献)	選択してください 14	選択してください
キースタディ 信頼性の判断根拠 出典		
キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考	14	14
キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名	14 テレフタル酸	14 terephthalic acid
キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号	14	14
キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等	14 テレフタル酸	14 terephthalic acid
キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 総度等 注釈	14 テレフタル酸	14 terephthalic acid
キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法	14 テレフタル酸 100-21-0	terephthalic acid 100-21-0
キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法	14 テレフタル酸 100-21-0 タイプ: 排泄	terephthalic acid 100-21-0  Type: Excretion
キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法 方法/ガイドライン GLP適合	14 テレフタル酸 100-21-0	terephthalic acid 100-21-0
キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法	14 テレフタル酸 100-21-0 タイプ: 排泄	terephthalic acid 100-21-0  Type: Excretion  不明  Hoshi and Kuretani (1965) studied the excretion of terephthalic
キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注取 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年	プレフタル酸 100-21-0 タイプ: 排泄 不明	terephthalic acid 100-21-0  Type: Excretion 不明  Hoshi and Kuretani (1965) studied the excretion of terephthalic acid when given to rats by gavage, intraperitoneal injection and
キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年	14  プレフタル酸 100-21-0  タイプ: 排泄 不明  詳細は英文参照  0.5%カルボキシメチルセルロースナトリウム水溶液において、懸濁した200mg/kgのテレフタル酸の食餌用量がラットに与えられた際、テレフタル酸は、投与から24時間後に尿及び糞便におい	terephthalic acid 100-21-0  Type: Excretion  不明  Hoshi and Kuretani (1965) studied the excretion of terephthalic acid when given to rats by gavage, intraperitoneal injection and dietary inclusion.  when a gavage dose of 200 mg terephthalic acid per kg suspended in 0.5% aqueous sodium carboxymethylcellulose was given to rats, terephthalic acid was found 24 hours after administration in the urine and feces, and accounted for about 55 and 30% of the dose, respectively. When a similar dose was given by intraperitoneal injection, most of the dose was
キースタディ       信頼性の判断根拠       明用文献(元文献)       備考       試験物質名       CAS番号       純皮等       注釈       方法/ガイドライン       GLP適合       試験を行った年       試験条件       結果       結果	14  プレフタル酸 100-21-0  タイプ: 排泄 不明  詳細は英文参照   0.5%カルボキシメチルセルロースナトリウム水溶液において、懸濁した200mg/kgのテレフタル酸の食餌用量がラットに与えられた際、テレフタル酸は、投与から24時間後に尿及び糞便において見出され、それぞれ用量の約55%及び約30%と報告された。同様の用量を腹膜内注入によって好与した場合、定量的に用量のほとんどが24時間後の尿において取り戻された。300mg/kg/日のテレフタル酸が与えられた場合、ラットは、投与後24時間ま	terephthalic acid 100-21-0  Type: Excretion 不明  Hoshi and Kuretani (1965) studied the excretion of terephthalic acid when given to rats by gavage, intraperitoneal injection and dietary inclusion.  when a gavage dose of 200 mg terephthalic acid per kg suspended in 0.5% aqueous sodium carboxymethylcellulose was given to rats, terephthalic acid was found 24 hours after administration in the urine and feces, and accounted for about 55 and 30% of the dose, respectively. When a similar dose was given by intraperitoneal injection, most of the dose was recovered quantitatively in the urine after 24 hours. When fed 300 mg terephthalic acid/kg/day, rats excreted 78-85% of the
キースタディ       信頼性の判断根拠       出用文献(元文献)       備考       試験物質名       CAS 番号       純度等       注入方法       方法       大方法       方法       方法       方法       方法       方法       大学       会議	14  プレフタル酸 100-21-0  タイプ: 排泄 不明  詳細は英文参照   0.5%カルボキシメチルセルロースナトリウム水溶液において、懸濁した200mg/kgのテレフタル酸の食餌用量がラットに与えられた際、テレフタル酸は、投与から24時間後に尿及び糞便において見出され、それぞれ用量の約55%及び約30%と報告された。同様の用量を腹膜内注入によって好与した場合、定量的に用量のほとんどが24時間後の尿において取り戻された。300mg/kg/日のテレフタル酸が与えられた場合、ラットは、投与後24時間ま	terephthalic acid 100-21-0  Type: Excretion 不明  Hoshi and Kuretani (1965) studied the excretion of terephthalic acid when given to rats by gavage, intraperitoneal injection and dietary inclusion.  when a gavage dose of 200 mg terephthalic acid per kg suspended in 0.5% aqueous sodium carboxymethylcellulose was given to rats, terephthalic acid was found 24 hours after administration in the urine and feces, and accounted for about 55 and 30% of the dose, respectively. When a similar dose was given by intraperitoneal injection, most of the dose was recovered quantitatively in the urine after 24 hours. When fed 300 mg terephthalic acid/kg/day, rats excreted 78-85% of the
キースタディ       信頼性の判断根拠       明用文献(元文献)       備考       試験物質名       CAS番号       純皮等       注釈       方法/ガイドライン       GLP適合       試験を行った年       試験条件       結果       結果	14  プレフタル酸 100-21-0  タイプ: 排泄 不明  詳細は英文参照   0.5%カルボキシメチルセルロースナトリウム水溶液において、懸濁した200mg/kgのテレフタル酸の食餌用量がラットに与えられた際、テレフタル酸は、投与から24時間後に尿及び糞便において見出され、それぞれ用量の約55%及び約30%と報告された。同様の用量を腹膜内注入によって好与した場合、定量的に用量のほとんどが24時間後の尿において取り戻された。300mg/kg/日のテレフタル酸が与えられた場合、ラットは、投与後24時間ま	terephthalic acid 100-21-0  Type: Excretion 不明  Hoshi and Kuretani (1965) studied the excretion of terephthalic acid when given to rats by gavage, intraperitoneal injection and dietary inclusion.  when a gavage dose of 200 mg terephthalic acid per kg suspended in 0.5% aqueous sodium carboxymethylcellulose was given to rats, terephthalic acid was found 24 hours after administration in the urine and feces, and accounted for about 55 and 30% of the dose, respectively. When a similar dose was given by intraperitoneal injection, most of the dose was recovered quantitatively in the urine after 24 hours. When fed 300 mg terephthalic acid/kg/day, rats excreted 78-85% of the
キースタディ       信頼性の判断根拠       出男用文献(元文献)       備考       試験物質名       CAS番号       純皮沢       方法/方法/方法/方法/方法/方法/方法/方法/方法/方法/方法/方法/方法/方	14  プレフタル酸 100-21-0  タイプ: 排泄 不明  詳細は英文参照   0.5%カルボキシメチルセルロースナトリウム水溶液において、懸濁した200mg/kgのテレフタル酸の食餌用量がラットに与えられた際、テレフタル酸は、投与から24時間後に尿及び糞便において見出され、それぞれ用量の約55%及び約30%と報告された。同様の用量を腹膜内注入によって好与した場合、定量的に用量のほとんどが24時間後の尿において取り戻された。300mg/kg/日のテレフタル酸が与えられた場合、ラットは、投与後24時間ま	terephthalic acid 100-21-0  Type: Excretion 不明  Hoshi and Kuretani (1965) studied the excretion of terephthalic acid when given to rats by gavage, intraperitoneal injection and dietary inclusion.  when a gavage dose of 200 mg terephthalic acid per kg suspended in 0.5% aqueous sodium carboxymethylcellulose was given to rats, terephthalic acid was found 24 hours after administration in the urine and feces, and accounted for about 55 and 30% of the dose, respectively. When a similar dose was given by intraperitoneal injection, most of the dose was recovered quantitatively in the urine after 24 hours. When fed 300 mg terephthalic acid/kg/day, rats excreted 78-85% of the
キースタディ 信頼性の判断根拠 出典用文献(元文献) 備 試験物質名 CAS度等 注方法/方法 方法(一方) (GLP適合 試験を行った年 試験を作 結論 結論 注釈 括果	14  プレフタル酸 100-21-0  タイプ: 排泄 不明  詳細は英文参照  詳細は英文参照  詳細は英文参照  おった200mg/kgのテレフタル酸の食餌用量がラットに与えられた際、テレフタル酸は、投与から24時間後に尿及び糞便において見出され、それぞれ用量の約55%及び約30%と報告された。同様の用量を腹膜内注入によって投与した場合、定量的に用量のほとんどが24時間後の尿において取り戻された。300mg/kg/日のテレフタル酸が与えられた場合、ラットは、投与後24時間までに用量の78-85%を尿中に、残りを糞便中に排出した。	terephthalic acid 100-21-0  Type: Excretion 不明  Hoshi and Kuretani (1965) studied the excretion of terephthalic acid when given to rats by gavage, intraperitoneal injection and dietary inclusion.  when a gavage dose of 200 mg terephthalic acid per kg suspended in 0.5% aqueous sodium carboxymethylcellulose was given to rats, terephthalic acid was found 24 hours after administration in the urine and feces, and accounted for about 55 and 30% of the dose, respectively. When a similar dose was given by intraperitoneal injection, most of the dose was recovered quantitatively in the urine after 24 hours. When fed 300 mg terephthalic acid/kg/day, rats excreted 78-85% of the dose in urine and the rest in feces by 24 hours after feeding.
キースタディ       信頼性の判断根拠       出男用文献(元文献)       備       試験物質名       CAS度等       注決法       方法       大学       高額       おより       おより       おより       おおり	14  プレフタル酸 100-21-0  タイプ: 排泄 不明  詳細は英文参照  詳細は英文参照  詳細は英文参照  おった200mg/kgのテレフタル酸の食餌用量がラットに与えられた際、テレフタル酸は、投与から24時間後に尿及び糞便において見出され、それぞれ用量の約55%及び約30%と報告された。同様の用量を腹膜内注入によって投与した場合、定量的に用量のほとんどが24時間後の尿において取り戻された。300mg/kg/日のテレフタル酸が与えられた場合、ラットは、投与後24時間までに用量の78-85%を尿中に、残りを糞便中に排出した。	terephthalic acid 100-21-0  Type: Excretion 不明  Hoshi and Kuretani (1965) studied the excretion of terephthalic acid when given to rats by gavage, intraperitoneal injection and dietary inclusion.  when a gavage dose of 200 mg terephthalic acid per kg suspended in 0.5% aqueous sodium carboxymethylcellulose was given to rats, terephthalic acid was found 24 hours after administration in the urine and feces, and accounted for about 55 and 30% of the dose, respectively. When a similar dose was given by intraperitoneal injection, most of the dose was recovered quantitatively in the urine after 24 hours. When fed 300 mg terephthalic acid/kg/day, rats excreted 78-85% of the dose in urine and the rest in feces by 24 hours after feeding.
キースタディ       信頼性の判断根拠       出用文献(元文献)       備考       試験物質名       CAS番号       純度釈       方法/方法       方法/方方方       成品験を行った年       試験条件       結論       未集       結論       注釈性       十二類性の判断根拠       出典	14  プレフタル酸 100-21-0  タイプ: 排泄 不明  詳細は英文参照  詳細は英文参照  詳細は英文参照  詳細は英文参照  が表した200mg/kgのテレフタル酸の食餌用量がラットに与えられた際、テレフタル酸は、投与から24時間後に尿及び糞便において見出され、それぞれ用量の約55%及び約30%と報告された。同様の用量を腹膜内注入によって投与した場合、定量的に用量のほとんどが24時間後の尿において取り戻された。300mg/kg/日のテレフタル酸が与えられた場合、ラットは、投与後24時間までに用量の78-85%を尿中に、残りを糞便中に排出した。	terephthalic acid 100-21-0  Type: Excretion 不明  Hoshi and Kuretani (1965) studied the excretion of terephthalic acid when given to rats by gavage, intraperitoneal injection and dietary inclusion.  when a gavage dose of 200 mg terephthalic acid per kg suspended in 0.5% aqueous sodium carboxymethylcellulose was given to rats, terephthalic acid was found 24 hours after administration in the urine and feces, and accounted for about 55 and 30% of the dose, respectively. When a similar dose was given by intraperitoneal injection, most of the dose was recovered quantitatively in the urine after 24 hours. When fed 300 mg terephthalic acid/kg/day, rats excreted 78-85% of the dose in urine and the rest in feces by 24 hours after feeding.
キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番等 注決 方法/方法/方法/方法/方法/方法/方法/方法/方法/方法/方法/方法/方法/方	14  プレフタル酸 100-21-0  タイプ: 排泄 不明  詳細は英文参照  詳細は英文参照  詳細は英文参照  おった200mg/kgのテレフタル酸の食餌用量がラットに与えられた際、テレフタル酸は、投与から24時間後に尿及び糞便において見出され、それぞれ用量の約55%及び約30%と報告された。同様の用量を腹膜内注入によって投与した場合、定量的に用量のほとんどが24時間後の尿において取り戻された。300mg/kg/日のテレフタル酸が与えられた場合、ラットは、投与後24時間までに用量の78-85%を尿中に、残りを糞便中に排出した。	terephthalic acid 100-21-0  Type: Excretion 不明  Hoshi and Kuretani (1965) studied the excretion of terephthalic acid when given to rats by gavage, intraperitoneal injection and dietary inclusion.  when a gavage dose of 200 mg terephthalic acid per kg suspended in 0.5% aqueous sodium carboxymethylcellulose was given to rats, terephthalic acid was found 24 hours after administration in the urine and feces, and accounted for about 55 and 30% of the dose, respectively. When a similar dose was given by intraperitoneal injection, most of the dose was recovered quantitatively in the urine after 24 hours. When fed 300 mg terephthalic acid/kg/day, rats excreted 78-85% of the dose in urine and the rest in feces by 24 hours after feeding.
キースタディ       信頼性の判断根拠       出用文献(元文献)       備考       試験物質名       CAS番号       純度釈       方法/方法       方法/方方方       成品験を行った年       試験条件       結論       未集       結論       注釈性       十二類性の判断根拠       出典	14  プレフタル酸 100-21-0  タイプ: 排泄 不明  詳細は英文参照  詳細は英文参照  詳細は英文参照  詳細は英文参照  が表した200mg/kgのテレフタル酸の食餌用量がラットに与えられた際、テレフタル酸は、投与から24時間後に尿及び糞便において見出され、それぞれ用量の約55%及び約30%と報告された。同様の用量を腹膜内注入によって投与した場合、定量的に用量のほとんどが24時間後の尿において取り戻された。300mg/kg/日のテレフタル酸が与えられた場合、ラットは、投与後24時間までに用量の78-85%を尿中に、残りを糞便中に排出した。	terephthalic acid 100-21-0  Type: Excretion 不明  Hoshi and Kuretani (1965) studied the excretion of terephthalic acid when given to rats by gavage, intraperitoneal injection and dietary inclusion.  when a gavage dose of 200 mg terephthalic acid per kg suspended in 0.5% aqueous sodium carboxymethylcellulose was given to rats, terephthalic acid was found 24 hours after administration in the urine and feces, and accounted for about 55 and 30% of the dose, respectively. When a similar dose was given by intraperitoneal injection, most of the dose was recovered quantitatively in the urine after 24 hours. When fed 300 mg terephthalic acid/kg/day, rats excreted 78-85% of the dose in urine and the rest in feces by 24 hours after feeding.
キースタディ 信頼性の判断根拠 出明用文献(元文献) 備 試験物質名 CAS産等 注決法 方法とが方と は取を行った年 試験条件 結論論 料果 結論論 注に釈頼性 キースタディ にも は、取頼性 キースタディー にも は、取頼性 キースタディー にも は、取頼性 キースタディー にも は、取 は、取 は、取 は、取 は、取 は、取 は、取 は、取 は、取 は、取	14  テレフタル酸 100-21-0  タイプ: 排泄 不明  詳細は英文参照   0.5%カルボキシメチルセルロースナトリウム水溶液において、懸 濁した200mg/kgのテレフタル酸の食餌用量がラットに与えられ た際、テレフタル酸は、投与から24時間後に尿及び糞便におい て見出され、それぞれ用量の約55%及び約30%と報告された。同 様の用量を腹膜内注入によって投与した場合、定量的に用量 のほとんどが24時間後の尿において取り戻された。300mg/kg/ 日のテレフタル酸が与えられた場合、ラットは、投与後24時間までに用量の78-85%を尿中に、残りを糞便中に排出した。  選択してください	terephthalic acid 100-21-0  Type: Excretion 不明  Hoshi and Kuretani (1965) studied the excretion of terephthalic acid when given to rats by gavage, intraperitoneal injection and dietary inclusion.  when a gavage dose of 200 mg terephthalic acid per kg suspended in 0.5% aqueous sodium carboxymethylcellulose was given to rats, terephthalic acid was found 24 hours after administration in the urine and feces, and accounted for about 55 and 30% of the dose, respectively. When a similar dose was given by intraperitoneal injection, most of the dose was recovered quantitatively in the urine after 24 hours. When fed 300 mg terephthalic acid/kg/day, rats excreted 78-85% of the dose in urine and the rest in feces by 24 hours after feeding.  選択してください
キースタディ 信頼性の判断根拠 出明用文献(元文献) 備 試験物質名 CAS度等 注法法/方法/方法/方法/方法/方法/方法 方法(P)適合 試験を行った年 試験条件 結論論 注無果 結論論注理頼性 ニー頼性の判断根拠 出引用文献(元文献) 備 表	14  テレフタル酸 100-21-0  タイプ: 排泄 不明  詳細は英文参照	terephthalic acid 100-21-0  Type: Excretion 不明  Hoshi and Kuretani (1965) studied the excretion of terephthalic acid when given to rats by gavage, intraperitoneal injection and dietary inclusion.  when a gavage dose of 200 mg terephthalic acid per kg suspended in 0.5% aqueous sodium carboxymethylcellulose was given to rats, terephthalic acid was found 24 hours after administration in the urine and feces, and accounted for about 55 and 30% of the dose, respectively. When a similar dose was given by intraperitoneal injection, most of the dose was given by intraperitoneal injection, most of the dose was given by intraperitoneal injection, most of the dose was given by intraperitoneal injection, most of the dose in urine and the rest in feces by 24 hours after feeding.  選択してください
キースタディ         信頼性の判断根拠         出用文献(元文献)         備考         試験物質名         CASと番等         注入方法         方法適合った年         試験条件         結論         未果         結論         注意表示         有性         本域性         本域性         本域性         本域         本域         本域         本域         本域         大域         大域 </td <td>14  テレフタル酸 100-21-0  タイプ: 排泄 不明  詳細は英文参照   0.5%カルボキシメチルセルロースナトリウム水溶液において、懸 濁した200mg/kgのテレフタル酸の食餌用量がラットに与えられ た際、テレフタル酸は、投与から24時間後に尿及び糞便におい て見出され、それぞれ用量の約55%及び約30%と報告された。同 様の用量を腹膜内注入によって投与した場合、定量的に用量 のほとんどが24時間後の尿において取り戻された。300mg/kg/ 日のテレフタル酸が与えられた場合、ラットは、投与後24時間までに用量の78-85%を尿中に、残りを糞便中に排出した。  選択してください</td> <td>terephthalic acid 100-21-0  Type: Excretion 不明  Hoshi and Kuretani (1965) studied the excretion of terephthalic acid when given to rats by gavage, intraperitoneal injection and dietary inclusion.  when a gavage dose of 200 mg terephthalic acid per kg suspended in 0.5% aqueous sodium carboxymethylcellulose was given to rats, terephthalic acid was found 24 hours after administration in the urine and feces, and accounted for about 55 and 30% of the dose, respectively. When a similar dose was given by intraperitoneal injection, most of the dose was recovered quantitatively in the urine after 24 hours. When fed 300 mg terephthalic acid/kg/day, rats excreted 78-85% of the dose in urine and the rest in feces by 24 hours after feeding.  選択してください</td>	14  テレフタル酸 100-21-0  タイプ: 排泄 不明  詳細は英文参照   0.5%カルボキシメチルセルロースナトリウム水溶液において、懸 濁した200mg/kgのテレフタル酸の食餌用量がラットに与えられ た際、テレフタル酸は、投与から24時間後に尿及び糞便におい て見出され、それぞれ用量の約55%及び約30%と報告された。同 様の用量を腹膜内注入によって投与した場合、定量的に用量 のほとんどが24時間後の尿において取り戻された。300mg/kg/ 日のテレフタル酸が与えられた場合、ラットは、投与後24時間までに用量の78-85%を尿中に、残りを糞便中に排出した。  選択してください	terephthalic acid 100-21-0  Type: Excretion 不明  Hoshi and Kuretani (1965) studied the excretion of terephthalic acid when given to rats by gavage, intraperitoneal injection and dietary inclusion.  when a gavage dose of 200 mg terephthalic acid per kg suspended in 0.5% aqueous sodium carboxymethylcellulose was given to rats, terephthalic acid was found 24 hours after administration in the urine and feces, and accounted for about 55 and 30% of the dose, respectively. When a similar dose was given by intraperitoneal injection, most of the dose was recovered quantitatively in the urine after 24 hours. When fed 300 mg terephthalic acid/kg/day, rats excreted 78-85% of the dose in urine and the rest in feces by 24 hours after feeding.  選択してください
キースタディ 信頼性の判断根拠 出用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番等 注注が 方法とが方との は取表を行った年 試験条件 結論論 注に頼性 キに頼性 キに頼性 コースタディ 信典性 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番等	14  テレフタル酸 100-21-0  タイプ: 排泄 不明  詳細は英文参照	terephthalic acid 100-21-0  Type: Excretion 不明  Hoshi and Kuretani (1965) studied the excretion of terephthalic acid when given to rats by gavage, intraperitoneal injection and dietary inclusion.  when a gavage dose of 200 mg terephthalic acid per kg suspended in 0.5% aqueous sodium carboxymethylcellulose was given to rats, terephthalic acid was found 24 hours after administration in the urine and feces, and accounted for about 55 and 30% of the dose, respectively. When a similar dose was given by intraperitoneal injection, most of the dose was recovered quantitatively in the urine after 24 hours. When fed 300 mg terephthalic acid/kg/day, rats excreted 78-85% of the dose in urine and the rest in feces by 24 hours after feeding.  選択してください
キースタディ         信頼性の判断根拠         出用文献(元文献)         備考         試験物質名         CASと番等         注入方法         方法適合った年         試験条件         結論         未果         結論         注意表示         有性         本域性         本域性         本域性         本域         本域         本域         本域         本域         大域         大域 </td <td>14  テレフタル酸 100-21-0  タイプ: 排泄 不明  詳細は英文参照</td> <td>terephthalic acid 100-21-0  Type: Excretion 不明  Hoshi and Kuretani (1965) studied the excretion of terephthalic acid when given to rats by gavage, intraperitoneal injection and dietary inclusion.  when a gavage dose of 200 mg terephthalic acid per kg suspended in 0.5% aqueous sodium carboxymethylcellulose was given to rats, terephthalic acid was found 24 hours after administration in the urine and feces, and accounted for about 55 and 30% of the dose, respectively. When a similar dose was given by intraperitoneal injection, most of the dose was recovered quantitatively in the urine after 24 hours. When fed 300 mg terephthalic acid/kg/day, rats excreted 78-85% of the dose in urine and the rest in feces by 24 hours after feeding.  選択してください</td>	14  テレフタル酸 100-21-0  タイプ: 排泄 不明  詳細は英文参照	terephthalic acid 100-21-0  Type: Excretion 不明  Hoshi and Kuretani (1965) studied the excretion of terephthalic acid when given to rats by gavage, intraperitoneal injection and dietary inclusion.  when a gavage dose of 200 mg terephthalic acid per kg suspended in 0.5% aqueous sodium carboxymethylcellulose was given to rats, terephthalic acid was found 24 hours after administration in the urine and feces, and accounted for about 55 and 30% of the dose, respectively. When a similar dose was given by intraperitoneal injection, most of the dose was recovered quantitatively in the urine after 24 hours. When fed 300 mg terephthalic acid/kg/day, rats excreted 78-85% of the dose in urine and the rest in feces by 24 hours after feeding.  選択してください

方法/ガイドライン	タイプ: 排泄	Type: Excretion
GLP適合	不明	不明
試験を行った年 試験条件		
結果	放射性標識をしたテレフタル酸([140]TPA)の腎臓の門脈循環への注入は、尿中に代謝されずに急速に排泄されることを示している。詳細は英文参照	By use of the Sperber in vivo chicken preparation method, infusion of radiolabeled terephthalic acid ([14C]TPA) into the renal portal circulation revealed a first—pass excretion of the unchanged compound into the urine. This model was utilized further to characterize the excretory transport of [14C]TPA and provide information on the structural specificity in the secretion of dicarboxylic acids.  At an infusion rate of 0.4 nmol/min 60% of the [14C]TPA which reached the kidney was directly excreted. An infusion rate of 3 or 6 nmol/min resulted in complete removal of [14C]TPA by the kidney.
結論		
結論	これらの結果は、TPAが0.4 nmol/mirで注入された場合に活発にら沙沙され再び吸収され、また、より高濃度において活発な再吸収がTPAの注入によって飽和されることを示す。分泌過程は40 nmol/mirでのTPAの注入液によって満たされる。 TPAの排泄輸送は、これらの有機酸が同じ有機アニオン排泄輸送過程を分けることを示す、プロベネシッド、サリチル酸塩及びmーヒドロキシ安息香酸の注入によって抑制された。mーヒドロキシ安息香酸は、TPA及びp-アミノ馬尿酸(PAH)の分泌物において含まれる異なった機構があることを示唆して、同時に測定したPAHの排泄輸送を変えなかった。ジカルボン酸の尿分泌物の構造特異性はTPA分泌物の抑制可能剤としてのo-フタル酸及びm-フタル酸を用いて明らかにされた。 o-フタル酸ではなくm-フタル酸は、カルボキシ代用安息香酸の尿分泌物においていくつかの特異性があることを示す、TPA排泄輸送を抑制した。 TPAは、ラット及びヒトの死体の腎皮質によって、活発に蓄積された。	These results indicate that TPA is both actively secreted and reabsorbed when infused at 0.4 nmol/min and that active reabsorption is saturated with the infusion of TPA at higher concentrations. The secretory process was saturated with the infusion of TPA at 40 nmol/min. The excretory transport of TPA was inhibited by the infusion of probenecid, salicylate, and m-hydroxybenzoic acid, indicating that these organic acids share the same organic anion excretory transport process. m-Hydroxybenzoic acid did not alter the simultaneously measured excretory transport of p-aminohippuric acid (PAH), suggesting that there are different systems involved in the secretion of TPA and PAH. The structural specificity for renal secretion of dicarboxylic acids was revealed by the use of o-phthalic acid and m-phthalic acid as possible inhibitors of TPA secretion. m-Phthalate, but not o-phthalate, inhibited TPA excretory transport, indicating that there is some specificity in the renal secretion of carboxy-substituted benzoic acids. TPA was actively accumulated by rat and human cadaver renal cortical slices.
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	IN O C VICE V	ZINO CVIZCO
信頼性の判断根拠		
出典	00	00
引用文献(元文献) 備考	23	23
川 方		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等	100 21 0	100 21 0
注釈		
<u> </u>		
方法/ガイドライン	タイプ: 代謝	Type: Metabolism
GLP適合	不明	不明
試験を行った年	1 91	1 91
試験条件		
結果		
結果	カルシウムテレフタル酸結石が尿道に形成された。詳細は英文参照	The induction of calcium terephthalate (CaTPA) calculi in the urinary tract of rats ingesting terephthalic acid (TPA) or dimethylterephthalate is a result of supersaturation with respect to the stone components. The solubility product of CaTPA was determined in water at 37 degrees C, and it value in urine of exposed weanling Fischer—344 rats was calculated based on the electrolyte concentrations of freshly—collected, microliter urine samples. The value of the solubility product in urine is equal to the minimum concentration product of free Ca and TPA at which crystallization can occur; hence, the urinary solubility product is a parameter that is useful for risk assessment.
結論	て	Estimates of the TDA assessment of
結論	正常な人尿中の結晶もしくは結石の誘発に要したTPA濃度の 評価が示された。	Estimates of the TPA concentrations required to induce crystals or stones in normal human urine are presented.
注釈	□□□□ ひっか こうりょう	orystals or stones in normal numan urine are presented.
<u> </u>	選択してください	選択してください
キースタディ	NEW YORK WEEK	NEW YORK THEE
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	24	24
備考		
NH. C		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
試験物質名 CAS番号	テレフタル酸 100-21-0	terephthalic acid 100-21-0
試験物質名 CAS番号 純度等		·
試験物質名 CAS番号 純度等 注釈		·
試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法	100-21-0	100-21-0
試験物質名 CAS番号 純度等 注 方法 方法	9イプ: トキコキネティックス	Type: Toxicokinetics
試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 方法	100-21-0	100-21-0

試験条件		The pharmacokinetics of [14C]terephthalic acid
1 = 11 5 C S C 1 C +	詳細は英文参照	([14C]TPA)were determined in Fischer-344 rats after
H-0-3/4/11		intravenous and oral administration.
<b>針</b> 甲		
<u>結果</u>	高速液クロの分析では、[14C]TPAの代謝物は尿の分析では	After iv injection, the plasma concentration-time data were
	得られなかった。 詳細は英文参照	fitted using a three-compartment pharmacokinetic model. The
		average terminal half-life in three rats was 1.2 +/- 0.4 hr, and the average volume of distribution of the terminal phase was
		1.3 +/- 0.3 liters/kg. Following administration by gavage, a
		longer terminal half-life was obtained, indicating that dissolution of [14C]TPA or absorption from the gut may be
		partially rate-limiting. Recovery of [140]TPA in the urine
結果 結果		following a bolus iv dose was 101 +/- 8%, indicating essentially
和朱		complete urinary excretion of the compound. No evidence of metabolism of [14C]TPA was obtained by analysis of urine by
		high-performance liquid chromatography. [14C]TPA was
		transported to the fetus after administration of the compound to pregnant rats; however, the concentrations in fetal tissues
		were low relative to the corresponding maternal tissues.
		Neonatal rats exposed to 5% TPA in the diet of their dams did not develop calculi until the onset of self-feeding.
		Thot develop calculi until the onset of self-reeding.
 結論		
	これらの結果は、TPAがラットへの投与後に直ちに尿に排出さ	These results demonstrate that TPA is rapidly excreted into
á±≣ <del>≙</del>	れ、また母体における排泄機構が新生児におけるTPA誘発尿 石症を防ぐ有効機構を提供することを、証明する。	urine after administration to rats, and that excretory mechanisms in the dam provide an effective mechanism of
結論		defense against TPA-induced urolithiasis in neonatal rats.
注釈	選択してください	「翌七」 ナノキシャン
<u>信頼性</u> キースタディ	送伏してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典 引用文献(元文献)	25	25
備考		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等		
注釈 方法		
方法/ガイドライン	タイプ: トキコキネティックス	Type: Toxicokinetics
GLP適合	不明	不明
試験を行った年	ウサギとラットの血漿中のTPA濃度変化を測定した。	Changes of terephthalic acid (TPA) concentration in blood
試験を行った年 試験条件	ウサギとラットの血漿中のTPA濃度変化を測定した。	Changes of terephthalic acid (TPA) concentration in blood plasma was detected in the rabbit and the rat.
試験を行った年	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排	
試験を行った年 試験条件	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベ	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached
試験を行った年 試験条件	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma
試験を行った年 試験条件	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの懸濁液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally
試験を行った年 試験条件	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、依々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの懸濁液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっく	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA
試験を行った年 試験条件	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの懸濁液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとても低く、200mg/kg投与後8時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration
試験を行った年 試験条件 結果	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの懸濁液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆつくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとても低く、200mg/kg投与後8時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与後の血漿におけるTPAの半減期は27時間であった。ラットにお	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration in plasma was very low, being only 11.7 ug/ml, at the 8th hour
試験を行った年 試験条件 結果	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの懸濁液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとても低く、200mg/kg投与後8時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration
試験を行った年 試験条件 結果	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの患猶液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとても低く、200mg/kg及後96時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与後の血漿におけるTPAの半減期は27時間であった。ラットにおいて、血漿におけるTPAの半減期は、腹膜内投与と経口投与	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration in plasma was very low, being only 11.7 ug/ml, at the 8th hour after the administration of 200 mg/kg. The half-life of TPA in plasma after its oral administration was 27 hours. In the rat, the half-life of TPA in plasma was 1 hour, and 3.4 hours, in
試験を行った年 試験条件 結果	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの患猶液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとても低く、200mg/kg及後96時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与後の血漿におけるTPAの半減期は27時間であった。ラットにおいて、血漿におけるTPAの半減期は、腹膜内投与と経口投与	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration in plasma was very low, being only 11.7 ug/ml, at the 8th hour after the administration of 200 mg/kg, The half-life of TPA in plasma after its oral administration was 27 hours. In the rat,
試験を行った年 試験条件 結果 結果	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの患猶液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとても低く、200mg/kg及後96時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与後の血漿におけるTPAの半減期は27時間であった。ラットにおいて、血漿におけるTPAの半減期は、腹膜内投与と経口投与	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration in plasma was very low, being only 11.7 ug/ml, at the 8th hour after the administration of 200 mg/kg. The half-life of TPA in plasma after its oral administration was 27 hours. In the rat, the half-life of TPA in plasma was 1 hour, and 3.4 hours, in
試験を行った年 試験条件 結果 結集	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの患猶液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとても低く、200mg/kg及後96時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与後の血漿におけるTPAの半減期は27時間であった。ラットにおいて、血漿におけるTPAの半減期は、腹膜内投与と経口投与	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration in plasma was very low, being only 11.7 ug/ml, at the 8th hour after the administration of 200 mg/kg. The half-life of TPA in plasma after its oral administration was 27 hours. In the rat, the half-life of TPA in plasma was 1 hour, and 3.4 hours, in
試験を行った年 試験条件 結果 結果 信頼性	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの患猶液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとても低く、200mg/kg及後96時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与後の血漿におけるTPAの半減期は27時間であった。ラットにおいて、血漿におけるTPAの半減期は、腹膜内投与と経口投与	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration in plasma was very low, being only 11.7 ug/ml, at the 8th hour after the administration of 200 mg/kg. The half-life of TPA in plasma after its oral administration was 27 hours. In the rat, the half-life of TPA in plasma was 1 hour, and 3.4 hours, in
試験を行った年 試験条件 結果 結果 注電類性 キースタディ	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの懸濁液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとでも低く、200mg/kg投与後8時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与後の血漿におけるTPAの半減期は27時間であった。ラットにおいて、血漿におけるTPAの半減期は、腹膜内投与と経口投与のそれぞれ、1時間及び3.4時間であった。	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration in plasma was very low, being only 11.7 ug/ml, at the 8th hour after the administration of 200 mg/kg. The half-life of TPA in plasma was 27 hours. In the rat, the half-life of TPA in plasma was 1 hour, and 3.4 hours, in cases of intraperitoneal and oral administrations respectively.
試験を行った年  試験条件  結果  結論  結論  注釈  信頼性  キースタディ  信頼性の判断根拠  出典	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの懸濁液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとても低く、200mg/kg投与後8時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与後の血漿におけるTPAの半減期は27時間であった。ラットにおいて、血漿におけるTPAの半減期は、腹膜内投与と経口投与のそれぞれ、1時間及び3.4時間であった。	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration in plasma was very low, being only 11.7 ug/ml, at the 8th hour after the administration of 200 mg/kg. The half-life of TPA in plasma after its oral administration was 27 hours. In the rat, the half-life of TPA in plasma was 1 hour, and 3.4 hours, in cases of intraperitoneal and oral administrations respectively.
試験を行った年 試験条件 結果 結論 注釈 信頼性 キースタディ 信典性 引用文献(元文献)	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの懸濁液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとでも低く、200mg/kg投与後8時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与後の血漿におけるTPAの半減期は27時間であった。ラットにおいて、血漿におけるTPAの半減期は、腹膜内投与と経口投与のそれぞれ、1時間及び3.4時間であった。	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration in plasma was very low, being only 11.7 ug/ml, at the 8th hour after the administration of 200 mg/kg. The half-life of TPA in plasma was 27 hours. In the rat, the half-life of TPA in plasma was 1 hour, and 3.4 hours, in cases of intraperitoneal and oral administrations respectively.
試験を行った年  試験条件  結果  結論  結論  注釈  信頼性  キースタディ  信頼性の判断根拠  出典	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの懸濁液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとても低く、200mg/kg投与後8時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与後の血漿におけるTPAの半減期は27時間であった。ラットにおいて、血漿におけるTPAの半減期は、腹膜内投与と経口投与のそれぞれ、1時間及び3.4時間であった。	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration in plasma was very low, being only 11.7 ug/ml, at the 8th hour after the administration of 200 mg/kg. The half-life of TPA in plasma after its oral administration was 27 hours. In the rat, the half-life of TPA in plasma was 1 hour, and 3.4 hours, in cases of intraperitoneal and oral administrations respectively.
試験を行った年  試験条件  結果  結論  結論  結論  注釈  信頼性  キースタディ  信頼性の判断根拠  出典  引用文献(元文献)  備考  試験物質名	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの懸濁液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとても低く、200mg/kg投与後8時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与後の血漿におけるTPAの半減期は27時間であった。ラットにおいて、血漿におけるTPAの半減期は、腹膜内投与と経口投与のそれぞれ、1時間及び3.4時間であった。	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration in plasma was very low, being only 11.7 ug/ml, at the 8th hour after the administration of 200 mg/kg. The half-life of TPA in plasma after its oral administration was 27 hours. In the rat, the half-life of TPA in plasma was 1 hour, and 3.4 hours, in cases of intraperitoneal and oral administrations respectively.  選択してください
試験を行った年  試験条件  結果  結論  結論  注釈  信頼性  ニースタディ  信頼性の判断根拠  出典  引用文献(元文献)  備考  試験物質名  CAS番号	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの懸濁液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとても低く、200mg/kg投与後8時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与後の血漿におけるTPAの半減期は27時間であった。ラットにおいて、血漿におけるTPAの半減期は、腹膜内投与と経口投与のそれぞれ、1時間及び3.4時間であった。	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration in plasma was very low, being only 11.7 ug/ml, at the 8th hour after the administration of 200 mg/kg. The half-life of TPA in plasma after its oral administration was 27 hours. In the rat, the half-life of TPA in plasma was 1 hour, and 3.4 hours, in cases of intraperitoneal and oral administrations respectively.  選択してください
試験を行った年  試験条件  結果  結論  結論  注釈 信頼性  ニスタディ 信典性  コリ用文献(元文献)  備考  試験物質名  CAS 番号  にない事質を表現します。	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの懸濁液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとても低く、200mg/kg投与後8時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与後の血漿におけるTPAの半減期は27時間であった。ラットにおいて、血漿におけるTPAの半減期は、腹膜内投与と経口投与のそれぞれ、1時間及び3.4時間であった。	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration in plasma was very low, being only 11.7 ug/ml, at the 8th hour after the administration of 200 mg/kg. The half-life of TPA in plasma after its oral administration was 27 hours. In the rat, the half-life of TPA in plasma was 1 hour, and 3.4 hours, in cases of intraperitoneal and oral administrations respectively.  選択してください
試験を行った年 試験条件 結果 結論論結論釈 信手項性の判断根拠 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注方法	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの懸濁液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとても低く、200mg/kg投与後8時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与後の血漿におけるTPAの半減期は27時間であった。ラットにおいて、血漿におけるTPAの半減期は、腹膜内投与と経口投与のそれぞれ、1時間及び3.4時間であった。	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration in plasma was very low, being only 11.7 ug/ml, at the 8th hour after the administration of 200 mg/kg. The half-life of TPA in plasma after its oral administration was 27 hours. In the rat, the half-life of TPA in plasma was 1 hour, and 3.4 hours, in cases of intraperitoneal and oral administrations respectively.  選択してください
試験を行った年 試験条件 結果 結論 結論 注釈 信一元スタディ 信頼性 1用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注方法 方法/ガイドライン	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの懸濁液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとても低く、200mg/kg投与後8時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与後の血漿におけるTPAの半減期は27時間であった。ラットにおいて、血漿におけるTPAの半減期は、腹膜内投与と経口投与のそれぞれ、1時間及び3.4時間であった。	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration in plasma was very low, being only 11.7 ug/ml, at the 8th hour after the administration of 200 mg/kg. The half-life of TPA in plasma after its oral administration was 27 hours. In the rat, the half-life of TPA in plasma was 1 hour, and 3.4 hours, in cases of intraperitoneal and oral administrations respectively.  選択してください
試験を行った年 試験条件 結果 結論論結論釈 信手項性の判断根拠 引用文献(元文献) 備考 試験物質名 CAS番号 純度等 注方法	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの懸濁液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとでも低く、200mg/kg投与後8時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与後の血漿におけるTPAの半減期は27時間であった。ラットにおいて、血漿におけるTPAの半減期は、腹膜内投与と経口投与のそれぞれ、1時間及び3.4時間であった。	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration in plasma was very low, being only 11.7 ug/ml, at the 8th hour after the administration of 200 mg/kg. The half-life of TPA in plasma after its oral administration was 27 hours. In the rat, the half-life of TPA in plasma was 1 hour, and 3.4 hours, in cases of intraperitoneal and oral administrations respectively.  選択してください
試験を行った年  試験条件  結論 結論 注釈 信中スタディ 信頼性 中スタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CASで番号 純度等 注対法 方法/ガイドライン GLP適合	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの懸濁液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとても低く、200mg/kg投与後8時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与後の血漿におけるTPAの半減期は27時間であった。ラットにおいて、血漿におけるTPAの半減期は、腹膜内投与と経口投与のそれぞれ、1時間及び3.4時間であった。	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration in plasma was very low, being only 11.7 ug/ml, at the 8th hour after the administration of 200 mg/kg. The half-life of TPA in plasma after its oral administration was 27 hours. In the rat, the half-life of TPA in plasma was 1 hour, and 3.4 hours, in cases of intraperitoneal and oral administrations respectively.  選択してください  **ERULT C/ださい**  Waternal and fetal tissue distributions in rats of
試験を行った年  試験条件  結論 結論 注釈 信中スタディ 信頼性 中スタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CASで番号 純度等 注対法 方法/ガイドライン GLP適合	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの懸濁液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとでも低く、200mg/kg投与後8時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与後の血漿におけるTPAの半減期は27時間であった。ラットにおいて、血漿におけるTPAの半減期は、腹膜内投与と経口投与のそれぞれ、1時間及び3.4時間であった。	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration in plasma was very low, being only 11.7 ug/ml, at the 8th hour after the administration of 200 mg/kg. The half-life of TPA in plasma after its oral administration was 27 hours. In the rat, the half-life of TPA in plasma was 1 hour, and 3.4 hours, in cases of intraperitoneal and oral administrations respectively.  選択してください
試験を行った年  試験条件  結論 結論 注釈 信中スタディ 信頼性 中スタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CASで番号 純度等 注対法 方法/ガイドライン GLP適合	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの懸濁液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとでも低く、200mg/kg投与後8時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与後の血漿におけるTPAの半減期は27時間であった。ラットにおいて、血漿におけるTPAの半減期は、腹膜内投与と経口投与のそれぞれ、1時間及び3.4時間であった。	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration in plasma was very low, being only 11.7 ug/ml, at the 8th hour after the administration of 200 mg/kg. The half-life of TPA in plasma after its oral administration was 27 hours. In the rat, the half-life of TPA in plasma was 1 hour, and 3.4 hours, in cases of intraperitoneal and oral administrations respectively.  選択してください  Waternal and fetal tissue distributions in rats of [14C]terephthalic acid were determined by serial killings of pregnant animals (gestation 20) at 0.75, 2.5, 4, 7, 10, and 12 hours after a single oral dose of [14C]terephthalic acid, and by
試験を行った年  試験条件  結論 結論 結論 注釈 信ースタディ 信頼性 出典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CASと番号 純度等 注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの懸濁液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとでも低く、200mg/kg投与後8時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与後の血漿におけるTPAの半減期は27時間であった。ラットにおいて、血漿におけるTPAの半減期は、腹膜内投与と経口投与のそれぞれ、1時間及び3.4時間であった。	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration in plasma was very low, being only 11.7 ug/ml, at the 8th hour after the administration of 200 mg/kg. The half-life of TPA in plasma after its oral administration was 27 hours. In the rat, the half-life of TPA in plasma was 1 hour, and 3.4 hours, in cases of intraperitoneal and oral administrations respectively.  選択してください  Type: Toxicokinetics  不明  Maternal and fetal tissue distributions in rats of [140] terephthalic acid were determined by serial killings of pregnant animals (gestation 20) at 0.75, 2.5, 4, 7, 10, and 12
試験を行った年  試験条件  結論 結論 結論 注釈 信ースタディ 信頼性 出典 引用文献(元文献) 備考  試験物質名 CASと番号 純度等 注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年	TPAを腹腔内注入投与した場合、速やかに血漿に吸収され排泄された。血漿中のTPA濃度は注入後1時間以内に最高レベルに達し、徐々に低下し、24時間後には見出せなかった。TPAの血漿中の半減期は1.8時間であった。TPAの懸濁液が200mg/kg及び100mg/kgの用量において経口投与された場合、血漿中のTPA濃度は8-10時間以内に最高レベルに達し、ゆっくりと低下した。この場合、血漿中のTPA濃度はとでも低く、200mg/kg投与後8時間でわずか11.7 ug/mlになった。経口投与後の血漿におけるTPAの半減期は27時間であった。ラットにおいて、血漿におけるTPAの半減期は、腹膜内投与と経口投与のそれぞれ、1時間及び3.4時間であった。	plasma was detected in the rabbit and the rat.  TPA, when injected i.p., was rapidly absorbed into the plasma and then excreted. The TPA concentration in plasma reached a maximum level within 1 hour after injection, decreased gradually, and was not found after 24 hrs. The half-life of TPA in plasma was 1.8 hrs. When a TPA suspension was orally administered in doses of 200 and 100 mg/kg, the TPA concentration in plasma reached a maximum level within 8-10 hrs., and decreased slowly. In this case, the TPA concentration in plasma was very low, being only 11.7 ug/ml, at the 8th hour after the administration of 200 mg/kg. The half-life of TPA in plasma after its oral administration was 27 hours. In the rat, the half-life of TPA in plasma was 1 hour, and 3.4 hours, in cases of intraperitoneal and oral administrations respectively.  選択してください  Waternal and fetal tissue distributions in rats of [14C]terephthalic acid were determined by serial killings of pregnant animals (gestation 20) at 0.75, 2.5, 4, 7, 10, and 12 hours after a single oral dose of [14C]terephthalic acid, and by

	テレフタル酸の胎盤通過や胎児からの排泄は母親からの排泄	Placental transport of terephthalic acid to and elimination from
	に比較して遅い。放射能の蓄積は、胎児及び母の両方の肝	the fetus is slow relative to elimination from the dam.
	臓、腎臓及び膀胱において記録された。	
結果	順、自順及の防肌に向いて記録された。	Accumulation of radioactivity was noted in both fetal and
		maternal liver, kidney, and bladder.
結論		
結論		
注釈		
信頼性	選択してください	選択してください
	迭折してください	迭折してたさい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	26	26
	20	20
備考		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号		·
	100-21-0	100-21-0
純度等		
注釈		
方法		
	タイプ: トキコキネティックス	Type: Toxicokinetics
方法/ガイドライン		
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果	The base of the second	5
	て吸収され排泄される。唯一6%の酸が尿中に排泄されず、糞便	absorbed and excreted by the kidney. Only 6% of the acid is
	中に現れる。残りは、組織内で吸収されて代謝もしくは蓄積され	
結果	るよりも、おそらく腸において破壊される。	remainder is probably destroyed in the gut rather than
TH /	00 / 00 00 C 0 1001 - 000 C 100 00 0	
		absorbed and either metabolized or stored in the tissues.
結論		
結論		
注釈	122 In (18)	122 In (18)
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	DuPont. Unpublished study, MR 468-1	DuPont. Unpublished study, MR 468-1
	Dur onc. Oripublished study, With 400 T	Dui ont. Onpublished study, Witt 400 1
引用文献(元文献)		
備考		
試験物質名	テレフタル酸	terephthalic acid
CAS番号	100-21-0	100-21-0
純度等		
純度等		
注釈		
注釈 方法	h / → 11.7 h ≅ 11.7	T. C.
注釈 方法 方法/ガイドライン	タイプ: リスク評価	Type: Risk assessment
注釈 方法	タイプ: リスク評価 不明	Type: Risk assessment 不明
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合		
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年		
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件		
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年	不明	不明
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件		
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレ	不明 Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウム	不明  Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium-terephthalate at a
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。	不明  Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium-terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM.
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適を 試験を行った年 試験条件 結果	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル	不明  Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium-terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/	Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM.  Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適を 試験を行った年 試験条件 結果	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル	不明  Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium-terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適を 試験を行った年 試験条件 結果	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/	Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM.  Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適を 試験を行った年 試験条件 結果	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/	Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium-terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適を 試験を行った年 試験条件 結果	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/	Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium-terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/	Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium-terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/	Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium-terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果 結果	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/	Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium-terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果 結果	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。	Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium-terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果 結果 結果	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/	Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium-terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果 結果	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。	Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium-terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果 結議 結議 に表現して、	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。	Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium-terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果 結果 結論 結論 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。	Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium-terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 方法 方法 方法 方法 方法 方法 方法 方式  GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果  結果  結果  結理  結理  に表現して、 に述る に表現して、 に述る	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)	Right Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果 結果 結論 結論 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。	Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium-terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 方法 方法 方法 方法 方法 方法 方法 方式  GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果  結果  結果  結理  結理  に表現して、 に述る に表現して、 に述る	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)	Right Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果 結果 結論 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献)	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)	Right Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 方法 方法 方法 方法 方法 方法 方式  GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果  結議  結理  結論 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性 キースタディ 信頼性 カースタディ に対 は、カースタディ に対 は、カースタデ に対	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)	Right Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果  結論 結論 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考  5-11 ヒト暴露の経験	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)	Right Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 方法 方法 方法 方法 方法 方法 方式  GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果  結議  結理  結論 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性 キースタディ 信頼性 カースタディ に対 は、カースタディ に対 は、カースタデ に対	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)	Right Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果  結論 結論 注釈 信頼性	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)	Right Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.  3 信頼性なし
注釈 方法 方法 方法 方法 方法 方法 方法 方式 方法 方式 方法 方式 方式 方式 の  GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果  結果  結論 注果  結論 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 引用文献(元文献) 備考  5-11 ヒト暴露の経験 試験物質名 CAS番号	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)	Right Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 方法 方法 方法 方法 方法 方法 方式 方法 方式	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)	Right Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果  結論 結論 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 5-11 ヒト暴露の経験 試験物質名 CAS番号 経療度 注釈 注釈	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)	Right Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 方法 方法 方法 方法 方法 方法 方式 方法 方式	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)	Right Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 / ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果  結論 結論 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考  5-11 ヒト暴露の経験 試験物質名 CAS番号 純定等 注釈 製造/加工/使用情報	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)	Right Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果 結論 結論 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性 キースタディ 信頼性 キー気が、元文献) 備考 5-11 ヒト暴露の経験 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 の対所する の名の表現した。 はいまする にはいまする に	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)	Right Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果 結論 結論 注釈 [信理	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)	Right Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 / ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果 結論 結論 結論 注頼性 キースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 5-11 ヒト暴露の経験 試験物号 CAS番等 注釈 製造/加工/使用情報 研究説検証 データ収集方法	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)	Rased on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 / ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果  結論 結論 注釈 信頼性 ニースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考  5-11 ヒト暴露の経験 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 製造/加工/使用情報 研究デザイン 仮説検証 データ収集方法 被験者の説明	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)	Right Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 / ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果  結論 結論 注釈 信頼性 ニースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考  5-11 ヒト暴露の経験 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 製造/加工/使用情報 研究デザイン 仮説検証 データ収集方法 被験者の説明	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)	Right Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果 結論 結論 注釈 信頼性 キ信頼性 キ信頼性の判断根拠 引用文献(元文献) 備考 5-11 ヒト暴露の経験 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 が関係を表現して、対して、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)	Rased on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果 結論 結論 注釈 信頼性 キースタディ 信頼性 キースタディ 信頼性 キースタディ 信期性 引用文献(元文献) 備考 5-11 ヒト暴露の経験 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 が使用情報 が完データ者の説検 で表別を表した。 で表別を表した。 で表別を表別である。 で表別を表別である。 では、アータイの説を表別である。 で表別を表別である。 で表別である。 できまります。 できまりまする。 できまります。 できまりまする。 できまります	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)	Rased on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.
注釈 方法 方法/ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果 結論 結論 注釈 信頼性 キ信頼性 キ信頼性の判断根拠 引用文献(元文献) 備考 5-11 ヒト暴露の経験 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 が関係を表現して、対して、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)  27  テレフタル酸 100-21-0	不明  Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium-terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.  3 信頼性なし  27  terephthalic acid 1100-21-0
注釈 方法 方式 方法 方式	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)  27  テレフタル酸 100-21-0  テレフタル酸を80%含む油性ペーストを手の平板部に10ml投与	Right Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.  3 信頼性なし
注釈 方法 方式 方法 方式	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)  27  テレフタル酸 100-21-0	不明  Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium-terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.  3 信頼性なし  27  terephthalic acid 1100-21-0
注釈 方法 / ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果  結論 結論 注釈 信頼性 ニースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考  5-11 ヒト暴露の経験 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 製造/加工/使用情報 研究が表 製造/加工/使用情報 研究が表 を表	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)  フフタル酸 100-21-0  デレフタル酸 100-21-0  デレフタル酸を80%含む油性ペーストを手の平板部に10ml投与したが、刺激はなかった。また、24時間投与では、刺激もしくは	Right Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.  3 信頼性なし  27  terephthalic acid 100-21-0  A 10 ml application of an oily paste containing 80% terephthalic acid to equal sites on the hand was not irritating. Also, a 24
注釈 方法 方式 方法 方式	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)  27  テレフタル酸 100-21-0  テレフタル酸を80%含む油性ペーストを手の平板部に10ml投与	Rased on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.  3 信頼性なし  27  terephthalic acid 100-21-0  A 10 ml application of an oily paste containing 80% terephthalic acid to equal sites on the hand was not irritating. Also, a 24 hour application did not produce any signs of irritation or
注釈 方法 / ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果  結論 結論 注釈 信頼性 ニースタディ 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考  5-11 ヒト暴露の経験 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 製造/加工/使用情報 研究が表 製造/加工/使用情報 研究が表 を表	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)  フフタル酸 100-21-0  デレフタル酸 100-21-0  デレフタル酸を80%含む油性ペーストを手の平板部に10ml投与したが、刺激はなかった。また、24時間投与では、刺激もしくは	Right Based on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.  3 信頼性なし  27  terephthalic acid 100-21-0  A 10 ml application of an oily paste containing 80% terephthalic acid to equal sites on the hand was not irritating. Also, a 24
注釈 方法 / ガイドライン GLP適合 試験を行った年 試験条件 結果 結論 結論 注釈 信頼性の判断根拠 出典 引用文献(元文献) 備考 5-11 ヒト暴露の経験 試験物質名 CAS番号 純度等 注釈 製造/加工/使用情報 研究デザイン 仮説検証 要別で、デザイン の説検証 要別で、対験を関 を発表している。 を表現している。 を表現して	不明  テレフタル酸の尿溶解度に基づいて、約8mMから16mMのテレフタル酸濃度において、正常な人尿はテレフタル酸カルシウムで飽和した。 人による平均排尿量が1.5リットル/日と仮定すると、テレフタル酸の最低飽和濃度を示す、テレフタル酸の吸収量は2400mg/日である。  4 信頼性評価不能(MSDS等)  フフタル酸 100-21-0  デレフタル酸 100-21-0  デレフタル酸を80%含む油性ペーストを手の平板部に10ml投与したが、刺激はなかった。また、24時間投与では、刺激もしくは	Rased on urinary solubility of terephthalic acid, normal human urine would become saturated with calcium—terephthalate at a terephthalic concentration of approximately 8 to 16 mM. Assuming that the average volume of urine excreted by humans is 1.5 liters/day, the amount of terephthalic acid that would have to be absorbed to produce the minimum saturating concentration of terephthalic acid is 2400 mg/day.  3 信頼性なし  27  terephthalic acid 100-21-0  A 10 ml application of an oily paste containing 80% terephthalic acid to equal sites on the hand was not irritating. Also, a 24 hour application did not produce any signs of irritation or

% <del>库</del>	I	
発病頻度		
相関		
相関 分布		
研究提供者等		
注釈		
注釈 結論 結論 注釈		
結論		
注釈		
【信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Massman. (1966) Inst Fuer Arbeitsmedizin der Uni Tuebingen, 1966	Massman. (1966) Inst Fuer Arbeitsmedizin der Uni Tuebingen, 1966
引用文献(元文献)		
備考		

# 6 参考文献(以下に欄を追加の上、一文献について一行にて一覧を記載)

文献番号(半角数字: 自動的に半角にな	詳 細(OECD方式での記入をお願いします。下の記入例参照。)
1	Tomida, Yotsiyanag, Ikeda. (1978): Chem Pharm Bull 261, 2824–2831 transplacental transport of terephthalic acid in Fischer-344 rats. Drug Metab Dispos 10, 486–490
2	Dunn, Johnson. (1983) Plank Struct Act Relat 2 156-163
	Satsumabayashi, Kurita, Yokouchi, Ueda. (1990): Atmospheric Environment 24A, 1443-1450
	Matsumoto. (1982): Water Res. 16, 551-557
5	Anna, Ploeger, Reupert. (1984): Gewaesserschutz, Wasser, Abwasser 65, 315-331
	Kubota. (1979): Ecotoxicol. Environ. Safety 3, 256-268
7	Thakur, Jain, Hruban, Santavy. (1975): Planta Med. 28, 172-173
8	Kurelec, Povse, Rijavec, Japelj, Globokar, Zupet (1972): Vet. Arh. 42(1-2), 5-11
9	Yoshioka, Ose, Sato (1985): Sci. Total Environ. 43, 149-157
10	Tabuse, Y., Miwa, J. (1986) Dev. Growth Differ. 28(4): 410 [BIOSIS/87/05608]
11	Isogai, Komoda, Okamoto (1972): Sci. Pap. Coll. Gen. Educ., Univ. Tokyo 22(2), 129-135
12	Pepper, Slinger, Summers, McConachie (1967): Poult. Sci. 46(2), 411-417
13	Caujolle et al. (1991) Comptes Rendus 160, 1079-1100 1966
14	Hoshi A, Yanai R, Kuretani K. (1968) Toxicity of terephthalic acid Chem Pharm Bull 16 1655-1660
15	Grigas EO, Ruiz R, Ariado DM. (1971) Cardiopulmonary effects of antimalarial drugs IV terephthalic acid and its dihydroxamic derivative. Toxicol Appl Pharmacol 18, 469-486
16	Moffitt AE, Clary JJ, Lewis TR, Blanck MD, Perone VB. (1975) Absorption, distribution, and excretion of terephthalic acid and dimethyl terephthalate. Amer Ind Hyg Assoc J 36, 633-641
17	Zeiger E, Haworth S, Mortelmans K, Speck W. (1985) Mutagenicity testing of di(2-ethylhexyl)phthalate and related chemicals in Salmonella. Environ Mutagen 7, 213-232
18	Nagasawa H, Fujimoto M. (1973) Experimentia 29, 89. Cited in BIBRA Toxicity Profile 1995
19	Ryan BM, Hatoum NS, Jernigan JD. (1990) A segment II inhalation teratology study of terephthalic acid in rats. Toxicologist 10, 40
20	Hoshi A, Kuretani K. (1967) Metabolism of terephthalic acid III. Absorption of terephthalic acid from the gastrointestinal tract and detection of its metabolites. Chem Pharm Bull 15, 1979–1984
21	Hoshi A, Kuretani K. (1968) Distribution of terphthalic acid in tissues. Chem Pharm Bull 16, 131–135
22	Hoshi A, Kuretani K. (1965) Metabolism of terphthalic acid I. Excretion of terephthalic acid in urine. Yakugaku Zasshi 85, 905-908
23	Tremaine LM, Quebbemann AJ. (1985) The renal handling of terephthalic acid. Toxicol Appl Pharmacol 77(1), 165-74
24	Heck Hd'A (1981) Chemical urolithiasis 2. Thermodynamic aspects of bladder stone induction by terephthalic acid and dimethyl terephthalate in weanling Fischer-344 rats. Fundam Appl Toxicol 1(4), 299-308
25	Wolkowski-Tyl R, Chin TY, Heck Hd'A (1982) Chemical urolithiasis. 3. Pharmacokinetics and transplacental transport of terephthalic acid in Fischer-344 rats. Drug Metab Dispos 10, 486-490
26	Hoshi A, Yanai R, Kuretani K. (1968) Metabolism of terephthalic acid II. Plasma concentration of terephthalic acid and its biological half-life Yakugaku Zasshi 86 963–967 [Chem Abstr 66 9665 1967]
27	Heck, H. d'A., and Tyl, R.W. (1985) The induction of bladder stones by terephthalic acid, dimethyl terepthalate, and melamine (2,4,6-triamino-s-triazine and its relevance to risk assessment. Regul. Toxicol. Pharmacol. 5, 294-313.